

2020年度入試状況分析



私立大分析<512 大学集計(志願者数確定募集単位)>

※文中の()内の数値は、志願者数あるいは合格者数の前年度対比指数を表します。

Point of Data

①志願状況全体概況

- 延べ志願者数は14年ぶりの減少
- センター利用方式は5年ぶりの減少

②系統別志願・合格状況

- 私立大志願者の人気の高い系統は文系から理・工系へ
- センター利用方式の志願者数は、文系の系統で15%以上の大幅減少が目立つ
- 全体の合格者数は増加し、一部の系統を除き競争は緩和

③地区別志願・合格状況

- 志願者数は首都圏、近畿の減少が全体の減少に直結
- 合格者数は全地区で増加、特に近畿の競争緩和が目立つ

④模試合格判定ライングループ別志願・合格状況

- 文系は難関のA・Bグループが10%前後の減少、増加は合格目標ラインの低いEグループのみ
- 合格者数は文理とも全グループで増加

⑤模試合格判定ライングループ別実質倍率

- 文系は合格目標ラインの低いEグループのみ実質倍率アップ、他の4グループははっきりと競争緩和
- 理系は文系ほどの競争緩和はみられず

⑥志願者数が多い大学

- 志願者数5万人以上の大学は18大学、前年度から1大学減少

⑦増減が目立った大学

- 大都市部の難関大で目立つ減少

⑧主要私立22大学 入試結果概況

- 志願者数が増加したのは日本大、立命館大、京都産業大の3大学のみ
- 合格者数は14大学で増加、競争は22大学全てで緩和

⑨大学別志願状況

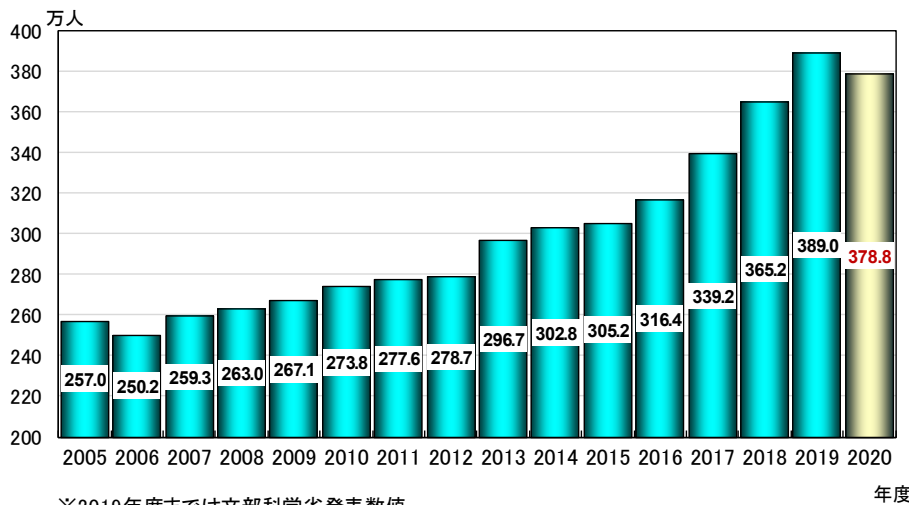
⑩医学部医学科志願状況

- 既卒志望者減少などの影響で2年連続減少

①志願状況全体概況

□延べ志願者数は14年ぶりの減少

〔私立大一般選抜入試 志願者数推移〕



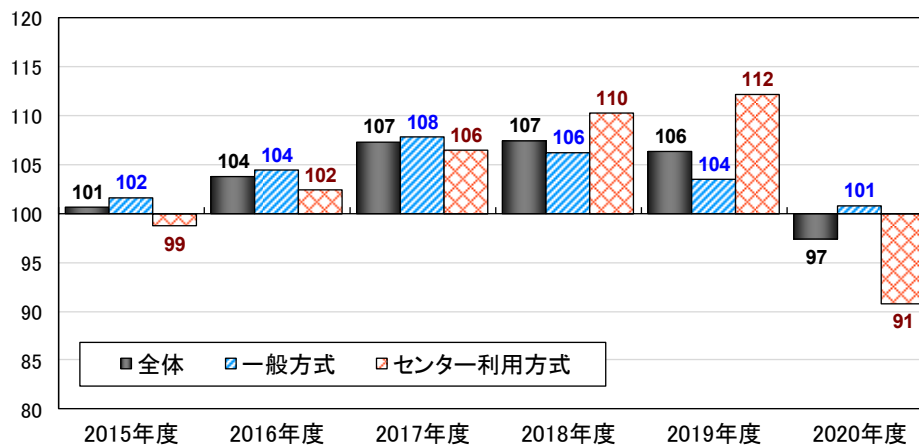
駿台が志願者数の確定した募集単位を集計した512大学の一般選抜入試(AO・推薦入試等の特別選抜入試を除く)の延べ志願者数は、376.7万人(97)で前年度より約3%減少しました。

この数値から推定される最終的な全私立大の延べ志願者数も14年ぶりに減少して、379万人前後になるものと予想されます。これは、2020年度入試では、前年度の弱気な出願動向、いわゆる「安全志向」

により、難易度レベルを下げて大学に進学した受験生が多く、これにより既卒受験生が減少したことに加えて、結果的には先送りになってしまいましたが、2021年度に予定されていた大きな入試改革への不安から、前年度以上に中堅校のAO・推薦入試といった特別選抜を利用して大学進学を決定した受験生が多かったことが減少の大きな要因といえます。

□センター利用方式は5年ぶりの減少

〔私立大一般選抜入試 方式別志願者数 前年度対比指数〕



入試方式別では、一般方式(101)が微増の前年度並になっているのに対し、センター利用方式(91)は10%近いはっきりとした減少となりました。

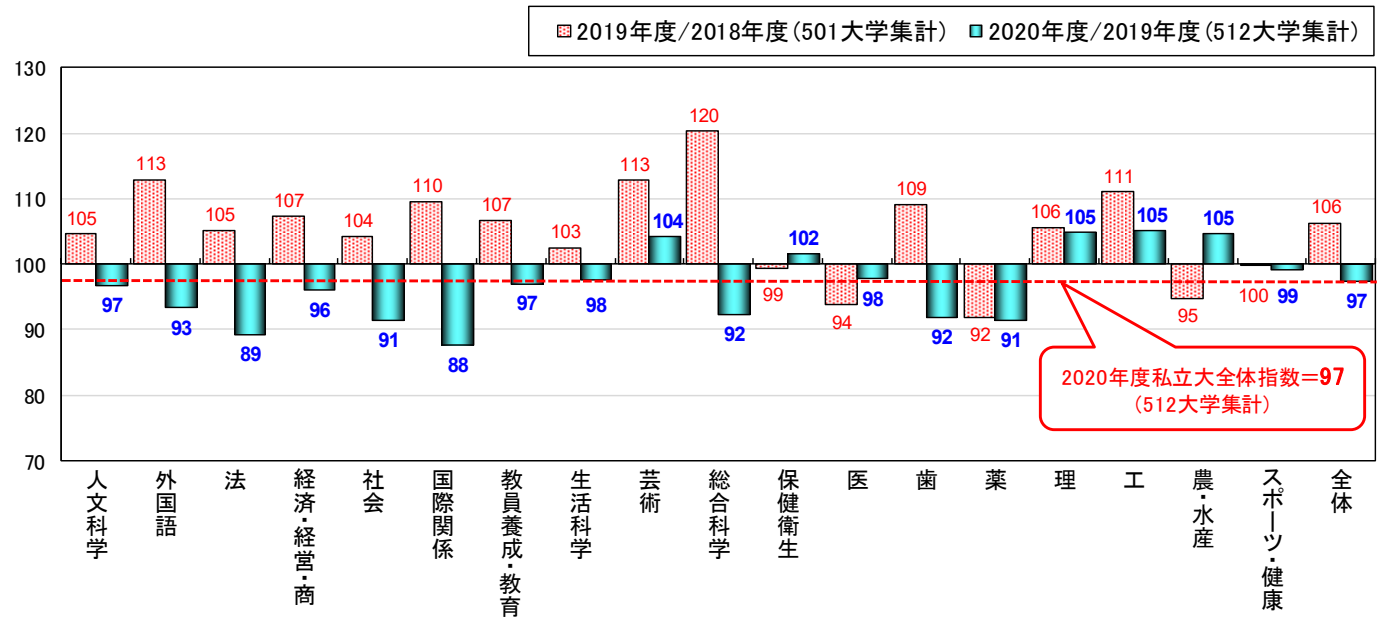
センター利用方式は5年ぶりの減少で、新規に導入された募集単位を除くと、さらに大きく約14%も減少しました。この要因としては、過去2年間は一般方式を上回る増加率で競争が厳しくな

って合格目標ラインが高くなったことによる敬遠傾向と、2020年度センター試験の平均点ダウンによりセンター試験後に出願可能な募集単位への出願が慎重になったことなどが考えられます。

②系統別志願・合格状況

□私立大志望者の人気の高い系統は文系から理・工系へ

〔私立大一般選抜入試 系統別志願状況〕



系統別で増加したのは、理(105)、工(105)、農・水産(105)、芸術(104)、保健衛生(102)の5系統のみでした。先に触れたように、受験人口の減少、AO・推薦入試で大学進学を決定した受験生が多く一般選抜入試を目指した受験生が減少したことに加えて、一般選抜入試の中のセンター利用方式の大幅減少が影響しました。

前年度に増加率が鈍った文系の系統は、全て減少に転じており、文系の減少が全体の減少に直結しました。文系の系統の中では、国際関係(88)の減少率が最も大きくなりました。近年特に増加が顕著な系統でしたが、反動が一気に表れました。大学別では、青山学院大、津田塾大、東京女子大、東洋大、明治学院大、大阪経済法科大などの大幅減少が目立ちました。次に減少率の大きい法(89)は、駒澤大がほぼ半減し、成蹊大、成城大、専修大、東洋大、法政大、大阪経済法科大、摂南大、関西学院大などが大幅減少したことが影響しました。

前年度最も増加率の大きかった総合科学(92)も減少しました。文理のいずれから志願者のいる系統ですが、前年度新設の中央大・国際情報が大前年度の高倍率の反動で半減以下の大幅減少、駒澤大・グローバル・メディア・スタディーズが6割以上の激減、法政大や近畿大なども大幅減少したことが影響しました。

一方で、理(105)、工(105)はいずれもやや増加したことから、私立大志望の受験生の人気の高い系統が文系から理・工系へ移ったことがわかります。細かい専攻別でも、主要な専攻はほとんどが増加し、特に電気・電子・通信工(114)、情報科学(113)の増加が目立ちました。大学別では、千葉工業大(114)の志願者数が初めて10万人を突破したのが目立ちました。農・水産(105)はやや増加しましたが、前年度は約5%の減少だったため、人気が元に戻った状況であることがわかります。また、芸術(104)は、前年度の増加に引き続きやや増加と人気が高まっています。新しい分野として、AR(拡張現実)やVR(仮想現実)といった映像クリエイター系への社会的ニーズの拡大とこの分野への興味を持つ若い世代の増加という背景があります。

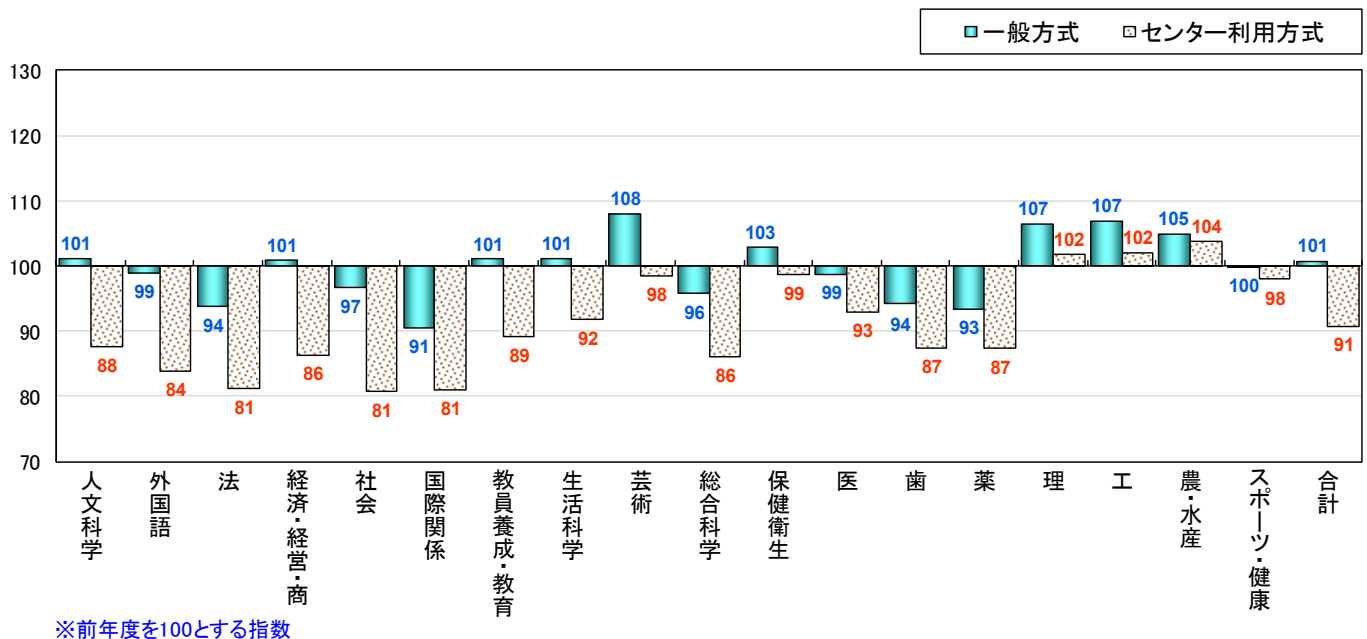
理系の中でも、メディカル系は新設が続いている保健衛生(102)を除き減少し、特に薬(91)、歯(92)の減少が目立ちました。医の入学定員増加に伴う間口拡大の影響が大きく、医の既卒受験生の減少、医から歯や薬への志望変更者の減少に加えて、理・工系と比べて系統自体への人気も低下していることも要因です。薬の大学別では、北里大、昭和大、武蔵野大、摂南大、京都薬科大、福岡大の大幅減少が目立ちました。また、保健衛生は微増でしたが、系統全体の志願者数の半数以上を占める看護(98)は減少が継続しました。

□センター利用方式の志願者数は、文系の系統で15%以上の大幅減少が目立つ

方式別に各系統の志願状況をみると、理、工、農・水産は、一般方式、センター利用方式ともに増加しましたが、他の系統はいずれもセンター利用方式は減少し、センター利用方式の減少が私立大全体の減少につながりました。センター利用方式は、経済・経営・商(86)、人文科学(88)を除いた文系の4系統で15%以上の大幅減少でした。

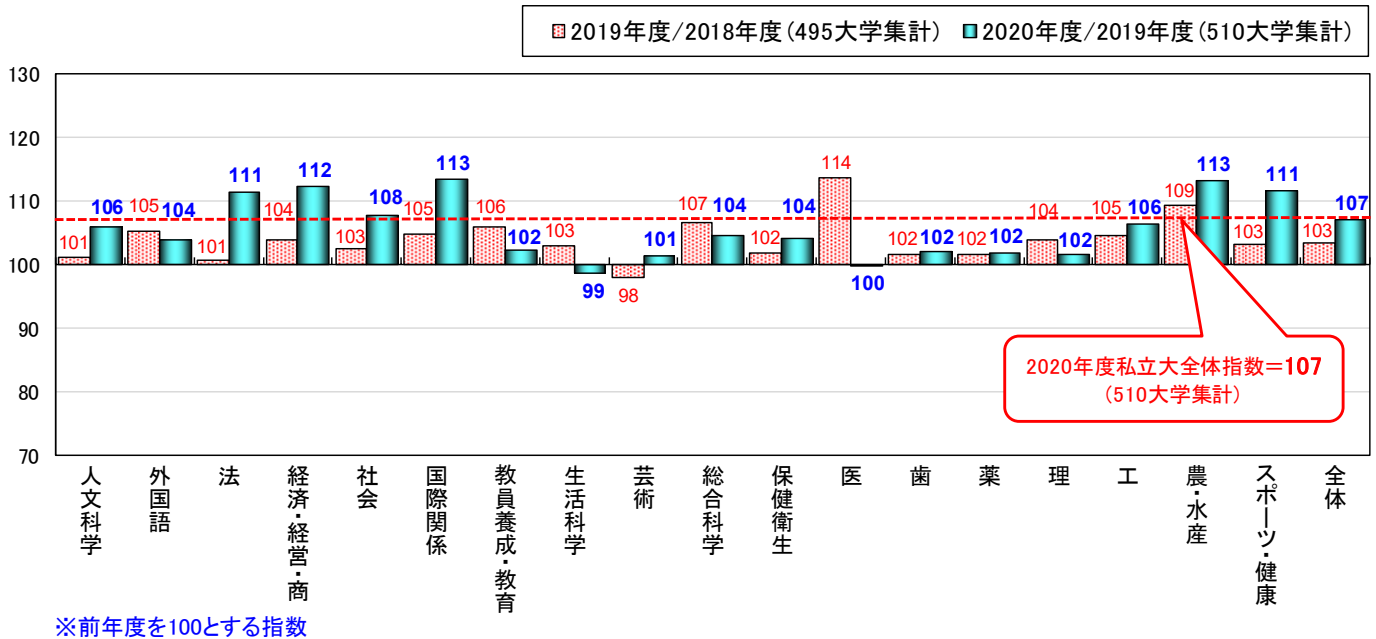
また、文理別でセンター利用方式の減少数をみると、減少数の90%が文系の系統合計の減少数となりました。センター利用方式の減少要因としては、過去2年間は一般方式を上回る増加率で競争が厳しくなって、合格目標ラインが高くなったことによる敬遠傾向と、2020 年度センター試験の平均点ダウンによりセンター試験後に出願可能な募集単位への出願が慎重になったことなどが考えられます。特に文系では併願時の受験料割引制度を利用して、受験料が安価で、さらに受験対策や日程的な負担が少ないセンター試験の成績のみで合否が決まる募集単位が多いセンター利用方式での併願が多くみられました。しかし、この方式への出願が大きく減少したことが全体の減少につながりました。

〔私立大一般選抜入試 系統別・方式別志願状況〕



□全体の合格者数は増加し、一部の系統を除き競争は緩和

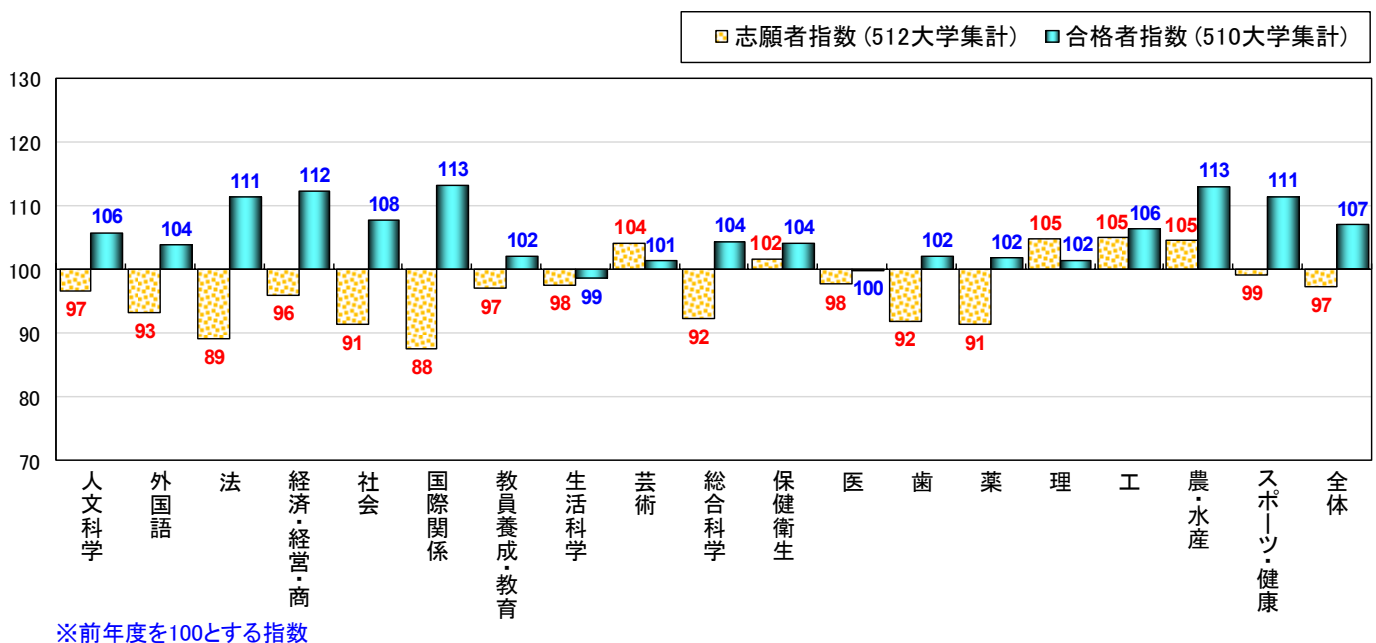
〔私立大一般選抜入試 系統別合格状況〕



駿台が集計した私立大510大学の合格者数(107)はやや増加で、2年連続増加となりました。系統別では、18系統中15系統で増加しましたが、私立大の中で最も募集人員の多い経済・経営・商(112)、次いで多い工(106)の増加数が多かったことが全体の増加に大きく影響しました。

志願者数の増減率と比べると、一部の系統を除き、競争が緩和したことがわかります。特に文系の系統は、前年度は6系統全てで志願者数増加率が合格者数増加率より大きかったのに対し、2020年度は反対に6系統全てで志願者数減少、合格者数増加となったことで、競争緩和がはっきりしたことがわかります。特に国際関係(113)、法(111)はいずれも20ポイント以上の大きな差で、競争は大幅に緩和したといえます。一方で、理(102)は、志願者数が約5%増加したにもかかわらず、合格者数は微増に留まったことで競争が厳しくなったことも2020年度入試の特徴といえます。また、工(106)は、合格者数の増加率は志願者数の増加率と比べて約1ポイント大きいだけでほぼ前年度並の競争でした。

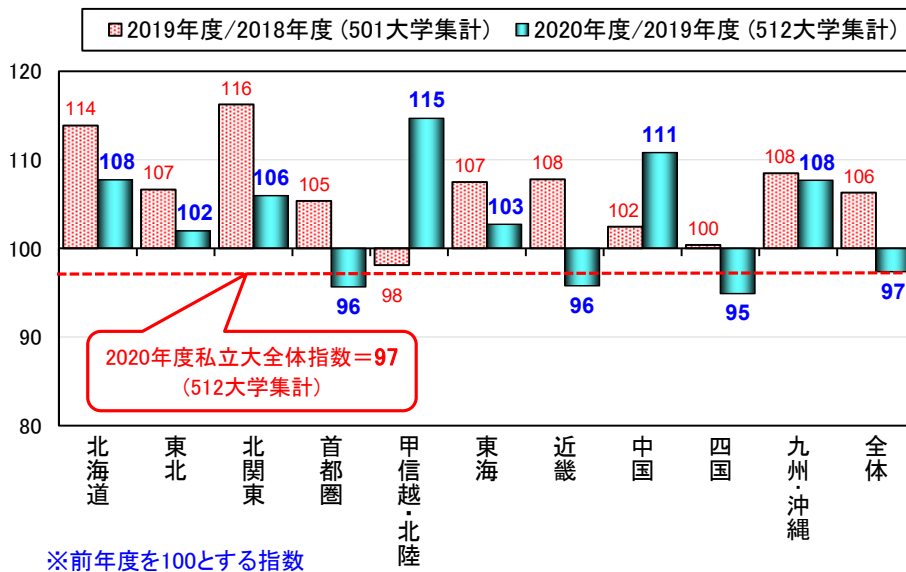
〔私立大一般選抜入試 系統別志願・合格状況〕



③地区別志願・合格状況

□志願者数は首都圏、近畿の減少が全体の減少に直結

〔私立大一般選抜入試 地区別志願状況〕



大学の所在地別志願者数は、地方部の甲信越・北陸(115)、中国(111)、北海道(108)、九州・沖縄(108)、北関東(106)と地方での「地元志向」による増加が強く表れました。なお、北海道は、前年度は私立大として募集を行った千歳科学技術大を前年度の集計から除くと、(115)の大幅増加でした。

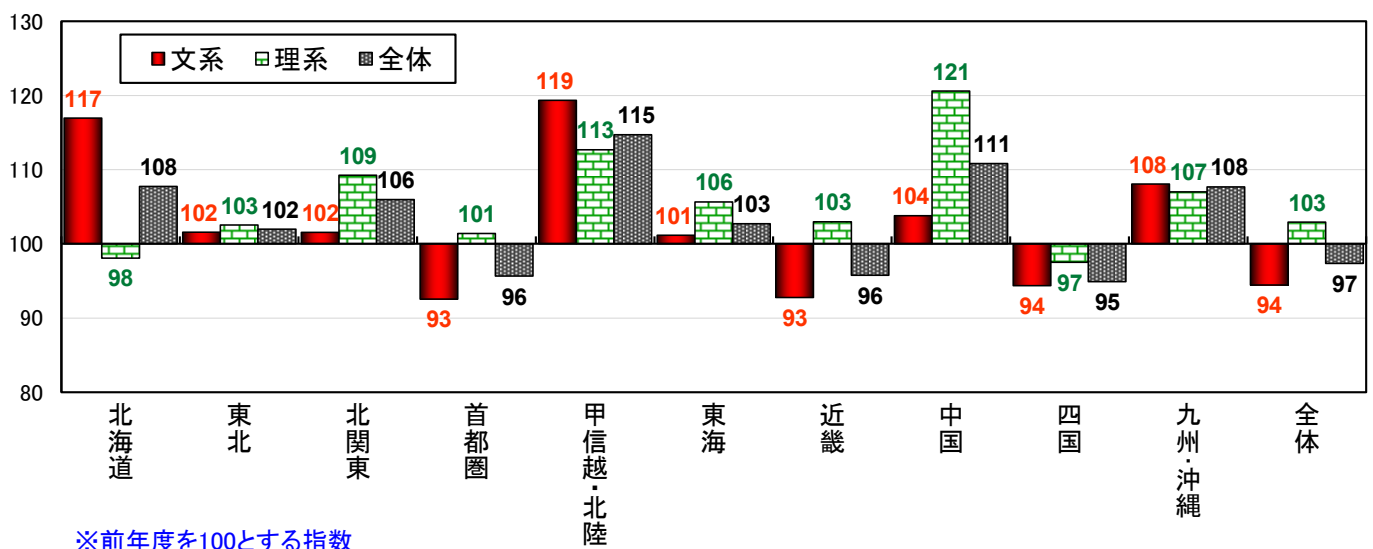
一方で、募集人員の多い大規模な総合大学が多い都市部の首都圏(96)、近畿(96)は減少しました。いずれも減少率が全体の減少率より

りわずかですが大きく、この2地区の減少が全体の減少に直結しました。

全体の志願者数の約57%を占める首都圏では、埼玉(106)、千葉(113)、神奈川(111)は増加しましたが、首都圏全体の志願者数の80%以上を占める東京(93)は減少しました。このように東京の大学を敬遠して、周辺の大学に出願した受験生が多くなったのは、弱気な出願動向から首都圏でも「地元志向」が強まったことが要因といえます。また、近畿は大阪(94)、兵庫(91)の減少が地区全体の減少に直結しました。

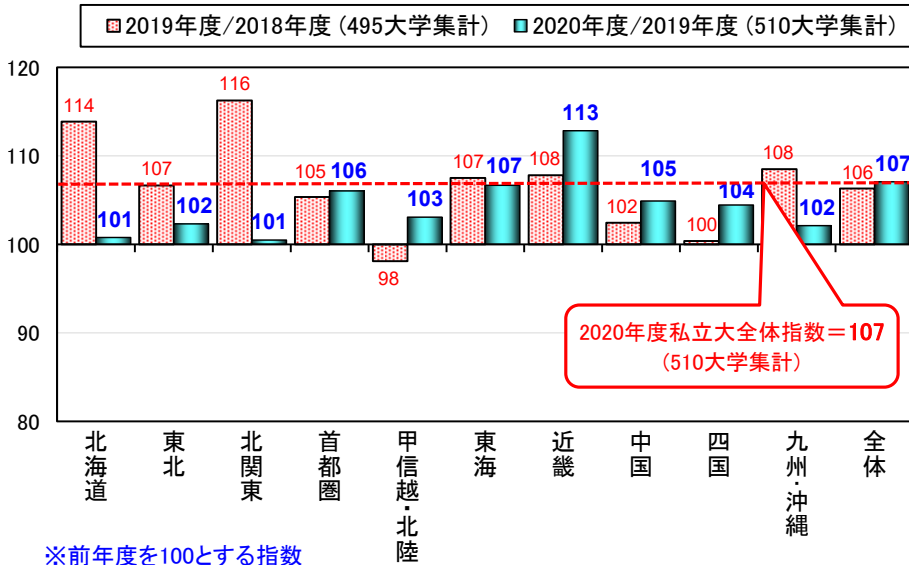
地区ごとに文理別で集計すると、理系(103)は北海道(98)、四国(97)の2地区のみ減少しましたが、北海道は、先に触れたように千歳科学技術大を前年度の集計から除くと、(113)の増加でした。四国はやや減少でしたが、徳島文理大・理工(141)は理・工系人気の上昇で大幅増加しました。また、中国の理系(121)の大幅増加は、岡山理科大(146)の大幅増加が影響しました。理系は首都圏(101)が微増、近畿(103)はやや増加したことから、理・工系の人気上昇が全国的なものであることがわかります。

〔私立大一般選抜入試 地区別・文理別志願状況〕

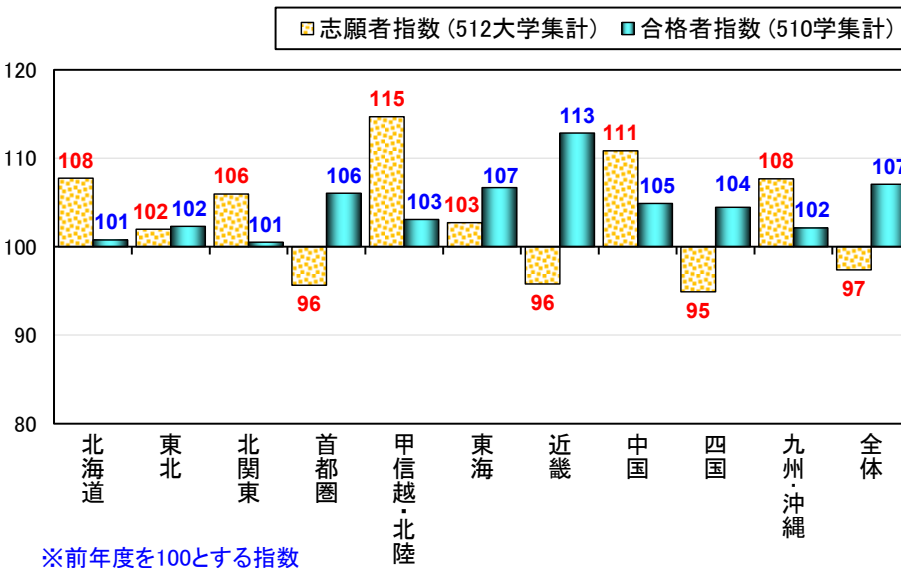


□合格者数は全地区で増加、特に近畿の競争緩和が目立つ

〔私立大一般選抜入試 地区別合格状況〕



〔私立大一般選抜入試 地区別志願・合格状況〕



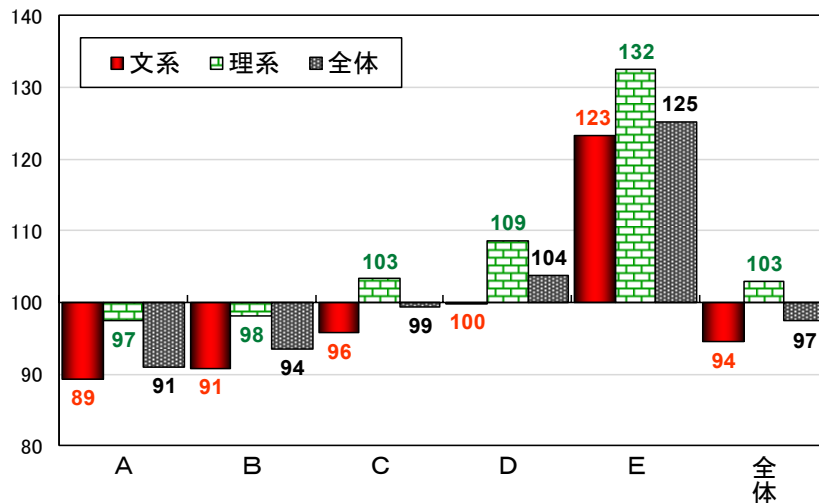
大学の所在地別合格者数は、10地区全てで増加しました。なお、北海道は、前年度は私立大として募集を行った千歳科学技術大を前年度の集計から除くと、(103)のやや増加でした。

志願者数の増減率と比べると、北海道(101)、北関東(101)、甲信越・北陸(103)、中国(105)、九州・沖縄(102)と志願者数増加が目立った5地区は競争が厳しくなりました。

一方で、首都圏(106)、東海(107)、近畿(113)、四国(104)は競争が緩和しました。近畿は唯一10%を上回る増加率でした。これは、龍谷大、近畿大、摂南大、神戸学院大といった大規模な総合大学の合格者数が大幅増加したことが大きく影響しましたが、志願者数は約4%減少したことから、競争緩和が最も目立った地区となりました。

④模試合格判定ライングループ別志願・合格状況

□文系の志願者数は難関のA・Bグループが10%前後の減少、
増加は合格目標ラインの低いEグループのみ



※前年度を100とする指数

＜集計について＞

※一般方式とセンター利用方式に分けて、
各大学の学部単位で最もB判定ラインの
高い募集単位を代表値として集計。

※医学科は分けて集計。

＜第3回駿台・ベネッセマーク模試のB判定ライン＞

Aグループ=65以上

Bグループ=60～64

Cグループ=55～59

Dグループ=50～54

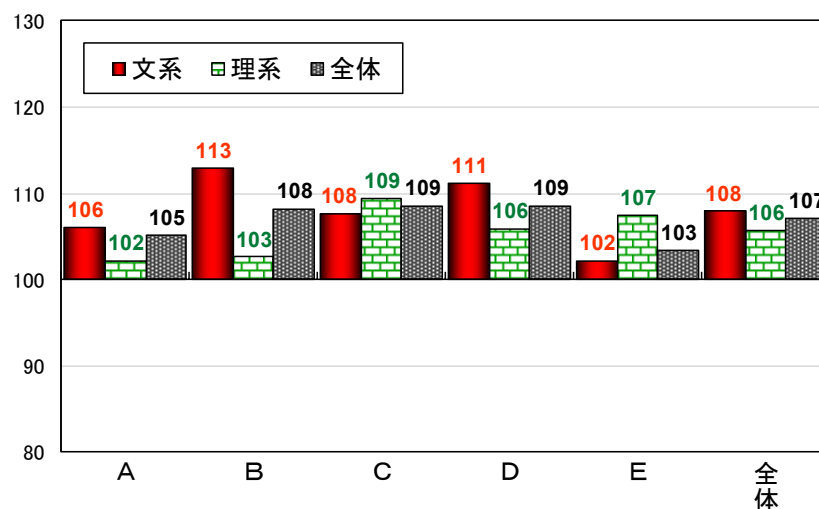
Eグループ=49以下

上のグラフは、私立大512大学の一般選抜入試の志願者数集計において、第3回駿台・ベネッセマーク模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ～下位Eグループ)に分類し、各グループの志願者数合計の前年度対比指数を示したものです。

文理別では、理系(103)はやや増加しましたが、文系(94)はやや減少と対照的でした。文系では、合格目標ラインの低いEグループ(123)は大幅増加しましたが、その他の4グループは減少しました。減少率は上位グループほど大きくなり、特にAグループ(89)、Bグループ(91)といった難関のグループは10%前後の減少で、文系の弱気な出願動向が強まったことがわかります。

一方で、理系も難関のグループは減少しましたが、Aグループ(97)がやや減少、Bグループ(98)は微減に留まりました。理・工系の人気上昇によって、理系の難関グループは文系のようなはっきりとした弱気な出願動向にならなかったといえます。理系のその他の3グループは増加しました。増加率は下位グループほど大きくなり、特にEグループ(132)は大幅増加しました。これは合格確保のための慎重な出願が要因といえます。

□合格者数は文理とも全グループで増加



※前年度を100とする指数

＜集計について＞

※一般方式とセンター利用方式に分けて、
各大学の学部単位で最もB判定ラインの
高い募集単位を代表値として集計。

※医学科は分けて集計。

＜第3回駿台・ベネッセマーク模試のB判定ライン＞

Aグループ=65以上

Bグループ=60～64

Cグループ=55～59

Dグループ=50～54

Eグループ=49以下

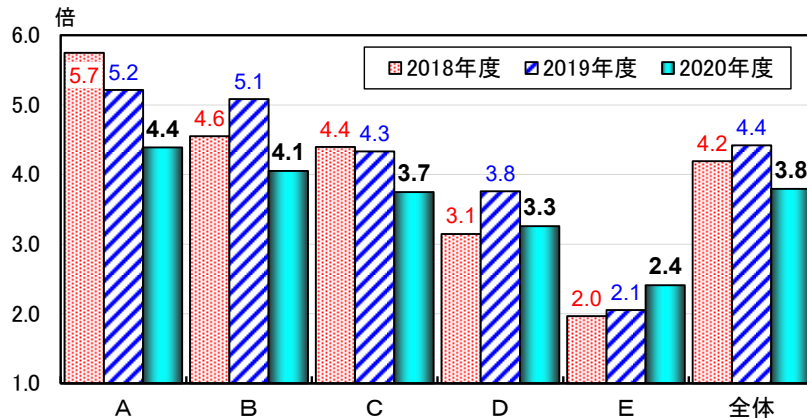
上のグラフは、私立大510大学の一般選抜入試の合格者数集計において、第3回駿台・ベネッセマーク模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ～下位Eグループ)に分類し、各グループの合格者数合計の前年度対比指数を示したものです。

文理別では、文系(108)、理系(106)のいずれも増加しました。文系は5グループ全てで増加しましたが、A～Dの4グループはいずれも志願者数が減少したため、競争が緩和したことがわかります。また、Eグループ(102)は志願者数が約23%もの大幅増加だったため、文系の中では特に競争が厳しくなりました。Eグループは、AO・推薦入試といった特別選抜入試ですでに相当数の入学者を確保済みの大学が多く、一般選抜入試での合格者数を多くできないことが影響しました。

理系は、志願者数増加率よりも3ポイント大きく、文系同様に全体では競争は緩和したといえます。グループ別に志願者数と合格者数の増減率を比べると、Aグループ(102)、Bグループ(103)、Cグループ(109)では競争が緩和したことがわかります。一方で、Dグループ(106)、Eグループ(107)はいずれも競争が厳しくなりましたが、特にEグループは志願者数が約32%もの大幅増加のため、激戦だったことがわかります。

⑤模試合格判定ライングループ別実質倍率

□文系はEグループのみ実質倍率アップ、他の4グループははっきりと競争緩和



※2020年度基準で2020年度・2019年度を分類、2018年度は2019年度基準で分類。

＜第3回駿台・ベネッセマーク模試のB判定ライン＞
 Aグループ＝65以上 Dグループ＝50～54
 Bグループ＝60～64 Eグループ＝49以下
 Cグループ＝55～59

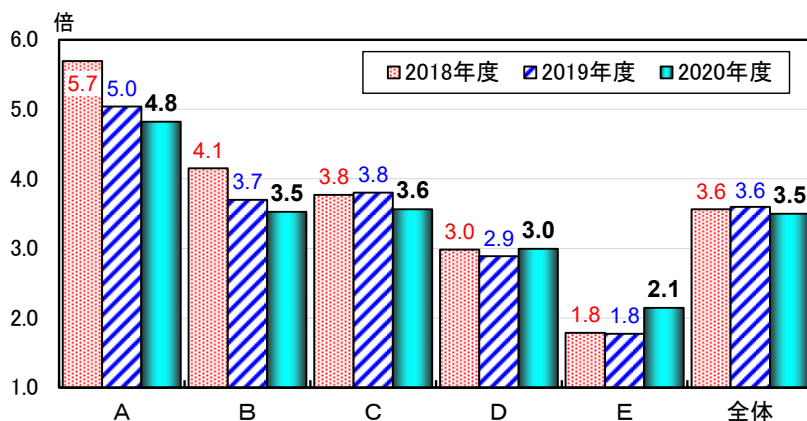
受験者数、合格者数のいずれも判明している募集単位について、学部単位(一般方式とセンター利用方式は分ける)で算出した実質倍率を第3回駿台・ベネッセマーク模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位で5つのグループ(上位Aグループ～下位Eグループ)に分類して3か年分を示したのが左のグラフです。

文系は、全体では4.4倍から3.8倍と0.6ポイントダウンしており、競争は緩和しました。グループ別では、A～Dグループは0.5～1.0ポイントのはっきりとした

ダウンで、競争が緩和しました。一方で、Eグループは0.3ポイントアップで、競争が厳しくなりました。

前年度の文系は、Aグループ以外は競争が厳しくなりましたが、2020年度入試では文系人気の低下に加え、前年度の競争激化から受験生が弱気な出願になったことで、A～Dグループでは競争が緩和したことがわかります。すなわち、2020年度の文系の入試は、難易度の高い大学ほど競争が緩和したため、強気で志望を貫いた受験生にとってはチャンスだったといえます。

□理系は文系のような競争緩和はみられず



※2020年度基準で2020年度・2019年度を分類、2018年度は2019年度基準で分類。

＜第3回駿台・ベネッセマーク模試のB判定ライン＞
 Aグループ＝65以上 Dグループ＝50～54
 Bグループ＝60～64 Eグループ＝49以下
 Cグループ＝55～59

理系は、全体では3.6倍から3.5倍と0.1ポイントダウンに留まって、ほぼ前年度並の競争となり、文系のような競争緩和はみられませんでした。

グループ別でも、文系同様に難易度が低いグループでは競争が厳しくなりましたが、Eグループは0.3ポイントアップ、Dグループは0.1ポイントアップに留まりました。また、A～Cグループは、いずれも0.2ポイントダウンに留まりました。

⑥志願者数が多い大学

□志願者数 5 万人以上の大学は18大学、前年度から 1 大学減少

大学	志願者数		増減数	志願者指数
	2020年度	2019年度		
近畿大	145,320	154,672	-9,352	94
日本大	113,902	100,853	+13,049	113
早稲田大	104,576	111,338	-6,762	94
立命館大	103,669	94,198	+9,471	110
法政大	103,628	115,447	-11,819	90
千葉工業大	103,269	90,876	+12,393	114
明治大	103,035	111,755	-8,720	92
東洋大	101,776	122,010	-20,234	83
関西大	87,625	93,452	-5,827	94
中央大	86,476	92,686	-6,210	93
立教大	61,308	68,796	-7,488	89
青山学院大	57,822	60,404	-2,582	96
東京理科大	56,355	60,593	-4,238	93
東海大	56,285	60,360	-4,075	93
京都産業大	56,220	55,350	+870	102
龍谷大	53,281	55,444	-2,163	96
福岡大	52,126	50,281	+1,845	104
専修大	51,024	56,201	-5,177	91

左表は、一般選抜の志願者数が確定した大学で、大学全体の志願者数が 5 万人以上の大学をまとめたものです。該当する大学は18大学で、前年度と比較すると 1 大学減少しました。

18大学のうち13大学が減少しましたが、これは受験人口の減少に加えて、当初予定されていた2021年度入試での大きな入試改革への不安から志望が弱気になる、いわゆる「安全志向」が強まったことが要因です。特に、難易度アップで慎重な出願になったことが影響した東洋大(83)が 2 万人以上もの大幅減少になったことが目立ちました。

10万人以上だった大学は前年度まで 3 年連続で 6 大学でしたが、2020年度は千葉工業大(114)、立命館大(110)が初めて10万人を突破したことで 8 大学となりました。

近畿大(94)は 2 年連続減少しましたが、7 年連続

で全国最多でした。日本大(113)は前年度減少の反動がはっきりと表れて、1 万 3 千人以上もの増加となり、志願者数は近畿大に次ぐ多さとなりました。千葉工業大は理・工系人気の上昇などで、1 万 2 千人以上のもの増加となり、増加数が日本大に次ぐ多さでした。また、地方での地元志向の高まりにより、前年度首都圏、近畿以外の大学で唯一志願者数が 5 万人を超えた福岡大(104)は、さらにやや増加して 5 万 2 千人を上回りました。

⑦増減が目立った大学

□大都市部の難関大で目立つ減少

一般選抜の志願者数が確定した大学で、志願者数の増加数が 3,000 人以上だった大学、減少数が 5,000 人以上だった大学についてみていきます。

増加した大学で、増加数が最も多かったのは日本大の 13,049 人(113)、次いで千葉工業大の 12,393 人(114)で、1 万人以上の増加は 2 大学でした。千葉工業大は 2 年連続で 1 万人以上増加しました。立命館大(110)は、前年度のセンター利用方式で合格最低点をダウンさせた募集単位が多かった経営(145)、前年度大幅減少の反動の経済(129)、系統への人気上昇している理工(120)などの大幅増加が影響しました。また、九州産業大(150)、関東学院大(122)、東京国際大(173)は、弱気な出願動向から併願先として狙われたことが影響し、東京工科大(134)、埼玉工業大(173)は、主に理・工系の人気上昇が影響して大幅増加しました。大和大(154)は、系統への人気上昇している理工を新設したことが大きく影響しました。

5,000 人以上減少した大学は、前年度の 4 大学から 15 大学へ増加しました。大学別では、早稲田大(94)、中央大(93)、法政大(90)、明治大(92)、立教大(89)、関西大(94)、関西学院大(86)といった大都市部の難関大での減少が目立ちました。これは、当初予定されていた 2021 年度入試での入試改革への不安から、難関国公立大から難関私立大への併願増加による厳しい入試が予想されたため、弱気で慎重な出願(いわゆる「安全志向」)が誘発されたことに加えて、センター利用方式を中心に前年度の合格ラインがアップしたことが影響しました。

減少数が多かった大学では、東洋大(83)、駒澤大(59)の 2 大学が 2 万人前後の減少で突出して目立ちました。

〔3,000人以上増加した大学〕

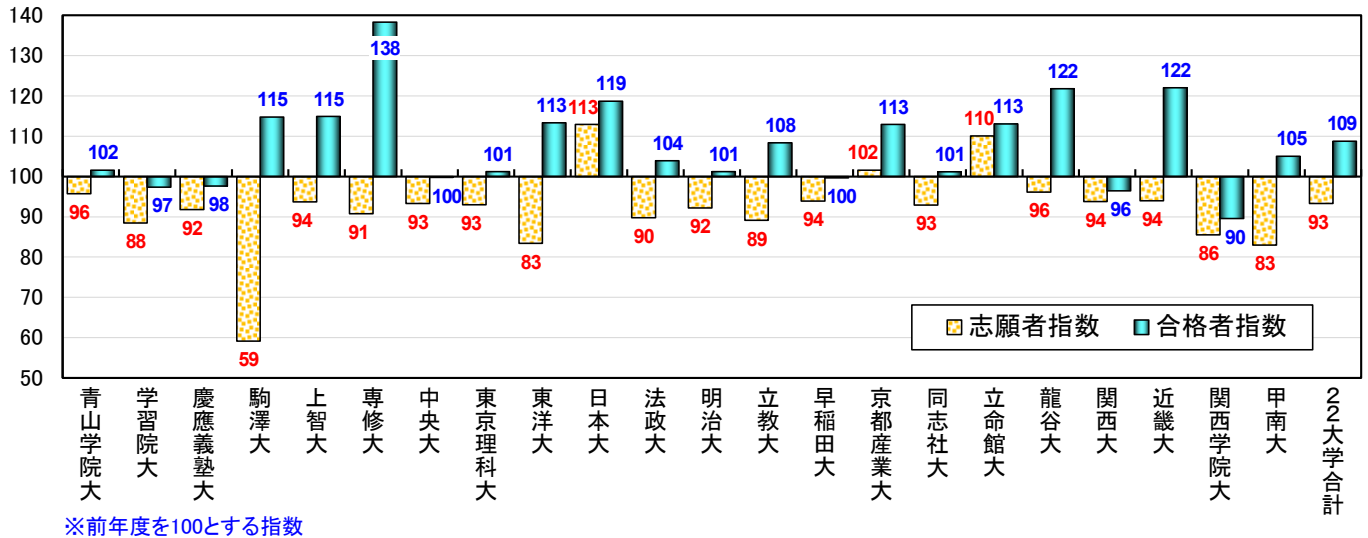
大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2020年度	2019年度	
日本大	+13,049	113	113,902	100,853	前年度に全国で唯一1万人以上も減少した反動がはっきりと表れた。学部別では、危機管理(176)、工(127)、生物資源科学(127)、理工(124)、経済(120)、生産工(120)などが大幅増加。一方で、メディカル系の4学部は、系統への人気低下で全て減少。
千葉工業大	+12,393	114	103,269	90,876	理・工系の人気上昇に加えて、国公立大理系のセンター試験の重い負担を嫌う層から出願校として狙われたことにより、3年連続増加。全学部で増加し、特に情報科学(118)は大幅増加。
立命館大	+9,471	110	103,669	94,198	前年度のセンター利用方式で合格最低点をダウンさせた募集単位が多かった経営(145)、前年度大幅減少の反動の経済(129)、系統への人気上昇している理工(120)などの大幅増加が影響。
九州産業大	+6,245	150	18,805	12,560	弱気な出願動向から併願先として狙われ、5年連続増加。全学部で2年連続大幅増加。
東京工科大	+5,152	134	20,283	15,131	理・工系の人気上昇で大幅増加。全学部で増加したが、特に専攻新設で学科一括募集から専攻別募集になったコンピュータサイエンス(182)、デザイン(182)、応用生物(150)はいずれも大幅増加。
神奈川大	+3,776	112	36,471	32,695	国際日本の新設が大きく影響したが、既存の学部のみでは(97)のやや減少。経営(114)は、みなとみらいキャンパスへの移転効果で6年連続増加。
関東学院大	+3,535	122	19,932	16,397	弱気な出願動向から併願先として狙われ、3年連続増加。学部別では、教育(91)を除いた10学部が増加。増加数では、系統への人気上昇している理工(132)の増加数が最多で、全体の3分の1以上を占めた。
埼玉工業大	+3,230	173	7,648	4,418	2学部とも70%以上の激増。特に工(171)が系統への人気上昇と弱気な出願動向から併願先として狙われ、2,530人もの激増だったことが大きく影響。
大和大	+3,039	154	8,699	5,660	理工の新設で大幅増加。増加数のほぼ全てが理工の志願者数だった。既存の3学部のみでも(101)の微増で、学部別では、保健医療(121)の大幅増加、教育(87)の減少が目立った。
東京国際大	+3,034	173	7,169	4,135	弱気な出願動向から併願先として狙われ、3年連続大幅増加。5学部全てが大幅増加し、特に経済(216)、商(215)が倍増以上の激増となり、2学部合計で2,000人以上増加したことが大きく影響。

〔5,000人以上減少した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2020年度	2019年度	
東洋大	-20,234	83	101,776	122,010	難易度アップで慎重な出願になったことが影響。方式別では、センター利用方式(68)が大幅減少。前年度の合格最低点をアップさせたことが要因で、大学全体の減少数の約83%がセンター利用方式での減少数。
駒澤大	-19,890	59	28,825	48,715	前年度志願者数が約9%増加したにもかかわらず、合格者数を17%減少させたことで厳しい入試になったことから敬遠された。2方式とも大幅減少だが、特にセンター利用方式(41)は前年度の合格最低点が大きくアップしたことが影響し、60%近い大幅減少。
法政大	-11,819	90	103,628	115,447	前年度合格最低点をアップさせたセンター利用方式(80)の大幅減少が大きく影響。特に3教科型のくセ・B方式(77)の減少数は7,300人以上で、大学全体の減少数の60%以上を占めた。
摂南大	-9,937	74	28,575	38,512	農を新設したが、6年連続増加の反動がはっきりと表れ、1万人弱減少。既存の学部のみでは、15,006人(61)の大幅減少。7学部全てが30%以上の大幅減少で、特に外国語(55)、経営(57)、法(58)の減少率の大きさが目立った。
近畿大	-9,352	94	145,320	154,672	理系8学部合計(102)では微増したが、文系6学部は全て減少し、合計では(87)の減少だったことが影響。
明治大	-8,720	92	103,035	111,755	弱気な出願動向から2年連続減少。10 学部中増加したのは、政治経済(143)のみで、前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、経営(69)、法(83)、商(84)は大幅減少。
立教大	-7,488	89	61,308	68,796	センター利用方式(80)の大幅減少が大きく影響。大学全体の減少数の約70%がセンター利用方式の減少数。
早稲田大	-6,762	94	104,576	111,338	最難関大を敬遠する傾向が影響して、2年連続減少。学部別では、基幹理工(103)、文(102)のみ増加。
大阪経済法科大	-6,689	60	10,185	16,874	7年連続増加の反動がはっきりと表れ、ほぼ前年度増加数分が減少。4学部全てが40%前後の大幅減少。
中央大	-6,210	93	86,476	92,686	開設2年目の国際情報(48)、国際経営(68)がいずれも大幅減少で、この2学部合計の減少数が大学全体の減少数の80%以上を占めた。
関西大	-5,827	94	87,625	93,452	弱気な出願動向から4年ぶりに減少したが、特に社会安全(75)、社会(82)、政策創造(85)の大幅減少が影響。
関西学院大	-5,617	86	33,209	38,826	弱気な出願動向から3年連続減少。方式別でも一般方式(87)、センター利用方式(82)のいずれも3年連続減少。センター利用方式は、理工で新規実施方式があったが、大幅減少となった。学部別でも全学部が減少し、11 学部中7学部が志願者数15%以上の大幅減少。
芝浦工業大	-5,600	88	40,905	46,505	弱気な出願動向から4年ぶりに減少。4学部全てが一般方式、センター利用方式のいずれも減少。
明治学院大	-5,424	80	21,050	26,474	2方式とも2年連続減少だが、特にセンター利用方式(63)は合格者数を2年連続で大幅に絞り込んだ学部・学科が多かったことで敬遠され、2年連続大幅減少。
専修大	-5,177	91	51,024	56,201	4年連続増加の反動が表れ、新設・廃止学部を除くと、(83)の大幅減少。既存の学部別では、商(106)のみ神田キャンパスへの移転効果で増加。一方で文(69)、法(71)、経営(79)は大幅減少。

⑧主要私立22大学 入試結果概況

□志願者数が増加したのは日本大、立命館大、京都産業大の3大学のみ



大学	2020年度		2019年度		増減数		志願者指数		合格者指数	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	2020年度/2019年度	2019年度/2018年度	2020年度/2019年度	2019年度/2018年度
青山学院大	57,822	8,262	60,404	8,136	-2,582	+126	96	96	102	111
学習院大	16,932	3,656	19,143	3,756	-2,211	-100	88	94	97	107
慶應義塾大	38,454	8,590	41,875	8,797	-3,421	-207	92	97	98	100
駒澤大	28,825	8,139	48,715	7,093	-19,890	+1,046	59	109	115	83
上智大	26,156	5,476	27,916	4,765	-1,760	+711	94	90	115	94
専修大	51,024	11,559	56,201	8,355	-5,177	+3,204	91	123	138	99
中央大	86,476	17,026	92,686	17,059	-6,210	-33	93	105	100	112
東京理科大	56,355	15,727	60,593	15,539	-4,238	+188	93	107	101	98
東洋大	101,776	27,048	122,010	23,868	-20,234	+3,180	83	106	113	111
日本大	113,902	34,060	100,853	28,689	+13,049	+5,371	113	88	119	98
法政大	103,628	18,591	115,447	17,896	-11,819	+695	90	94	104	102
明治大	103,035	22,304	111,755	22,040	-8,720	+264	92	93	101	104
立教大	61,308	12,152	68,796	11,218	-7,488	+934	89	96	108	107
早稲田大	104,576	14,513	111,338	14,566	-6,762	-53	94	95	100	100
京都産業大	56,220	9,834	55,350	8,708	+870	+1,126	102	109	113	142
同志社大	49,946	15,412	53,751	15,232	-3,805	+180	93	92	101	94
立命館大	103,669	30,962	94,198	27,387	+9,471	+3,575	110	96	113	110
龍谷大	53,281	12,625	55,444	10,366	-2,163	+2,259	96	107	122	110
関西大	87,625	16,189	93,452	16,789	-5,827	-600	94	101	96	104
近畿大	145,320	34,034	154,672	27,893	-9,352	+6,141	94	99	122	108
関西学院大	33,209	8,332	38,826	9,304	-5,617	-972	86	92	90	94
甲南大	18,999	4,546	22,891	4,329	-3,892	+217	83	116	105	97
22大学合計	1,498,538	339,037	1,606,316	311,785	-107,778	+27,252	93	99	109	104

◇指数は、いずれも前年度を100とする数値を表す。

上のグラフと表は、2020年度入試における主要私立22大学の大学別入試結果をまとめたものです。

志願者数が増加したのは、日本大(113)、立命館大(110)、京都産業大(102)の3大学のみで、22大学合計(93)では2年連続減少となりました。減少数は前年度の約5.7倍増となりましたが、これは受験人口の減少に加えて、前年度厳しかったセンター利用方式への敬遠と当初予定されていた2021年度の大規模な入試改革への不安から志望が弱気になる、いわゆる「安全志向」が強まったことが要因です。

大学別では、駒澤大(59)、東洋大(83)の2万人前後という減少数の多さが目立ちました。駒澤大は、前年度志願者数が約9%増加したにもかかわらず、合格者数を17%減少させるという厳しい入試だったことから敬

遠されました。特にセンター試験利用方式(41)は、前年度の合格最低点が大きくアップしたことが影響して6割近い大幅減少となり、大学全体の減少数の約66%がセンター利用方式での減少数でした。

東洋大は、前年度まで志願者数が5年連続増加し、近畿大に次いで全国で2番目の志願者数となり、これに伴い難易度がアップしたことにより慎重な出願となりました。特にセンター利用方式(68)は、駒澤大同様に前年度の合格最低点をアップさせたことが影響して30%以上の大幅減少となり、大学全体の減少数の約83%がセンター利用方式での減少数でした。

最難関大の慶應義塾大(92)は3年連続減少、早稲田大(94)は2年連続減少でした。いずれも最難関大を敬遠する傾向が影響しました。

京阪神地区の8大学で増加した2大学のうち、立命館大は志願者数が初めて10万人を突破しました。15学部中増加したのは8学部でしたが、経営(145)、経済(129)、理工(120)などの大幅増加が影響しました。

近畿大(94)は2年連続減少でしたが、志願者数は145,320人と7年連続で全国最多でした。文理別では、理系8学部合計(102)では微増でしたが、文系6学部は人気低下のため全て減少し、合計(87)では減少と対照的な志願状況でした。

□合格者数は16大学で増加、競争は22大学全てで緩和

合格者数は16大学で増加し、22大学合計(109)では2年連続増加となりました。増加数は前年度の約2.4倍増となりました。志願者数と合格者数の増減率を比べると、志願者数が増加した3大学も含めて22大学全てで競争が緩和しました。

大学別では、2,000人以上増加した大学は前年度の4大学から6大学に、15%以上の大幅増加だった大学は前年度の1大学から6大学にそれぞれ増加しました。大学別では、近畿大(122)が6,141人、日本大(119)は5,371人といずれも20%前後の大幅増加でした。近畿大は正規合格者数(114)を前年度より3,800人以上多く発表していましたが、それだけでは募集人員が埋まらず、追加合格者数(349)も前年度より2,200人以上も多く発表しました。「合格者指数－志願者指数」の数値でみると、日本大は+6ポイントで競争は緩和しました。また、駒澤大は+56ポイント、専修大は+47ポイントと合格者数指数のアップが非常に大きく、前年度は競争激化が特に目立った2大学の競争が大きく緩和しました。

⑨大学別志願状況

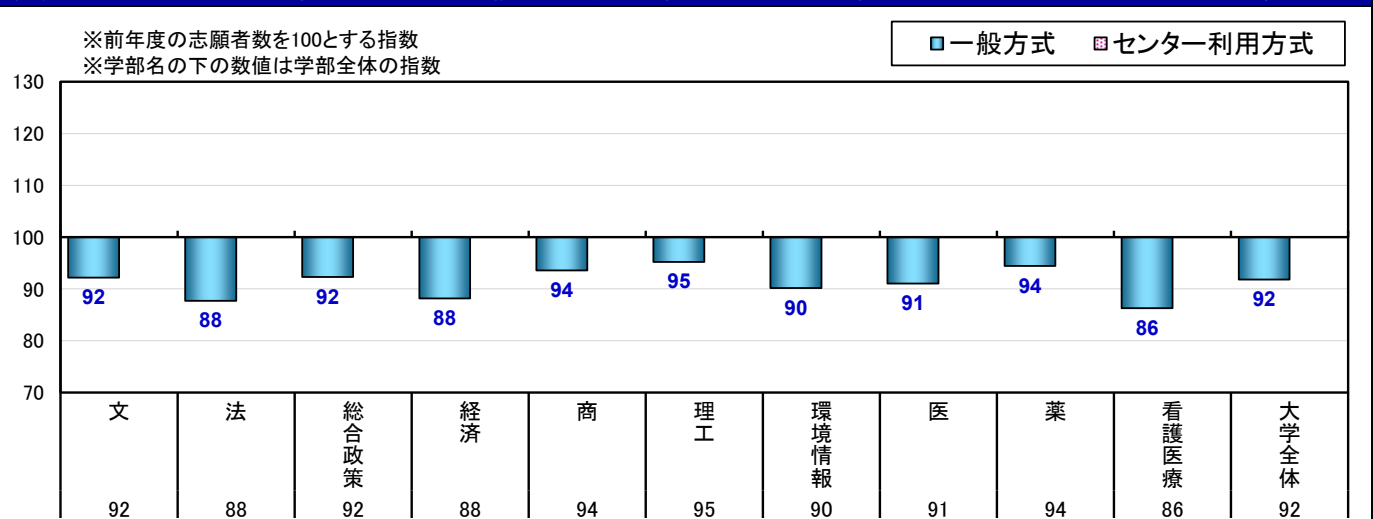
※入試変更点があった学部・学科、増減が目立った学部・学科を中心に分析しました。

※各大学名の一番右にある人数は、一般方式、センター利用方式の各合計での志願者増減数を表しています。

※〈 〉内は入試方式を表しています。〈セ・〉と表記されている方式はセンター利用方式を表しています。

慶應義塾大：大学全体では3年連続減少、学部別では全学部が減少

一般：-3,421 人



入試変更点	募集単位：理工…学門1、学門2、学門3、学門4、学門5 →学門A(物理・電気・機械分野)、学門B(電気・情報分野)、 学門C(情報・数学・データサイエンス分野)、学門D(機械・システム分野)、 学門E(化学・生命分野)
	学科名称：理工…電子工→電気情報工 募集人員：医(医)…68人→66人

COMMENT ※〈 〉内の数値は志願者数の前年度対比指数

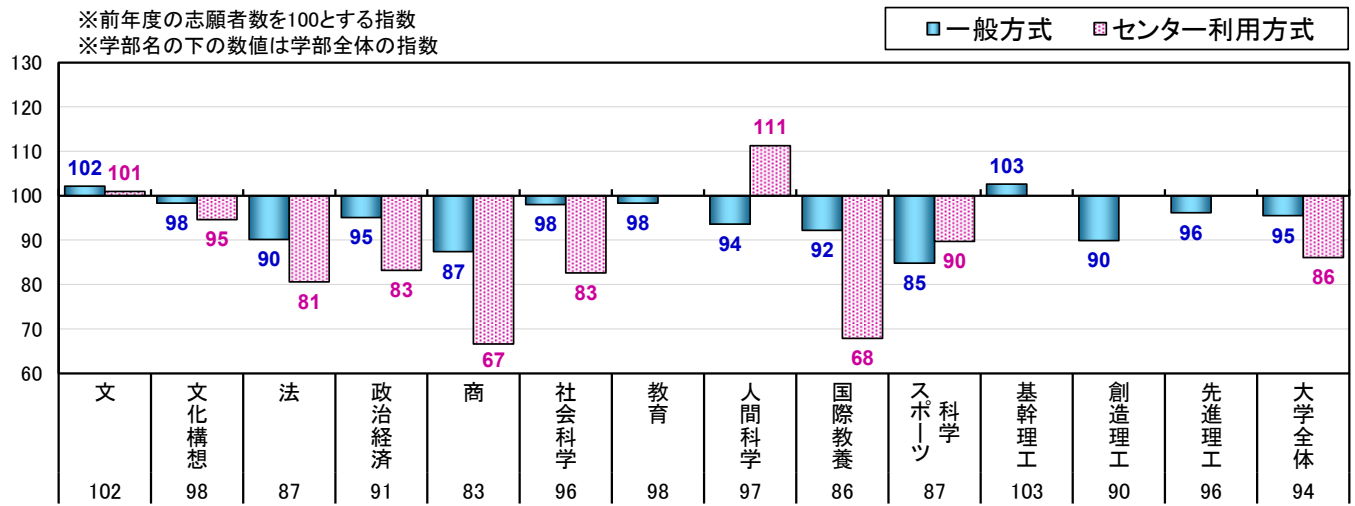
大学全体では、3,421 人(92)の減少で3年連続減少。最難関大を敬遠する傾向が影響。学部別でも全学部が減少。

〈一般方式〉

- 文(92)は、減少で3年連続減少。
- 法(88)は、減少で3年連続減少。学科別では、(政治)(103)がやや増加で4年ぶりに増加、(法律)(77)は大幅減少で3年連続減少。
- 総合政策(92)は、減少で3年連続減少。
- 経済(88)は、減少で4年連続減少。方式別では、〈A方式〉(88)、〈B方式〉(88)のいずれも減少。
- 商(94)は、やや減少で3年連続減少。方式別では、〈A方式〉(94)はやや減少で2年ぶりに減少。〈B方式〉(93)はやや減少で3年連続減少。
- 理工(95)は、やや減少で6年連続減少。学門別では、(学門E)(114)が(旧学門3)との比較で増加、(学門A)(84)が(旧学門1)との比較で大幅減少と増減が目立った。系統への人気が高い(学門C)(100)は(旧学門2)との比較で前年度並だが、募集人員が27%増加したことを考慮すると競争は緩和した。模試動向でも高い人気から出願時に敬遠傾向が見られたことが要因。
- 環境情報(90)は、2年ぶりに減少し、志願者数も3,000人を下回った。
- 医(91)は、難関大医学部医学科を敬遠する動きから、前年度微増から再び減少に転じた。
- 薬(94)は、やや減少。学科別では、薬剤師過剰への不安から6年制の(薬)(84)は6年連続減少。4年制の(薬科学)(121)は5年連続減少の反動から大幅増加。
- 看護医療(86)は、減少で4年連続減少。

早稲田大：大学全体では2年連続減少

一般：-4,178人 センター：-2,584人



入試変更点 選抜方法：文、文化構想<英語4技能利用>…対象試験に TEAP CBT 追加
対象試験：TEAP、IELTS、英検、TOEFL iBT、ケンブリッジ英検、GTEC CBT、英検 CBT
→TEAP、IELTS、英検、TOEFL iBT、ケンブリッジ英検、GTEC CBT、英検 CBT、TEAP CBT

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、6,762人(94)のやや減少で2年連続減少。最難関大を敬遠する傾向が影響。方式別では、一般方式(95)はやや減少で2年連続減少、センター利用方式(86)は2年ぶりに減少。学部別では、基幹理工(103)、文(102)のみ増加。

<一般方式>

- 文(102)は、微増で2年ぶりに増加。方式別では、対象試験拡大の<英語4技能>(131)が大幅増加で3年連続増加。
- 文化構想(98)は、微減で2年連続減少。方式別では、対象試験拡大の<英語4技能>(118)が大幅増加で3年連続増加、<一般>(95)はやや減少で3年連続減少と対照的。
- 法(90)は、2年連続増加の反動で減少。
- 政治経済(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(政治)(89)は3年連続減少、(経済)(92)は2年ぶりに減少。一方で、(国際政治経済)(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 商(87)は、3年連続減少。
- 社会科学(98)は、微減だが2年連続減少。
- 教育(98)は、前年度大幅減少の反動はなく、2年連続減少。学科・専攻・専修別では、前年度大幅減少した反動から、(教育／生涯教育)(139)、(理／地球科学)(125)が大幅増加、(社会／公共市民)(110)、(教育／教育)(109)は増加。一方で、前年度大幅増加した反動から、(教育／教育心理)(65)、(教育／初等教育)(76)は大幅減少。
- 人間科学(94)は、やや減少だが2年連続減少。学科別では、(健康福祉科学)(114)は2年ぶりに増加したが、(人間情報科学)(81)、(人間環境科学)(85)はいずれも大幅減少。
- 国際教養(92)は、2年ぶりに減少。
- スポーツ科学(85)は、大幅減少で2年連続減少。
- 基幹理工(103)は、やや増加で3年ぶりに増加。学系別では、(学系II)(111)は2年連続減少の反動で増加。(学系I)(106)は2年連続増加。一方で、(学系III)(75)は3年連続増加の反動で大幅減少。
- 創造理工(90)は、3年連続減少。学科別では、(経営システム工)(127)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(総合機械工)(73)、(社会環境工)(82)は大幅減少。
- 先進理工(96)は、やや減少で5年連続減少。学科別では、(生命医科学)(126)が大幅増加。一方で、(電気・情報生命工)(70)が5年連続増加の反動で大幅減少。(応用物理)(80)も大幅減少。

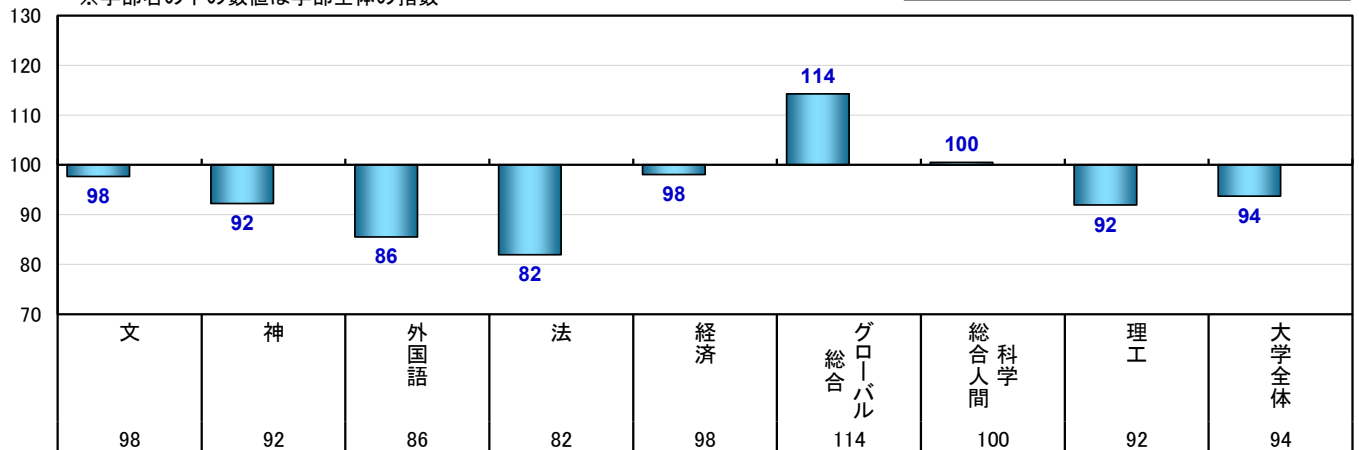
<センター利用方式>

- 文(101)は、微増だが3年連続増加。方式別では、<セ・併用>(122)は大幅増加、<センターのみ>(84)は大幅減少だが、いずれも前年度の大幅増減の反動。
- 文化構想(95)は、やや減少で2年連続減少。方式別では、<センターのみ>(89)が2年連続増加の反動で減少、<セ・併用>(99)は前年度並。
- 法(81)は、前年度の大幅増加の反動で大幅減少。
- 政治経済(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。3学科とも減少だが、特に(国際政治経済)(68)と経済(85)は大幅減少。
- 商(67)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 社会科学(83)は、反動により大幅減少。
- 国際教養(68)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- スポーツ科学(90)は、2年連続減少。方式別では、<セ・併用>(89)が前年度大幅減少の反動はなくさらに減少。

上智大：大学全体では2年連続減少、増加は総合グローバル、総合人間科学の2学部のみ 一般：-1,760人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点 募集人員：外国語(英語)<学科別>…83人→80人、<TEAP利用型>…22人→20人
外国語(ロシア語)<TEAP利用型>…24人→28人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,760人(94)のやや減少で2年連続減少。学部別で増加したのは、総合グローバル(114)、総合人間科学(100)の2学部のみ。方式別では、<学科別>(92)が3年連続減少、<TEAP利用型>(101)は前年度並。

<一般方式>

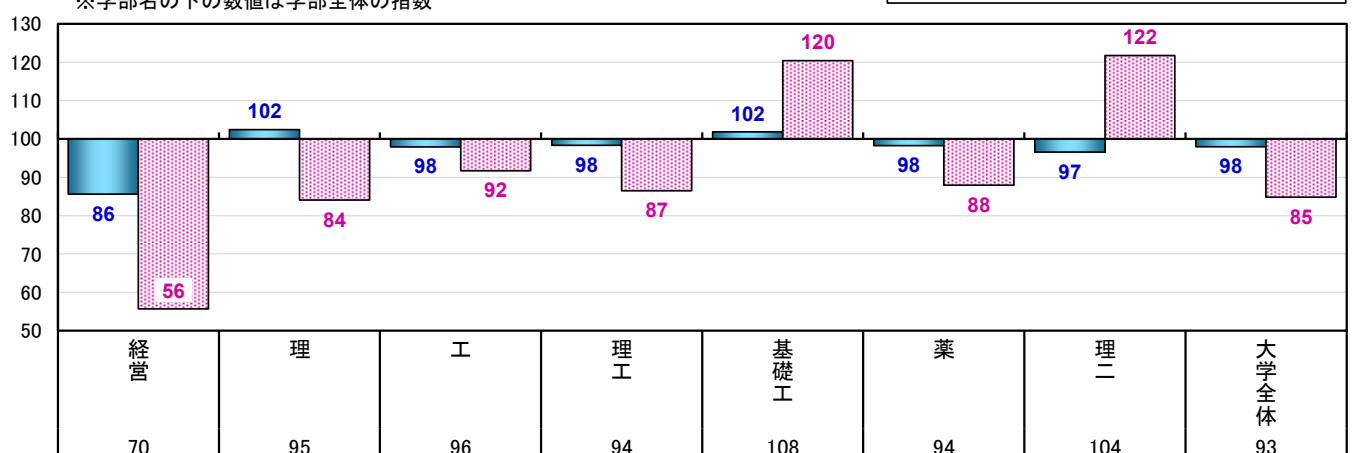
- 文(98)は、微減だが2年連続減少。学科別では、(フランス文)(71)が前年度大幅増加の反動で、大幅減少。一方で、国文(115)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。(史学)(109)、(哲)(109)も反動で増加。
- 神(92)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 外国語(86)は、2年連続減少。学科別では、(ドイツ語)(102)が微増だった以外は、5学科が減少。特に、(スペイン語)(71)、(ロシア語)(78)、(フランス語)(82)が大幅減少。
- 法(82)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(地球環境法)(70)が前年度大幅増加の反動で大幅減少、(法律)(72)も大幅減少で2年連続減少。
- 経済(98)は、微減だが2年連続減少。学科別ではいずれも微減だが、(経済)(98)は3年連続減少、(経営)(98)は2年連続減少。
- 総合グローバル(114)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 総合人間科学(100)は、前年度並。学科別では、5学科とも前年度と逆の増減で、特に増減が目立ったのは、(教育)(139)、(社会福祉)(70)、(看護)(78)の3学科。
- 理工(92)は、前年度大幅減少に続いて2年連続減少。学科別では、3学科ともに減少で、特に(情報理工)(88)の減少が目立った。

東京理科大：大学全体では4年ぶりにやや減少

一般：-769人 センター：-3,469人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3年連続増加の反動で4,238人(93)のやや減少。一般方式は769人(98)の微減で、<B方式>は834人(98)の微減だが、<グローバル>は実施3年目で周知が進み65人(103)のやや増加で2年連続増加。センター利用方式は3,469人(85)の大幅減少で、<セ・A方式>が2,384人(87)の減少、<セ・C方式>は1,085人(77)の大幅減少。

＜一般方式＞

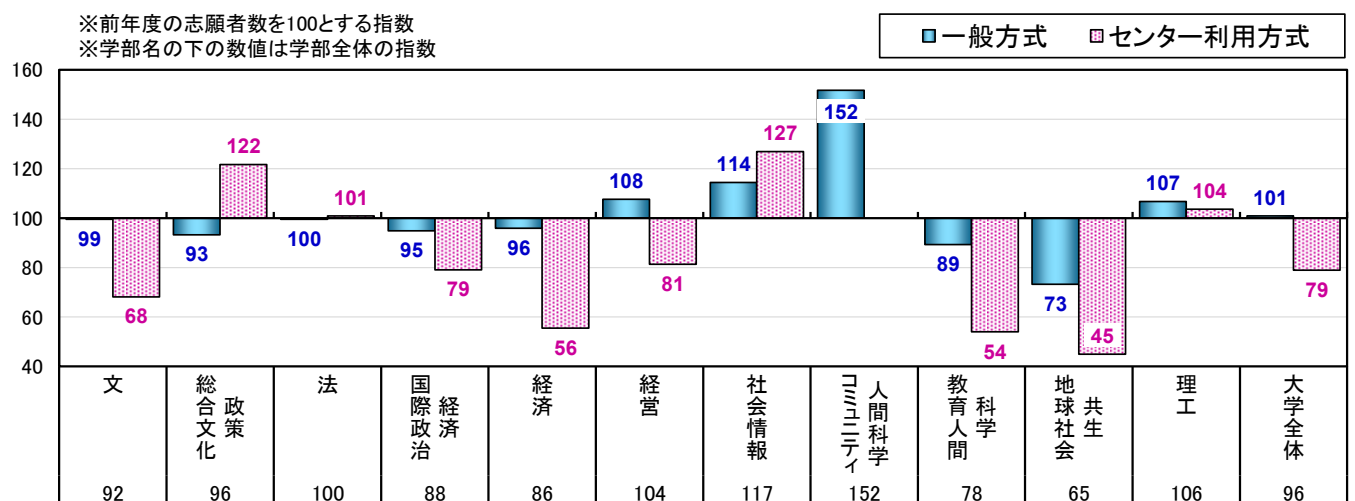
- 経営(86)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、(経営)(75)は大幅減少、一方で(ビジネスエコノミクス)(113)は増加。
- 理(102)は、微増だが2年連続増加。学科別では、(応用物理)(95)と(化学)(95)を除いた4学科が増加、特に(物理)(111)が10%を上回る増加だった。
- 工(98)は、前年度並。学科別では、(電気工)(114)が増加、他の4学科は減少で、(情報工)(90)の減少が目立った。
- 理工(98)は、前年度並。学科別では、(応用生物科学)(112)の増加が目立った。
- 基礎工(102)は、前年度並。学科別では、(電子応用工)(84)が大幅減少、他の2学科は増加。
- 薬(98)は、前年度並。学科別では、(薬)(96)がやや減少、(生命創薬科学)(102)は前年度並。

＜センター利用方式＞

- 経営(56)は、2年連続大幅増加の反動で半減近い減少。学科別では、(経営)(46)が前年度ほぼ倍増の反動で半減以下。
- 理(84)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(応用化学)(116)が大幅増加、一方で減少した4学科は(化学)(55)、(応用数学)(63)、(応用物理)(82)、(数学)(85)とすべて大幅減少。
- 工(92)は、2年連続増加の反動で減少。学科別では、(電気工)(119)が大幅増加だが、これ以外の学科は減少で、特に(建築)(79)、(工業化学)(83)、(情報工)(84)の3学科は大幅減少。
- 理工(87)は、2年連続増加の反動で減少。学科別では、(経営工)(144)は大幅増加だが、これ以外の学科は減少で、(建築)(69)、(土木工)(76)、(数学)(77)、(物理)(79)、(電気電子情報工)(80)、(情報科学)(83)の6学科は大幅減少。
- 薬(88)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、(生命創薬科学)(83)が前年度大幅増加の反動で大幅減少。

青山学院大：大学全体では2年連続減少

一般：+396人 センター：-2,978人



入試変更点

選抜方法：廃止…経営〈個別C〉
 募集人員：経済(経済)〈個別B〉…30人→50人
 経営(経営)〈個別A〉…197人→200人、(マーケティング)〈個別B〉…14人→15人
 コミュニティ人間科学〈個別A〉…50人→48人、〈個別B〉…12人→18人、〈個別C〉…10人→12人
 地球社会共生〈個別A〉…25人→21人、〈個別B〉…25人→15人、〈全学部〉…50人→45人
 理工(経営システム工)〈個別A〉…40人→35人、〈全学部〉…13人→10人
 (情報テクノロジー)〈個別B〉…25人→20人、〈全学部〉…13人→10人
 入試科目：理工(情報テクノロジー)〈センター〉…理(物 or 化 or 生 or 地学)→理(物 or 化)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,582人(96)のやや減少で2年連続減少。方式別では、一般方式は396人(101)の微増だが、センター利用方式は2,978人(79)の大幅減少。前年度合格最低点をアップさせた学部・学科が多かったことで敬遠された。学部別では、開設2年目のコミュニティ人間科学(152)が大幅増加。一方で、地球社会共生(65)、教育人間科学(78)は大幅減少。

＜一般方式＞

- 総合文化政策(93)は、2年連続増加の反動でやや減少。
- 国際政治経済(95)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(国際経済)(104)のみやや増加。
- 経済(96)は、系統への人気低下でやや減少し、2年連続減少。学科・方式別では、(経済)〈個別B〉(111)は増加したが、募集人員が16%以上増加で、志願倍率は23.5倍→15.6倍とダウン。
- 経営(108)は、〈個別C〉を廃止したが、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(経営)(119)が大幅増加、(マーケティング)(86)は減少。2学科とも前年度の大幅な増減の反動。
- 社会情報(114)は、2年連続減少の反動で増加。方式別では、〈全学部A〉(73)は大幅減少だが、その他の3方式は増加。
- コミュニティ人間科学(152)は、大幅増加。方式別では、唯一減少の〈個別B〉(87)は募集人員増加もあって、志願倍率は18.9倍→11.0倍へダウンし、競争が緩和。一方で、増加した3方式はいずれも大幅増加。特に〈個別A〉(199)はほぼ倍増。
- 教育人間科学(89)は、2年連続減少。学科別では、(教育)(88)、(心理)(92)と2学科とも減少。
- 地球社会共生(73)は、大幅減少で3年連続減少。方式別では、〈個別B〉(124)は大幅増加し、募集人員も40%減少で志願倍率は8.8倍→18.2倍とアップ。一方で、〈全学部〉(45)、〈個別A〉(85)は大幅減少だが、〈個別A〉は募集人員減少率が志願者数減少率とほぼ同じで、競争は前年度並。

○理工(107)は、やや増加で3年ぶりに増加。学科別では、(情報テクノロジー)(96)のみやや減少だが、募集人員減少で志願倍率は18.4倍→19.9倍とアップ。(化学・生命科学)(118)、(機械創造工)(116)は大幅増加。

＜センター利用方式＞

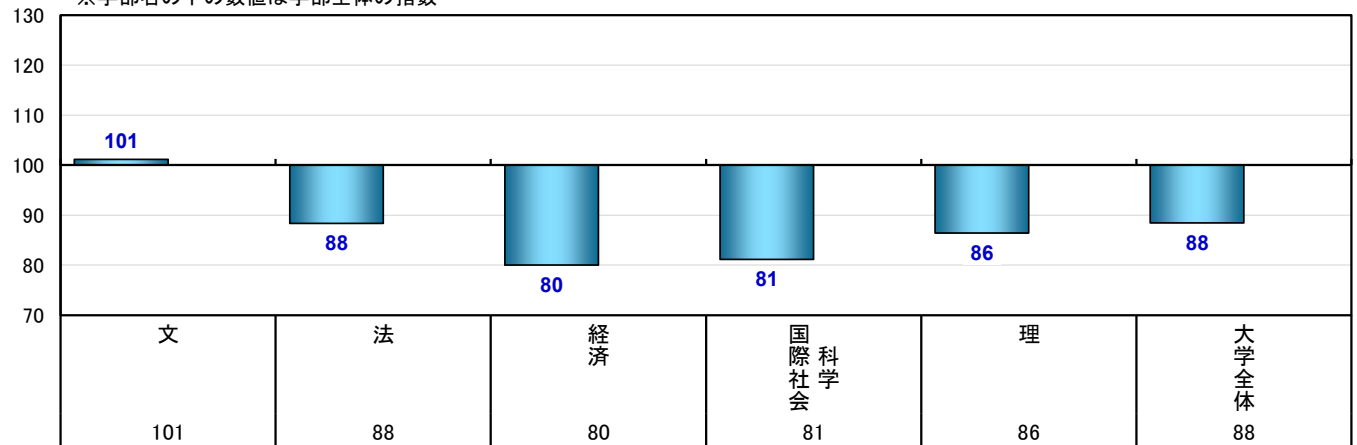
- 文(68)は、2年連続大幅減少。5学科全てが減少し、特に(フランス文)(44)、(英米文)(50)の大幅減少が目立った。
- 総合文化政策(122)は、3年連続減少の反動で大幅増加。2方式とも増加し、＜セ・3教科＞(124)は大幅増加。
- 国際政治経済(79)は、大幅減少で3年ぶりに減少。3学科全てが減少し、特に(国際経済)(63)は大幅減少。
- 経済(56)は、前年度倍増以上の反動で大幅減少。学科別では、(経済)(98)は微減だが、(現代経済デザイン)(28)は前年度4.4倍増の反動に加え、前年度合格最低点のアップ幅が大きかったことで激減。
- 経営(81)は、2年連続大幅減少。学科別では、(経営)(77)は2年連続大幅減少。
- 社会情報(127)は、3年連続減少の反動で大幅増加。
- 教育人間科学(54)は、大幅減少で前年度の反動による大幅な増減が継続。学科別では、(教育)(48)、(心理)(63)のいずれも大幅減少。
- 地球社会共生(45)は、前年度3.1倍増の反動で志願者数が半減以下の大幅減少。
- 理工(104)は、やや増加で2年連続増加。学科別では、前年度合格最低点アップの(経営システム工)(67)、(情報テクノロジー)(80)は大幅減少したが、反対に合格最低点ダウンの他の4学科はいずれも増加。特に(電気電子工)(165)は大幅増加。

学習院大：大学全体では2年連続減少、増加は文のみ

一般：-2,211人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点 募集人員：文(史)＜コア＞…55人→60人、
(日本語日本文)＜コア＞…70人→75人
(フランス語圏文化)＜コア＞…45人→40人
選抜方法：法＜一般＞…得点が30%未満の科目が1つでもある場合は不合格→廃止
国際社会科学＜プラス＞…合否判定基準なし→得点が30%未満の科目が1つでもある場合は不合格
英語外部試験の対象試験に GTEC、英検 CBT 追加

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,211人(88)の減少で2年連続減少。文(101)は微増だが、他の4学部は減少。

＜一般方式＞

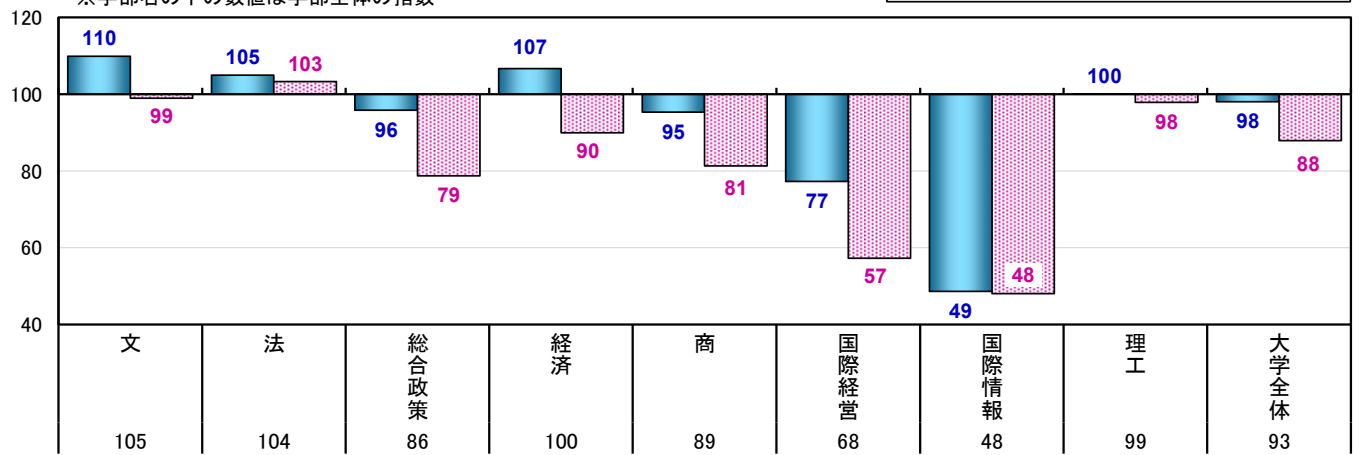
- 文(101)は、微増だが、2年連続増加。(英語英米文化)(82)が大幅減少、(日本語日本文)(90)は減少だが、他の6学科は増加。特に(ドイツ語圏文化)(134)、(フランス語圏文化)(128)は大幅増加。(フランス語圏文化)は募集人員減少もあり、志願倍率は6.3倍→9.1倍とアップ。
- 法(88)は、系統への人気低下で、2学科とも2年連続減少。特に(法)(84)は大幅減少。
- 経済(80)は、系統への人気低下で、2学科とも2年連続大幅減少。
- 国際社会科学(81)は、系統への人気低下で大幅減少し、2年ぶりに減少。方式別では、＜プラス＞(102)は2年連続増加だが、＜コア＞(76)は大幅減少で2年連続減少。
- 理(86)は、2年連続増加の反動で減少。学科別では、(生命科学)(101)のみ増加。前年度大幅増加の(化学)(75)、(物理)(75)は反動で大幅減少。

中央大：開設 2 年目の国際情報、国際経営は大幅減少

一般：-970 人 センター：-5,240 人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点

試験会場：横浜会場を廃止

選抜方法：文、総合政策、経済、国際経営、国際情報<英語外部検定試験利用>…スコア変更、対象試験に英検 CBT 追加

募集人員：法(国際企業関係法)<統一3教科>…11人→10人、<一般・3教科>…65人→60人、

<セ・併用>…11人→13人、<セ・前期5教科>…16人→19人、

<セ・前期3教科>…5人→6人

(政治)<統一3教科>…22人→20人、<一般・4教科>…22人→20人、<一般・3教科>…139人→128人、

<セ・併用>…22人→26人、<セ・前期5教科>…43人→52人、<セ・前期3教科>…10人→12人

(法)<統一4教科>…22人→20人、<統一3教科>…39人→36人、<一般・4教科>…65人→60人、

<一般・3教科>…291人→269人、<セ・併用>…43人→52人、

<セ・前期5教科>…96人→115人、<セ・前期3教科>…20人→24人

総合政策(国際政策)<一般>…57人→58人

(政策)<一般>…56人→54人、<セ・前期>…20人→19人

商(会計/フレックス)<一般>…120人→115人、<セ・前期4教科>…10人→14人、

<セ・前期3教科>…10人→12人、<セ・後期>…5人→4人

(経営/フレックス)<一般>…135人→130人、<セ・前期4教科>…10人→14人、

<セ・前期3教科>…10人→12人、<セ・後期>…5人→4人

(商業・貿易/フレックス)<一般>…125人→120人、<セ・前期4教科>…10人→14人、

<セ・前期3教科>…10人→12人、<セ・後期>…5人→4人

(金融/フレックス)<セ・前期4教科>…6人→8人、<セ・前期3教科>…6人→4人、

<セ・後期>…3人→4人

(金融/フレックス Plus)<一般>…16人→15人

理工(物理)<一般>…35人→33人、<セ・併用>…12人→10人、<セ・前期>…6人→5人

(人間総合理工)<一般>…38人→35人、<セ・併用>…16人→13人、<セ・前期>…11人→9人

入試科目：経済<一般><英語外部検定試験利用>、商<一般>…歴公の選択から地理B除外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、6,210人(93)のやや減少で3年ぶりに減少。細かい方式別では、対象試験拡大の<英語外部検定試験利用>(111)の増加が目立った。学部別では、開設2年目の国際情報(48)、国際経営(68)がいずれも大幅減少で、この2学部合計の減少数が大学全体の減少数の80%以上を占めた。

<一般方式>

○文(110)は、前年度大幅減少の反動で増加。専攻別では、(人文社会/フランス語文学文化)(147)、(人文社会/東洋史)(140)、(人文社会/ドイツ語文学文化)(134)などの大幅増加、(人文社会/社会情報)(83)の大幅減少が目立った。

○法(105)は、やや増加で2年ぶりに増加。学部合計の募集人員が約8%減少のため、志願倍率は10.3倍→11.8倍とアップ。学科別では、(政治)(147)は大幅増加だが、(国際企業関係法)(76)は2年連続大幅減少。

○総合政策(96)は、前年度大幅減少の反動はなく、やや減少。2学科とも2年連続減少。

○経済(107)は、系統への人気低下の中でやや増加し、5年連続増加。学科別では、(経済)(112)の増加、(経済情報システム)(89)の減少が目立った。

○商(95)は、系統への人気低下でやや減少し、2年連続減少。学科・コース別では、全てが前年度と逆の増減で、(会計)(72)、(金融)(81)は大幅減少。他の学科・コースは増加。(フリーメジャー)(109)は増加だが、募集人員増加で志願倍率は18.9倍→19.1倍とわずかなアップに留まり、競争はほぼ前年度並。

○開設2年目の国際経営(77)は、大幅減少。4方式全てが減少し、特に<一般>(70)の大幅減少が目立った。

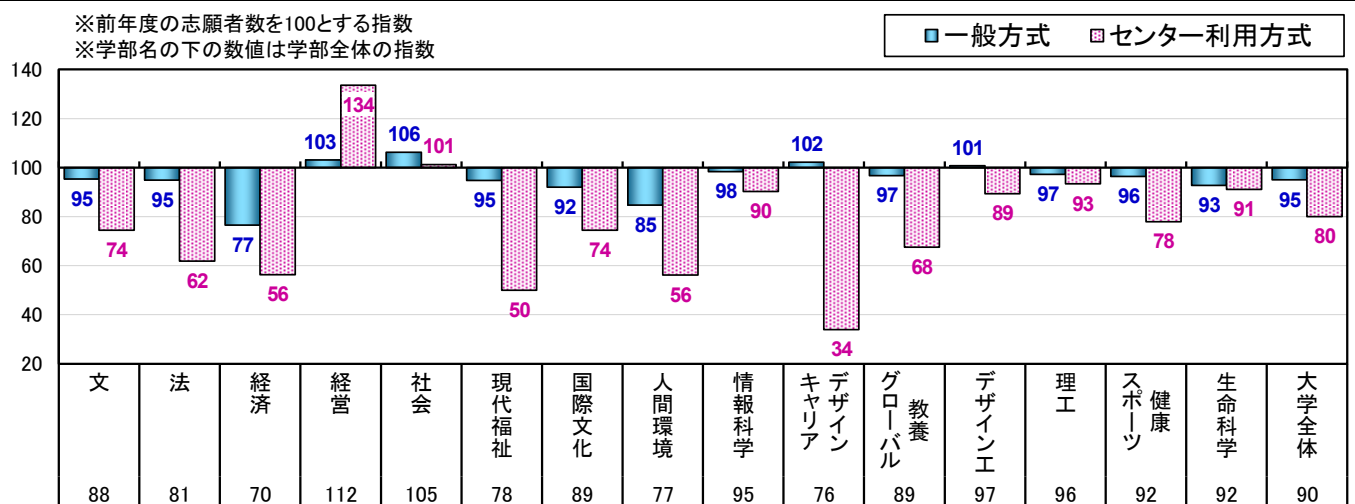
○開設2年目の国際情報(49)は、半減以下の大幅減少。<一般>(48)が半減以下、<英語外部検定試験利用>(54)は大幅減少。

○理工(100)は、前年度減少の反動はなく、10人増加の前年度並。学科別では、(生命科学)(115)の大幅増加、(精密機械工)(79)の大幅減少が目立った。

<センター利用方式>

- 文(99)は、前年度大幅減少の反動はなく微減。専攻別では、(人文社会／東洋史)(340)は前年度激減の反動で激増。一方で、(人文社会／哲学)(59)、(人文社会／中国言語文化)(62)などが大幅減少。
- 法(103)は、やや増加で2年ぶりに増加したが、学部合計の募集人員が20%弱増加のため、志願倍率は28.9倍→25.1倍とダウン。学科別では、(政治)(161)は大幅増加だが、他の2学科は2年連続減少。
- 総合政策(79)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。2学科とも減少し、特に(政策科学)(64)は大幅減少。
- 経済(90)は、2年連続増加の反動で減少。4学科全てが減少し、(経済情報システム)(65)、(公共・環境経済)(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 商(81)は、2年連続大幅減少。4学科1コース全てが減少し、(金融)(62)、(会計)(70)、(経営)(85)は大幅減少。
- 開設2年目の国際経営(57)は、大幅減少。方式別では、<セ・後期3教科>(104)はやや増加だが、他の4方式は大幅減少。
- 開設2年目の国際情報(48)は、半減以下の大幅減少。方式別では、<セ・後期>(99)は微減に留まったが、他の3方式は大幅減少。特に<セ・前期3教科>(36)は激減。
- 理工(98)は、微減で3年ぶりに減少。学科別では、(生命科学)(131)、(経営システム工)(121)の大幅増加、(人間総合理工)(82)の大幅減少が目立った。

法政大：大学全体では2年連続減少、15学部中13学部が減少 一般：-3,776人 センター：-8,043人



入試変更点

選抜方法：文、法、経済、現代福祉、人間環境、情報科学、デザイン工、理工、スポーツ健康、生命科学
…英語外部試験の対象試験の変更
法(国際政治)、現代福祉、情報科学、デザイン工、理工、生命科学…英語外部試験のスコア変更
募集人員：国際文化<A方式>…125人→120人
グローバル教養<T日程>…6人→3人、<英語外部試験利用>…6人→3人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、11,819人(90)の減少で2年連続減少。方式別では、一般方式(95)はやや減少だったが、前年度合格最低点をアップさせたセンター利用方式(80)は大幅減少。特に3教科型の<セ・B方式>(77)は減少数が7,300人以上で、全体の減少数の60%以上を占めた。また、一般方式の<英語外部試験利用>(121)は多くの学部で対象試験を拡大したことなどで大幅増加。学部別では、経営(112)、社会(105)は増加したが、他の13学部は減少し、経済(70)、キャリアデザイン(76)、人間環境(77)、現代福祉(78)、法(81)は大幅減少。

<一般方式>

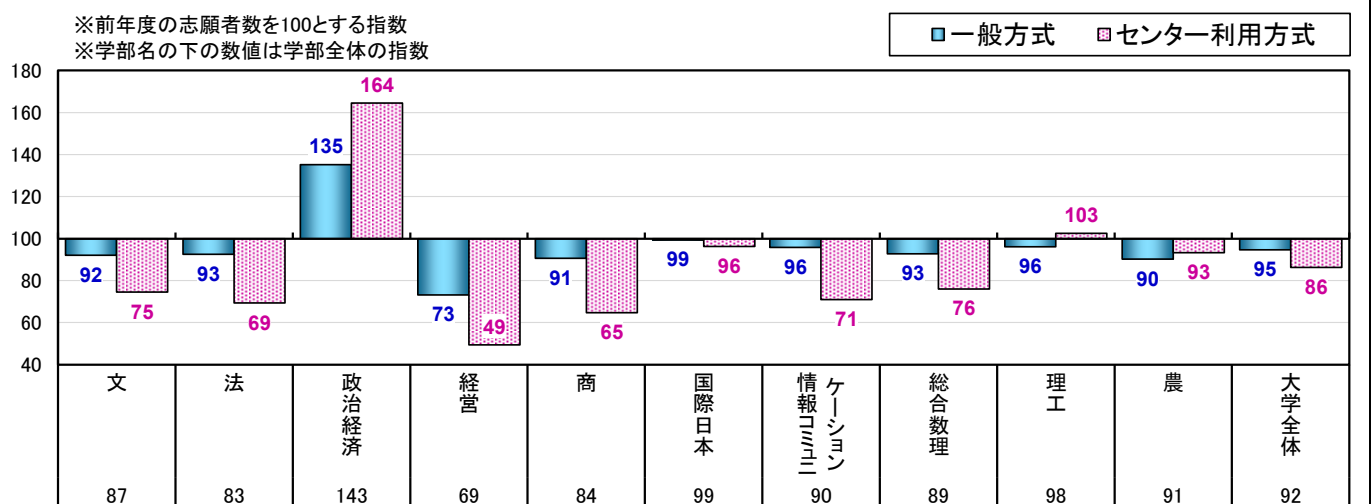
- 文(95)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(地理)(87)が4年ぶりの減少。一方で、(哲)(125)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 法(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(政治)(127)は大幅増加で2年連続増加。一方で、(法律)(85)は大幅減少で3年連続減少、(国際政治)(94)は前年度大幅増加の反動でやや減少。
- 経済(77)は、大幅減少で3年連続減少。学科別では、(経済)(74)は大幅減少で2年連続減少、(国際経済)(76)も大幅減少。
- 経営(103)は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、(経営)(126)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。他の2学科はいずれも大幅減少。
- 社会(106)は、前年度減少の反動でやや増加。学科別では、唯一増加の(社会政策)(208)が前年度大幅減少の反動で倍増以上。
- 現代福祉(95)は、やや減少で2年連続減少。
- 国際文化(92)は、前年度増加の反動で減少。
- 人間環境(85)は、前年度増加の反動で大幅減少。方式別では、3方式とも減少。
- 情報科学(98)は、微減だが2年連続減少。学科別では、(コンピュータ科学)(108)が前年度減少の反動で増加したが、(デジタルメディア)(87)は2年連続減少。
- キャリアデザイン(102)は、前年度減少の反動は小さく微増に留まった。方式別では、<T日程>(120)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- グローバル教養(97)は、やや減少で2年連続減少。方式別では、<英語外部試験利用>(205)が前年度8割以上減少の反動で倍増以上。
- デザイン工(101)は、微増だが9年連続増加。学科別では、(都市環境デザイン工)(123)が前年度減少の反動で大幅増加。他

- の2学科はやや減少。
- 理工(97)は、やや減少で9年ぶりの減少。学科・専攻別では、(創生科学)(115)、(電気電子工)(108)が増加。他の3学科は減少。
 - スポーツ健康(96)は、やや減少で2年連続減少。方式別では、〈英語外部試験利用〉(131)が前年度大幅減少の反動などで大幅増加。
 - 生命科学(93)は、やや減少。学科別では、(生命機能)(114)は増加したが、(環境応用化学)(75)が前年度大幅増加の反動で大幅減少、(応用植物科学)(86)は3年連続減少。

＜センター利用方式＞

- 文(74)は、大幅減少。学科別では、(英文)(124)は大幅増加だが、他の5学科は減少で、(哲)(93)以外はいずれも大幅減少。
- 法(62)は、大幅減少で6年ぶりの減少。学科別でも、3学科ともに大幅減少。
- 経済(56)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(現代ビジネス)(165)は前年度半減の反動で激増、前年度1.9倍増の(国際経済)(29)は激減、(経済)(49)は半減以下。
- 経営(134)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(経営戦略)(486)は前年度激減の反動で5倍近くに激増。(市場経営)(69)、(経営)(70)は大幅減少。
- 社会(101)は、微増で前年度大幅減少の反動はほとんどなかった。学科別では、(メディア社会)(48)は半減以下の大幅減少、(社会)(64)も大幅減少で、いずれも前年度大幅増加の反動。一方で、(社会政策)(388)は前年度激減の反動で4倍近くに激増。
- 現代福祉(50)は、4年連続増加の反動で半減。学科別では、(福祉コミュニティ)(29)が2年連続大幅増加の反動で激減、(臨床心理)(96)は2年連続大幅減少の反動はなくやや減少。
- 国際文化(74)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 人間環境(56)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 情報科学(90)は、5年ぶりの減少。学科別では、(コンピュータ科学)(94)はやや減少、(デジタルメディア)(85)は大幅減少で2年連続減少。
- キャリアデザイン(34)は、前年度大幅増加の反動で激減。方式別では、〈セ・B方式〉(26)が前年度増加の反動で7割以上の激減、〈セ・C方式〉(125)は前年度半減の反動で大幅増加。
- グローバル教養(68)は、前年度増加の反動で大幅減少。
- 理工(93)は、前年度増加の反動でやや減少。学科・専修別では、全て前年度の反動で増減。(創生科学)(179)、(電気電子工)(129)が大幅増加したが、他の学科はいずれも減少。
- スポーツ健康(78)は、大幅減少で3年連続減少。
- 生命科学(91)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、(生命機能)(123)が大幅増加。(環境応用化学)(66)は大幅減少。いずれも前年度の大増減の反動。

明治大：大学全体では2年連続減少、政治経済のみ増加 一般：-4,340人 センター：-4,380人



入試変更点

選抜方法：新規実施…国際日本〈英語4技能試験〉〈全学部英語4技能3科目〉
廃止…総合数理(ネットワーク)〈全学部3科目〉
経営、国際日本、農、総合数理〈全学部〉、商〈英語4技能試験〉、国際日本〈一般〉…英語外部試験のスコア変更
商〈英語4技能試験〉…英語外部試験の対象試験に GTEC CBT 追加
国際日本、農〈全学部英語4技能3科目〉…英語外部試験の利用方法変更
募集人員：経営〈一般・3科目〉…355人→342人、〈セ・前期3科目〉…30人→25人
国際日本〈一般〉…230人→130人、〈全学部3科目〉…28人→10人
総合数理(先端メディアサイエンス)〈一般〉…50人→51人、〈全学部3科目〉…7人→6人
(ネットワークデザイン)〈一般〉…30人→28人、〈全学部4科目〉…23人→27人
農(農)…20人→〈全学部3科目〉15人、〈全学部英語4技能3科目〉5人
(農芸化学)…15人→〈全学部3科目〉10人、〈全学部英語4技能3科目〉5人
(生命科学)…15人→〈全学部3科目〉10人、〈全学部英語4技能3科目〉5人
(食料環境政策)…8人→〈全学部3科目〉5人、〈全学部英語4技能3科目〉3人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では 8,720 人(92)の減少で、2 年連続減少。10 学部中増加したのは、政治経済(143)のみで、前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、経営(69)、法(83)、商(84)は大幅減少。

<一般方式>

- 文(92)は、2 年連続の減少。学科・専攻別では、(文/ドイツ文)(181)、(文/文芸メディア)(117)が大幅増加、(心理社会/現代社会学)(107)は増加、(文/フランス文)(106)はやや増加、(文/西洋史)(102)は微増で、他の学科・専攻は減少。
- 法(93)は、やや減少で 2 年連続減少。2 方式とも減少し、<一般>(90)は減少、<全学部>(97)はやや減少。
- 政治経済(135)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。3 学科とも増加し、(地域行政)(146)、(経済)(145)は大幅増加。
- 経営(73)は、4 年連続増加の反動で大幅減少となった。方式別では、<英語 4 技能試験利用>(149)のみ大幅増加。
- 商(91)は、5 年連続増加の反動で減少。方式別では、<英語 4 技能試験利用>(120)が 2 年連続増加。
- 国際日本(99)は、微減だが 2 年連続減少。方式別では、<一般>(91)は減少だが、募集人員が 40%以上減少のため、志願倍率は 13.1 倍→21.1 倍とアップし、競争が激化。<全学部 3 科目>は新規実施の<全学部英語 4 技能 3 科目>との合計でも(73)の大幅減少。
- 情報コミュニケーション(96)は、やや減少だが 2 年連続減少。方式別では、<全学部>(78)が大幅減少。
- 総合数理(93)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。学科別では、(ネットワークデザイン)(81)が大幅減少、(現象数理)(87)は減少。(先端メディアサイエンス)(103)は、やや増加だが 4 年連続増加。
- 理工(96)は、やや減少で 2 年連続の減少。学科・専攻別では、(電気電子生命/電気電子)(126)は大幅増加、(応用化学)(103)はやや増加だが 7 年ぶりに増加。一方で、(機械情報工)(76)は大幅減少、(物理)(88)、(建築)(88)、(電気電子生命/生命理工)(91)は減少、(機械工)(95)はやや減少。
- 農(90)は、6 年連続減少。学科別では、(農芸化学)(116)は大幅増加で 3 年ぶりに増加。他の 3 学科は減少。特に、(農)(81)、(食糧環境政策)(82)は大幅減少。

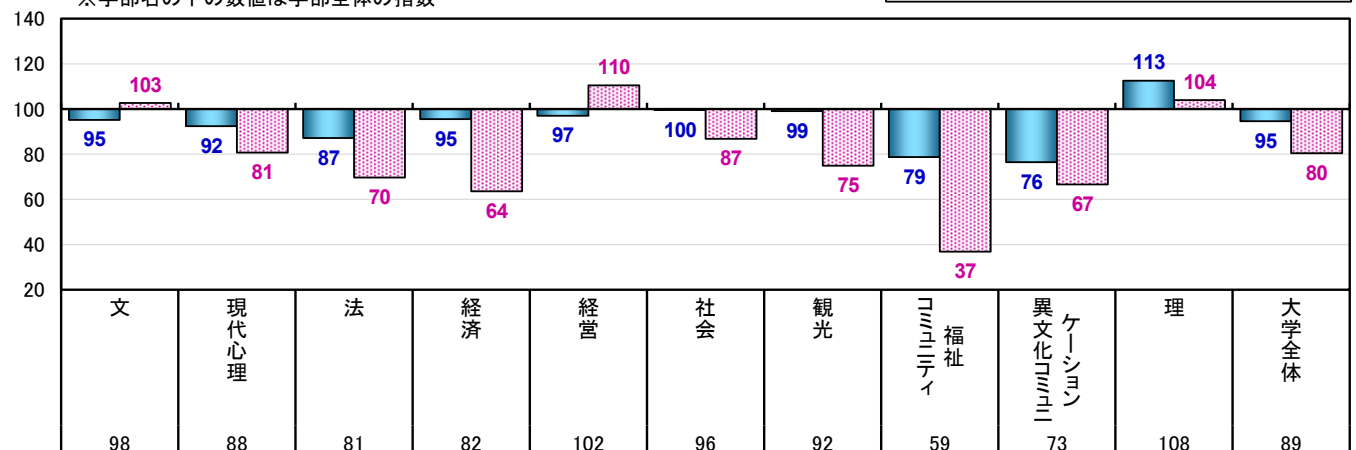
<センター利用方式>

- 文(75)は、大幅減少で 2 年連続減少。学科・専攻別では、全て減少。特に、(文/英米文)(57)、(史学地理/哲学)(65)、(史学地理/考古学)(66)、(史学地理/日本史)(68)は 3 割以上減少の大幅減少。
- 法(69)は、大幅減少で 2 年連続減少。
- 政治経済(164)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。(地域行政)(400)は前年度大幅減少の反動で 4 倍増。(経済)(180)も前年度大幅減少の反動で激増。
- 経営(49)は、2 年連続大幅減少。
- 商(65)は、3 年連続増加の反動で大幅減少。
- 国際日本(96)は、やや減少で 2 年連続減少。
- 情報コミュニケーション(71)は、前年度増加の反動で大幅減少。
- 総合数理(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、3 学科とも大幅減少。
- 理工(103)は、やや増加。学科・専攻別では、(電気電子生命/電気電子)(147)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(機械工)(107)、(応用化学)(104)はやや増加。
- 農(93)は、やや減少で 2 年連続減少。学科別では、唯一(農芸化学)(125)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。

立教大：大学全体では 2 年連続減少、増加は理、経営のみ 一般：-2,260 人 センター：-5,228 人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式

**入試変更点**

選抜方法：<全学部グローバル>…英語外部試験の対象試験から GTC CBT 除外
文、現代心理、法、経済、経営、社会、観光、コミュニティ福祉、理…英語外部試験のスコア変更
文、法、経済、社会、観光、コミュニティ福祉、理…英語外部試験の技能別基準点変更
現代心理、経営、異文化コミュニケーション…英語外部試験の出願要件に技能別基準点追加
募集人員：文(史)<個別>…71 人→61 人
社会<個別>…各学科 80 人→各学科 75 人
理(生命理)<個別>…40 人→37 人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

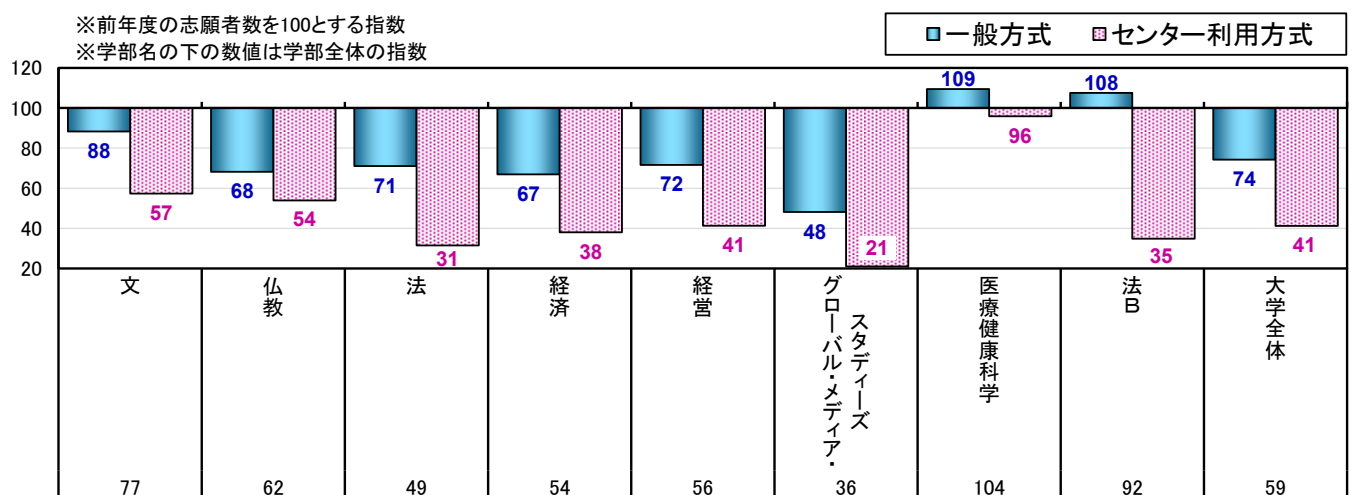
大学全体では、7,488 人(89)の減少で2年連続減少。方式別では、一般方式(95)はやや減少。〈全学部グローバル〉(47)は大幅減少で2年連続減少。基準点をアップしたことが影響。センター利用方式(80)は大幅減少で2年連続減少。学部別では、理(108)が増加、経営(102)が微増したが、他の9学部は減少。特にコミュニティ福祉(59)、異文化コミュニケーション(73)、法(81)、経済(82)は大幅減少。

＜一般方式＞

- 文(95)は、やや減少で2年連続減少。学科・専修別では、(文／フランス文学)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(史学)(105)はやや増加だが、他はいずれも減少。
- 現代心理(92)は、6年ぶりの減少。2学科とも減少し、(映像身体)(91)は6年ぶりの減少。
- 法(87)は、3年ぶりの減少。学科別では、(国際ビジネス法)(69)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(法)(84)は大幅減少で2年連続減少。一方で、(政治)(119)は2年連続大幅増加。
- 経済(95)は、やや減少。学科別では、(経済政策)(106)のみやや増加。
- 経営(97)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(国際経営)(104)はやや増加。一方で、(経営)(95)はやや減少で2年連続減少。
- コミュニティ福祉(79)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、3学科全てが減少し、(福祉)(68)は大幅減少で2年連続減少、(コミュニティ政策)(86)は減少で4年連続減少。
- 異文化コミュニケーション(76)は、大幅減少で7年連続減少。
- 理(113)は、増加。全学科が増加し、特に(数学)(122)は前年度減少の反動で大幅増加。

＜センター利用方式＞

- 文(103)は、前年度大幅減少の反動でやや増加。学科・専修別では、(文／フランス文学)(221)が前年度激減の反動で激増。
- 現代心理(81)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(映像身体)(111)が増加、(心理)(61)が大幅減少と対照的。
- 法(70)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(政治)(45)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。法(69)も大幅減少。
- 経済(64)は、3年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(会計ファイナンス)(34)は前年度約6倍増の反動で激減。(経済政策)(55)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経営(110)は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(国際経営)(143)が大幅増加、(経営)(95)はやや減少で2年連続減少。
- 社会(87)は、減少で2年連続減少。学科別では、(メディア社会)(116)は大幅増加だが、(現代文化)(72)、(社会)(80)は大幅減少で、3学科とも前年度と逆の増減。
- 観光(75)は、2年連続大幅減少。学科別では、(交流文化)(132)は前年度激減の反動で大幅増加、(観光)(51)は2年連続増加の反動でほぼ半減。
- コミュニティ福祉(37)は、4年連続増加の反動で激減。3学科全てが大幅減少で、特に(福祉)(25)は3年連続大幅増加の反動で激減。
- 異文化コミュニケーション(67)は、2年連続増加の反動で大幅減少。
- 理(104)は、やや増加で3年連続増加。学科別では、(化学)(145)は2年連続減少の反動で大幅増加。

駒澤大：前年度の厳しい入試で敬遠されて大幅減少**一般：-6,835 人 センター：-13,055 人****COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、19,890 人(59)の大幅減少。前年度志願者数が約9%増加したにもかかわらず、合格者数を17%減少させたことで厳しい入試になったことから敬遠された。2方式とも大幅減少だが、特にセンター利用方式(41)は60%近い大幅減少。前年度の合格最低点が大きくアップしたことが影響し、大学全体の減少数の約66%がセンター利用方式での減少数。学部別では、医療健康科学(104)のみ増加。

＜一般方式＞

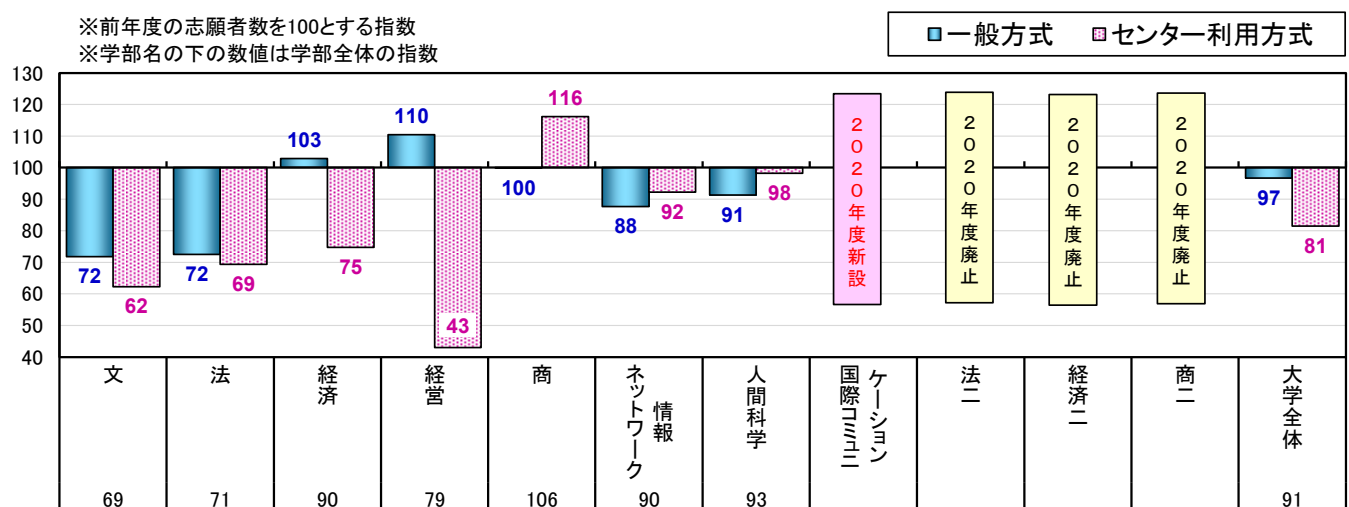
- 文(88)は、2年連続減少。学科・専攻別では、(地理／地域環境研究)(154)、(社会／社会福祉)(126)は大幅増加だが、(歴史／考古学)(68)、(英米文)(72)、(歴史／日本史)(74)、(社会／社会)(77)は大幅減少。
- 法(71)は、系統への人気低下で2学科とも大幅減少。
- 経済(67)は、系統への人気低下で大幅減少。3学科全てが大幅減少し、特に(現代応用経済)(35)は激減。
- 経営(72)は、系統への人気低下で大幅減少し、4年ぶりに減少。2学科とも大幅減少し、(経営)(75)は2年連続減少。
- グローバル・メディア・スタディーズ(48)は、前年度全募集単位が大幅増加した反動で、全募集単位が大幅減少。
- 医療健康科学(109)は、3年連続減少の反動で増加。

＜センター利用方式＞

- 文(57)は、2年連続大幅減少。学科・専攻別では、前年度激減の(社会／社会福祉)(199)はほぼ倍増で唯一増加。一方で、(英米文)(35)、(歴史／考古学)(36)は激減。
- 法(31)は、2年連続増加の反動で激減。2学科とも大幅減少し、特に(政治)(22)が激減。
- 経済(38)は、激減。3学科全てが減少。学科・方式別では、(現代応用経済)＜セ・前期＞(7)は、前年度合格最低点が得点率で15ポイント以上も大幅アップしたことが影響し、志願者数が2,184人→163人と激減。
- 経営(41)は、2学科とも大幅減少。特に(市場戦略)(28)は激減。
- グローバル・メディア・スタディーズ(21)は、前年度激増の反動で激減。

専修大：学部新設も大学全体では5年ぶりに減少

一般：-1,152人 センター：-4,025人



入試変更点

学部新設：国際コミュニケーション(日本語、異文化コミュニケーション)
募集停止：文(日本語)、法二、経済二、商二
学科改組：経済(経済)→(現代経済、生活環境経済)
キャンパス移転：商…生田キャンパス→神田キャンパス

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4年連続増加の反動で5,177人(91)の減少。新設・廃止学部を除くと、(83)の大幅減少。既存の学部別では、商(106)のみ神田キャンパスへの移転効果で増加。文(69)、法(71)、経営(79)は大幅減少。

＜一般方式＞

- 文(72)は、国際コミュニケーション新設で募集停止の(日本語)を除いても(79)の大幅減少で、6年ぶりに減少。6学科全てが減少し、(日本文学文化)(90)以外の5学科は大幅減少。
- 法(72)は、系統への人気低下と前年度大幅増加の反動で大幅減少。2学科とも減少し、(法律)(68)は大幅減少。
- 経済(103)は、系統への人気低下の中でやや増加し、2年連続増加。(経済)から2学科に改組の(現代経済、生活環境経済)は合計(93)でやや減少だが、(国際経済)(135)は大幅増加。
- 経営(110)は、系統への人気低下の中で増加。2学科とも増加し、特に開設2年目の(ビジネスデザイン)(128)は大幅増加。
- 商(100)は、3年連続増加の反動はなく前年度並。学科別では、(マーケティング)(109)が増加、(会計)(86)は減少。
- ネットワーク情報(88)は、4年連続増加の反動で減少。
- 人間科学(91)は、2年連続増加の反動で減少。2学科とも減少し、特に(心理)(83)は大幅減少。
- 国際コミュニケーションは、一般方式合計の募集人員139人に対し、志願者数は3,814人、志願倍率は27.4倍と全学部中で最も高倍率だった。

＜センター利用方式＞

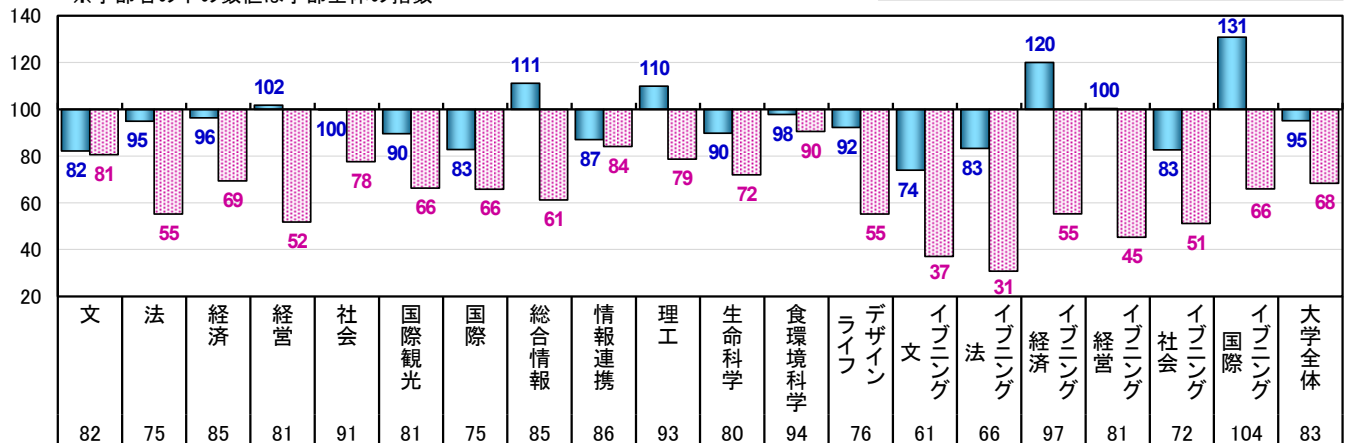
- 文(62)は、3年連続増加の反動で大幅減少。国際コミュニケーション新設で募集停止の(日本語)を除いても(68)の大幅減少。学科別では、(哲)(117)は大幅増加だが、他の5学科は大幅減少。特に(ジャーナリズム)(33)は激減。
- 法(69)は、系統への人気低下に加え、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2学科とも大幅減少。
- 経済(75)は、系統への人気低下に加え、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(国際経済)(72)は大幅減少。(経済)から2学科に改組の(現代経済、生活環境経済)も合計でも(76)は大幅減少。
- 経営(43)は、系統への人気低下に加え、前年度激増の反動で大幅減少。

- 商(113)は、神田キャンパスへの移転効果で6年連続増加。学科別では、(マーケティング)(127)が大幅増加、(会計)(99)は微減。
- ネットワーク情報(92)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 人間科学(98)は、2年連続減少。学科別では、(社会)(119)は大幅増加だが、(心理)(78)は大幅減少と対照的。
- 国際コミュニケーションは、センター利用方式合計の募集人員16人に対し、志願者数は1,380人、志願倍率は86.3倍と全学部中で最も高倍率だった。

東洋大：6年ぶりに減少だが、志願者数は4年連続で10万人台 一般：-3,369人 センター：-16,865人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点

選抜方法：新規実施…文(英米文)〈前期3教科英語重視〉、(史)〈セ・中期3教科歴史重視〉、
(日本文化、教育／人間発達、東洋思想文化)〈セ・中期3教科国語重視〉
(国際文化)〈セ・中期3教科外国語重視〉
法〈セ・前期4教科英語重視〉〈セ・中期3教科〉
経済(経済)〈前期3教科最高得点重視〉
経営(マーケティング)〈中期3教科ベスト2〉〈セ・中期2教科〉
社会(社会)〈後期2教科均等〉〈セ・中期3教科国語重視〉、(社会文化システム)〈中期3教科英語重視〉、(社会福祉、社会文化システム)〈セ・中期3教科均等〉
国際(国際地域／国際地域)〈セ・中期3教科均等〉〈セ・後期3教科均等〉
情報連携〈前期3教科均等英国数〉〈中期3教科均等英国数〉〈後期2教科均等面接〉
〈セ・前期3教科均等英国数〉〈セ・後期面接+センター3教科文系〉
〈セ・後期面接+センター3教科理系〉
理工(都市環境デザイン)〈セ・中期3教科数学重視〉
生命科学(生命科学)〈セ・中期3教科最高得点重視〉
食環境科学(食環境科学／スポーツ・食品機能)〈セ・前期4科目〉
ライフデザイン(健康スポーツ)〈前期3教科英語重視〉
廃止…文(英米文)〈前期3教科ベスト2〉、(教育／人間発達、東洋思想文化)〈セ・中期2教科均等〉、
(史)〈セ・中期2教科歴史重視〉、(日本文化)〈セ・中期2教科国語重視〉、
(国際文化)〈セ・後期3教科ベスト2〉
法〈セ・中期3教科ベスト2〉、
経済(経済)、経営(マーケティング)、生命科学(生命科学)〈前期3教科ベスト2〉
社会(社会)〈後期2教科小論文重視〉
社会、理工(都市環境デザイン)、生命科学(生命科学)〈セ・中期2教科〉
国際観光(国際観光)〈セ・前期3教科ベスト2〉
国際〈セ・中期3教科最高得点重視〉〈セ・後期3教科最高得点重視〉
食環境科学(食環境科学／スポーツ・食品機能)〈前期3教科ベスト2〉〈セ・前期3教科ベスト2〉
入試科目：理工(建築)〈セ・前期4教科〉〈セ・前期5教科〉…歴の選択から世B、日B除外
(都市環境デザイン)〈前期3教科均等2回目〉…選択から歴公除外
〈前期3教科均等3回目〉〈前期3教科数学重視〉〈セ・前期3教科数学重視〉
…選択から国除外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、20,234人(83)の大幅減少で6年ぶりに減少。難易度アップで慎重な出願になったことが影響。減少数は全国最多だが、それでも志願者数は4年連続の10万人台。方式別では、一般方式(95)はやや減少に留まったが、センター利用方式(68)は全学部が減少して、方式合計では大幅減少。前年度の合格最低点をアップさせたことが要因で、大学全体の減少数の約83%がセンター利用方式での減少数。学部別では、国際イブニング(104)のみ増加。

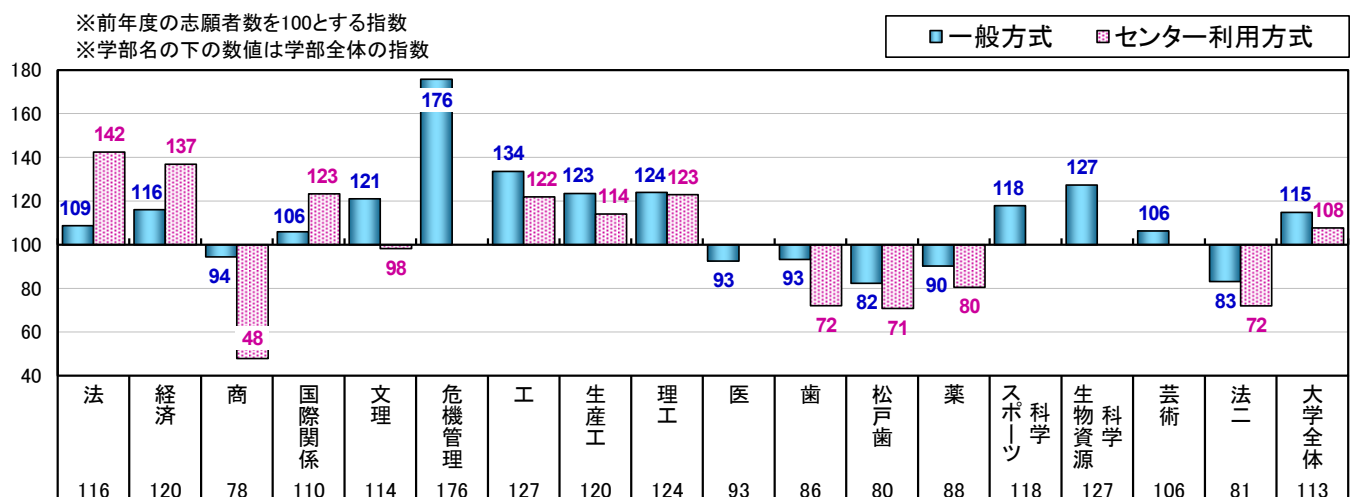
＜一般方式＞

- 文(82)は、大幅減少で6年ぶりに減少。全学科・専攻が減少し、特に(英米文)(66)、(国際文化コミュニケーション)(76)、(教育／初等教育)(82)は大幅減少。
- 法(95)は、系統への人気低下の中で4年ぶりに減少したが、やや減少に留まった。学科別では、(企業法)(103)がやや増加、(法律)(91)は4年ぶりに減少。
- 経済(96)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(総合政策)(126)は大幅増加で8年連続増加、(国際経済)(113)は6年連続増加。一方で、(経済)(76)は大幅減少で2年連続減少だが、新規実施・廃止方式を除くと(92)の減少に留まった。
- 経営(102)は、系統の人気が低下している中で微増し、6年連続増加。学科別では、(会計ファイナンス)(127)が大幅増加で2年連続増加、(マーケティング)(85)は大幅減少で6年ぶりに減少。
- 国際観光(90)は、系統への人気低下で、2017年度の学部開設後初めて減少。
- 国際(83)は、系統への人気低下で大幅減少し、2年ぶりに減少。2学科とも減少し、(国際地域)(80)は前年度大幅増加の反動もあって大幅減少。
- 総合情報(111)は、2年連続大幅増加の反動はなく増加。
- 情報連携(87)は、2年連続大幅増加の反動で減少。新規実施方式を除くと(76)の大幅減少。
- 理工(110)は、系統の人気上昇で6年連続増加。学科別では、前年度唯一減少の(機械工)(130)が大幅増加。一方で、(生体医工)(85)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 生命科学(90)は、3年ぶりに減少。学科別では、(応用生物科学)(108)が3年連続増加、(生命科学)(77)は大幅減少で3年ぶりに減少。
- ライフデザイン(92)は、4年ぶりに減少。学科・専攻別では、(人間環境デザイン)(107)のみやや増加で6年連続増加。

＜センター利用方式＞

- 文(81)は、大幅減少で2年連続減少。全学科・専攻が減少し、(教育／人間発達)(92)、(哲)(94)以外は大幅減少。
- 法(55)は、大幅減少で前年度の反動による大幅な増減が継続。2学科とも大幅減少。
- 経済(69)は、3学科全てが2年連続大幅減少。
- 経営(52)は、3学科全てがほぼ半減で、7年ぶりに減少。
- 社会(78)は、2年連続大幅減少。学科別では、(社会文化システム)(127)は大幅増加だが、他の4学科は大幅減少。
- 国際観光(66)は、大幅減少で3年連続減少。廃止方式を除いても(71)の大幅減少。
- 国際(66)は、大幅減少で2年連続減少。2学科とも大幅減少。
- 総合情報(61)は、大幅減少で2年連続減少。
- 情報連携(84)は、2年連続増加の反動で大幅減少。新規実施方式を除くと(78)の大幅減少。
- 理工(79)は、大幅減少で6年ぶりに減少。(機械工)(86)以外の5学科は大幅減少で、特に(都市環境デザイン)(61)、(電気電子情報工)(72)の減少率の大きさが目立った。
- 生命科学(72)は、大幅減少で3年ぶりに減少。2学科とも大幅減少。
- 食環境科学(90)は、3年ぶりに減少。学科・専攻別では、(食環境科学／フードサイエンス)(119)は2年連続大幅増加だが、他はいずれも3年ぶりに減少。特に(健康栄養)(68)は大幅減少。
- ライフデザイン(55)は、大幅減少で8年ぶりに減少。全学科・専攻が大幅減少で、(生活支援／生活支援)(37)は激減。

日本大：大学全体では1万3千人以上増加、メディカル系は減少 一般：+10,963人 センター：+2,086人



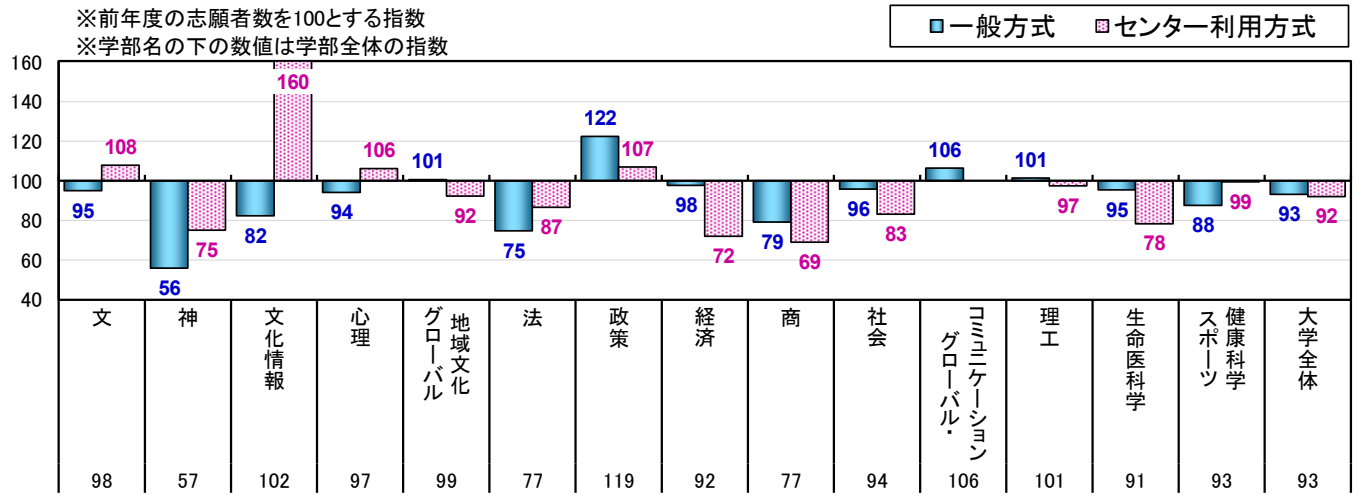
入試変更点

選抜方法：新規実施…文理(教育、社会)＜A 2期＞、(体育)＜セ・C 1期＞、(化学)＜セ・C 2期＞
 生物資源科学(生命農、動物資源科学、海洋生物資源科学、応用生物科学、生命化学、食品ビジネス、食品生命、くらしの生物)＜N 2期＞
 芸術(音楽／作曲・理論、弦管打楽)
 廃止…文理(地球科学)＜セ・C 2期＞
 募集人員：医＜A＞…92人→97人
 入試科目：文理(英文、国文、史、心理、体育、中国語中国文化、地理、哲学、ドイツ文、社会福祉)＜A 2期＞
 …公の選択から倫除外
 (情報科学、生命科学、化学)＜A 2期＞…理の選択から地学除外

	(物理)〈A 2 期〉…理を物必須から化、生との選択に (数学)〈セ・C 2 期〉…理を除外 生産工(応用分子化学)〈N 1 期、セ・C 1 期、セ・C 2 期〉…理の選択に生追加 生物資源科学(森林資源科学、国際地域開発、生物環境工)〈N 2 期〉…選択に理追加 芸術(音楽／情報音楽)〈N 1 期〉…数→国
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数	
大学全体では、13,049 人(113)の増加で、前年度減少の反動がはっきりと表れた。志願者数は近畿大に次ぐ多さ。学部別では、危機管理(176)、工(127)、生物資源科学(127)、理工(124)、経済(120)、生産工(120)などが大幅増加。一方で、メディカル系の4学部は、系統への人気低下で全て減少。	
＜一般方式＞ ○法(109)は、2年ぶりに増加。5学科全てが増加し、特に(法律)(112)、(政治経済)(111)の増加が目立った。 ○経済(116)は、大幅増加で2年ぶりに増加。学科別では、(金融公共経済)(89)は2年連続減少だが、他の2学科は大幅増加。 ○商(94)は、やや減少で2年ぶりに減少。学科別では、(経営)(115)は大幅増加だが、他の2学科は減少で3学科全てが前年度と逆の増減。(会計)(83)は大幅減少 ○国際関係(106)は、やや増加で2年ぶりに増加。 ○文理(121)は、大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、唯一減少の(社会福祉)(99)も2人のみ減少に留まった。(教育)(147)、(社会)(142)、(生命科学)(137)などが大幅増加。 ○危機管理(176)は、激増で前年度の反動による増減が継続。方式別では、〈N 2 期〉(98)は微減だが、他の2方式は激増。 ○工(134)は、大幅増加で2年ぶりに増加。理・工系3学部の中では最も高い増加率だった。6学科全てが大幅増加。 ○生産工(123)は、大幅増加で2年ぶりに増加。9学科全てが増加し、(機械工)(144)、(建築工)(133)、(数理情報工)(129)などが大幅増加。 ○理工(124)は、大幅増加で2年ぶりに増加。14学科全てが増加し、(電気工)(145)、(数学)(138)、(物理)(135)などが大幅増加。 ○医(93)は、やや減少で2年連続減少。方式別では、〈N 1 期〉(121)が大幅増加で2年ぶりに増加。〈A〉(90)は4年連続減少で、募集人員減少もあり、志願倍率は39.2倍→33.3倍とダウン。 ○歯(93)は、やや減少で5年ぶりに減少。方式別では、〈N 1 期〉(136)は大幅減少だが、〈A〉(81)は大幅減少。 ○松戸歯(82)は、大幅減少で3年ぶりに減少。方式別では、〈N 1 期〉(126)は大幅増加だが、他の2方式は大幅減少。 ○薬(90)は、2年連続減少。方式別では、〈N 1 期〉(109)は増加、〈A〉(86)は2年連続減少。 ○スポーツ科学(118)は、大幅増加で4年ぶりに増加。方式別では、〈N 2 期〉(77)は大幅減少だが、他の2方式は大幅増加。 ○生物資源科学(127)は、前年度大幅減少の反動に加え、〈N 2 期〉を前年度から実施の3学科に続き、(獣医)以外の8学科にも拡大したことで大幅増加。新規実施分を除いても(120)の大幅増加。学科別でも全学科が新規実施分を除いても増加。〈N 2 期〉を前年度から実施の3学科は、選択科目に理科を追加したことでいずれも大幅増加。	
＜センター利用方式＞ ○法(142)は、大幅増加で前年度の反動による大幅な増減が継続。5学科全てが増加し、(政治経済)(221)は倍増以上の激増。 ○経済(137)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。(金融公共経済)(90)は減少したが、他の2学科は大幅増加。特に(産業経営)(344)は前年度激減の反動で激増。 ○商(48)は、前年度大幅増加の反動で半減以下。3学科全てが減少し、(商業)(32)が激減、(会計)(49)は半減。 ○国際関係(123)は、大幅増加で2年ぶりに増加。学科別では、(国際総合政策)(157)が大幅増加だが、(国際教養)(91)は2年連続減少。 ○文理(98)は、(体育)で新規実施したが微減で、新規実施分を除くと(95)のやや減少。学科別では、(社会福祉)(207)が倍増以上の激増、(化学)(146)などは大幅増加。一方で、(英文)(48)、(社会)(68)などは大幅減少。 ○工(122)は、大幅増加で3年連続増加。6学科全てが増加し、(情報工)(112)、(土木工)(110)以外の4学科は大幅増加。 ○生産工(114)は、2年ぶりに増加。学科別では、(数理情報工)(150)、(建築工)(135)などが大幅増加。減少した学科では、(電気電子工)(90)の減少率が最も大きかった。 ○理工(123)は、大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、(海洋建築工)(89)のみ減少。(電気工)(171)、(建築)(146)、(数学)(139)などが大幅増加。 ○歯(72)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。 ○松戸歯(71)は、2年連続大幅減少。 ○薬(80)は、大幅減少で3年連続大幅減少。	

同志社大：大学全体では2年連続減少、政策は大幅増加

一般：-2,917人 センター：-888人



入試変更点 学科名称：理工(エネルギー機械工)→(機械理工)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,805人(93)のやや減少で2年連続減少となり、志願者数は2015年度以来5年ぶりに5万人を下回った。方式別では、一般方式(93)はやや減少で2年連続減少、センター利用方式(92)は2年ぶりに減少。学部別では、政策(119)は大幅増加したが、系統への人気低下している法(77)、商(77)などは大幅減少。

<一般方式>

- 文(95)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(哲)(127)は大幅増加したが、他の4学科は減少。
- 文化情報(82)は、2年連続大幅減少。方式別では、〈学部理系〉(152)、〈全学理系〉(140)が大幅増加、〈学部文系〉(61)、〈全学文系〉(66)は大幅減少と文理で対照的。
- 心理(94)は、2年連続やや減少。3方式とも減少。
- 法(75)は、系統への低人気から大幅減少で2年ぶりに減少。2学科とも減少し、特に(政治)(52)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減。
- 政策(122)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 経済(98)は、系統への低人気から前年度大幅減少の反動はなくやや減少。
- 商(79)は、系統への低人気から大幅減少で2年連続減少。2コースとも減少し、(商／商学総合)(77)は2年連続大幅減少。
- 社会(96)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(教育文化)(79)、(社会)(84)はいずれも大幅減少。
- グローバル・コミュニケーション(106)は、やや増加で前年度の反動による増減が継続したが、前年度大幅減少の反動は小さかった。コース別では、(グローバル・コミュニケーション／中国語)(188)が激増。
- 理工(101)は、微増で3年ぶりに増加。学科別では、(エネルギー機械工)から名称変更の(機械理工)(125)は2年連続大幅増加。(数理システム)(121)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(インテリジェント情報)(96)はやや減少で、5年ぶりに減少。
- 生命医科学(95)は、やや減少で3年ぶりに減少。学科別では、唯一減少の(医工)(77)が大幅減少で2年連続減少。
- スポーツ健康(88)は、2年ぶりに減少。

<センター利用方式>

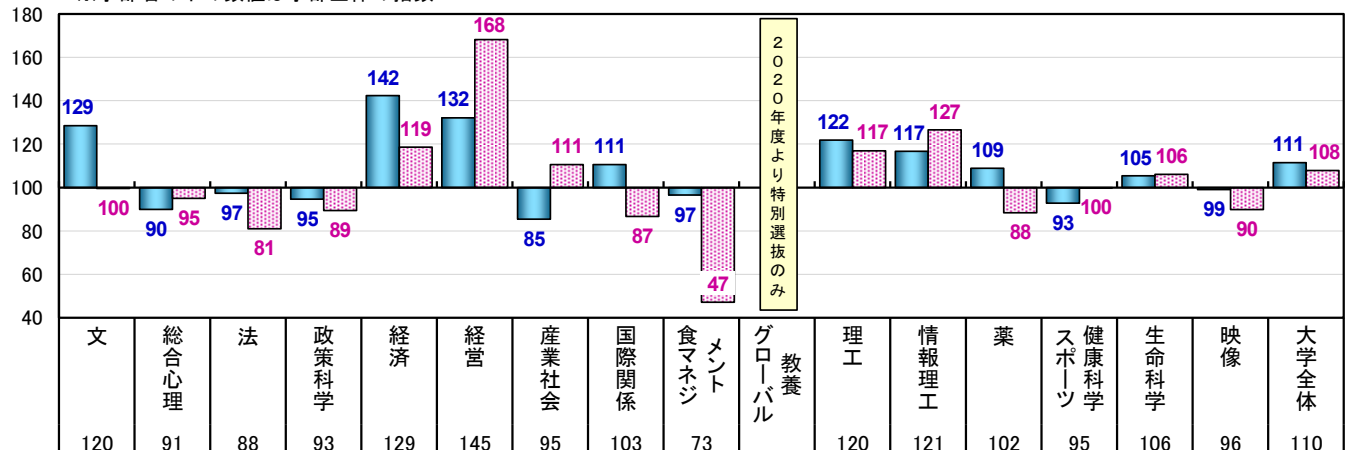
- 文(108)は、2年連続増加。学科別では、(文化史)(92)のみ減少。(哲)(137)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(英文)(115)は2年連続大幅増加。
- 文化情報(160)は、大幅増加で2年ぶりに増加。2方式とも大幅増加で、特に〈セ・A方式〉(196)はほぼ倍増。
- グローバル・地域文化(92)は、2年ぶりに減少。3コースとも減少。
- 法(87)は、2年ぶりに減少。2学科とも減少し、特に(政治)(82)は大幅減少。
- 政策(107)は、やや増加で2年ぶりに増加。
- 経済(72)は、系統への低人気から大幅減少で2年連続減少。
- 商(69)は、3年連続増加の反動で大幅減少。
- 社会(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。5学科とも前年度と逆の増減で、(社会福祉)(450)は激増、(社会)(135)は大幅増加。一方で、(メディア)(20)は激減、(産業関係)(41)、(教育文化)(74)は大幅減少で、いずれも前年度激増の反動。
- 理工(97)は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。学科別では、(機械システム工)(119)、(インテリジェント情報)(117)がいずれも2年連続大幅増加。一方で、(電気工)(95)はやや減少で5年連続減少。(エネルギー機械工)から名称変更の(機械理工)(88)は前年度激増の反動で減少。
- 生命医科学(78)は、3年連続増加の反動で大幅減少。3学科とも減少し、特に(医情報)(65)の大幅減少が目立った。

立命館大：志願者数は初めて 10 万人を突破

一般：+6,577 人 センター：+2,894 人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点

改組：文(人文／コミュニケーション)→(人文／国際コミュニケーション)、(人文／言語コミュニケーション)
理工(数理科学)→(数理科学／データサイエンス)、(数理科学／数学)

入試科目：産業社会<学部個別>…国+歴公+外→国+外+(歴公 or 数)

選抜方法：食マネジメント<理系3教科>数+理+外…新規実施

スポーツ健康科学<理系3教科>数+理+外…新規実施

国際関係<IR>…英語外部試験の対象試験に TEAP 追加、スコアの変更

グローバル教養<センター+面接>…廃止

スポーツ健康科学<学部個別理科1科目>…廃止

募集人員：文(人文／日本史)<全校統一>…46人→50人、<学部個別>…16人→19人

(人文／地域研究)<全校統一>…48人→45人、<学部個別>…21人→18人

法<後期分割>…25人→23人

経済(経済／国際)<全校統一>…45人→40人

経営(国際経営)<全校統一>…45人→44人、<学部統一>…13人→12人

産業社会(現代社会／現代社会)<全校統一>…115人→127人、<学部個別>…18人→19人、

<後期分割>…28人→18人、<セ・後期>…5人→2人

(現代社会／メディア社会)<全校統一>…62人→65人、<学部個別>…9人→10人、

<後期分割>…13人→10人、<セ・後期>…3人→2人

(現代社会／スポーツ社会)<全校統一>…30人→33人、<学部個別>…4人→5人、

<後期分割>…9人→5人

(現代社会／子ども社会)<全校統一>…17人→21人、<学部個別>…2人→3人、

<後期分割>…9人→4人

(現代社会／人間福祉)<全校統一>…45人→46人、<学部個別>…8人→9人、

<後期分割>…7人→5人

情報理工<全校統一>…144人→149人、<後期分割>…20人→15人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では9,471人(110)の増加で、2年ぶりに増加し、志願者数は初めて10万人を突破。学部別では、15学部中8学部が増加し、経営(145)、経済(129)、情報理工(121)、文(120)、理工(120)は大幅増加。一方で、食マネジメント(73)は大幅減少。

<一般方式>

○文(129)は、2年ぶりに大幅増加。学域別では、(人文／国際コミュニケーション、言語コミュニケーション)(167)は改組前の(人文／コミュニケーション)と比べると大幅増加。既存の学域も全て増加。

○総合心理(90)は、減少で2年連続減少。方式別では、<後期分割>(174)が大幅増加。<学部理系>(130)と<学部文系>(78)はどちらも前年度と逆の増減。

○法(97)は、やや減少で2年連続減少。

○政策科学(95)は、やや減少で2年連続減少。方式別では、<後期分割>(222)のみ2.2倍の激増。

○経済(142)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。専攻別では、(経済／国際)(144)は2年連続大幅増加、(経済／経済)(142)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

○経営(132)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(経営)(134)は2年連続減少の反動で大幅増加、(国際経営)(129)は2年連続大幅増加。

○産業社会(85)は、大幅減少。専攻別では、(現代社会／子ども社会)(161)、(現代社会／人間福祉)(127)は大幅増加。一方で、(現代社会／現代社会)(68)は大幅減少、(現代社会／メディア社会)(91)、(現代社会／スポーツ社会)(93)は2年連続減少。

○国際関係(111)は、増加で前年度の反動による増減が継続。専攻別では、(国際関係／グローバル・スタディーズ)(177)は大幅増加、(国際関係／国際関係)(105)はやや増加。

○食マネジメント(97)は、やや減少で2年連続減少、新規実施の<理系3教科>を除くと(90)の減少。方式別では<後期分割>(166)は大幅増加、<学部個別>(66)が大幅減少、<全校統一文系>(86)は減少。

- 理工(122)は、系統への人気上昇で大幅増加。8 学科全てが増加し、(建築都市デザイン)以外はいずれも大幅増加。2 コース制になった(数理科学)(181)は激増。
- 情報理工(117)は、系統への人気上昇に加え、前年度大幅減少の反動で大幅増加。3 方式とも増加し、特に<後期分割>(177)は激増。
- 薬(109)は、2 学科とも前年度大幅減少の反動で増加。方式別では、<薬学>(130)は3 年連続減少の反動で大幅増加。<後期分割>(112)は増加で、他の3 方式は減少。
- スポーツ健康科学(93)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まったが、新規実施の<理系3 教科>を除くと(85)の大幅減少。
- 生命科学(105)は、3 年連続増加。学科別では、(生物工)(84)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、他の3 学科は増加し、特に(生命情報)(129)は2 年連続大幅増加。
- 映像(99)は、微減。前年度は2 年連続増加で志願者数が2017 年度の1.5 倍まで増加した反動はなかった。

<センター利用方式>

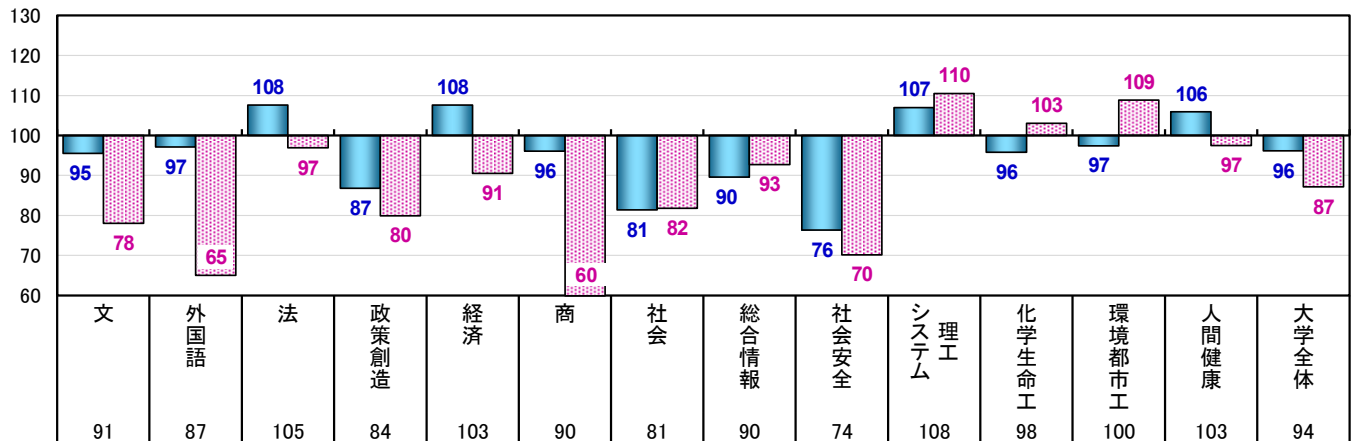
- 文(100)は、前年度並で3 年連続大幅減少の反動はみられなかった。学域別では、(人文/国際コミュニケーション、言語コミュニケーション)(117)は改組前の(人文/コミュニケーション)と比べると大幅増加。(人文/日本文学研究)(117)も大幅増加だが、(人文/国際文化)(82)、(人文/地域研究)(84)は大幅減少。
- 総合心理(95)は、やや減少で4 年連続減少。方式別では、<セ・7 科目>(132)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 法(81)は、2 年連続増加の反動で大幅減少。方式別では、<後期型>(110)は増加したが、他の方式は減少。前年度合格最低点をアップさせたことで敬遠された。
- 政策科学(89)は、2 年連続減少。方式別では、<セ・併用>(108)は前年度大幅減少の反動で増加。一方で、<セ・7 科目>(67)は2 年連続増加の反動で大幅減少。
- 経済(119)は、2 年連続減少の反動で大幅増加。専攻別では、(経済/国際)(244)が2 年連続大幅増加で倍増以上。(経済/経済)(114)は2 年連続減少の反動で増加。
- 経営(168)は、2 年連続減少の反動に加え、前年度合格最低点をダウンさせた募集単位が多かったことから狙われて大幅増加。学科別では、(国際経営)(230)、(経営)(160)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 産業社会(111)は、2 年連続増加。専攻別では、(現代社会/スポーツ社会)(66)は大幅減少だが、他の専攻は増加。特に(現代社会/子ども社会)(203)が2 年連続減少の反動で倍増以上、(現代社会/人間福祉)(136)が前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 国際関係(87)は、3 年連続減少。方式別では、<セ・後期型>(124)が大幅増加。他の4 方式は減少。
- 食マネジメント(47)は、大幅増加の反動でほぼ半減。方式別では、<セ・後期型>(105)以外の4 方式は減少し、<セ・3 教科>(39)、<セ・5 教科>(40)、<セ・7 科目>(44)は半減以下。前年度合格最低点を大きくアップさせたことで敬遠された。
- 理工(117)は、系統への人気上昇で大幅増加し、2 年連続増加。8 学科全てが増加し、(物理科学)(154)、(環境都市工)(127)などが大幅増加。
- 情報理工(127)は、系統への人気上昇に加え、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 薬(88)は、3 年連続減少。2 学科とも減少し、特に(創薬科学)(75)は大幅減少。
- 生命科学(106)は、やや増加で2 年連続増加。学科別では、(生物工)(96)はやや減少したが、他の3 学科は増加。(応用化学)(114)は4 年連続増加。
- 映像(90)は、2 年連続増加の反動で減少。

関西大：大学全体では4年ぶりに減少

一般：-2,679人 センター：-3,148人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点

選抜方法：新規実施…法〈学部個別2教科型・英語外部試験利用〉〈セ・前期3科目型〉
 〈セ・中期2科目型国語〉〈セ・中期2科目型英語〉
 社会安全〈セ・後期2科目型〉
 システム理工〈セ・後期英語外部試験利用〉
 (数学)〈セ・後期3科目型〉
 環境都市工(都市システム工、エネルギー・環境工)〈セ・後期4科目型〉
 廃止…社会安全〈セ・後期4科目型〉
 システム理工(数学)〈セ・後期4科目型〉
 環境都市工(都市システム工、エネルギー・環境工)〈セ・後期5科目型〉
 募集人員：経済(経済)〈学部個別・英語外部試験利用〉…10人→20人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、5,827人(94)のやや減少で4年ぶりに減少し、志願者数は3年ぶりに9万人を下回った。方式別では、センター利用方式(87)は、理工系3学部のみ増加。学部別では、システム理工(108)が4年連続増加、人間健康(103)は3年連続増加。一方で、社会安全(74)は大幅減少で3年連続減少。社会(81)、政策創造(84)も大幅減少。

〈一般方式〉

- 文(95)は、やや減少で4年ぶりに減少。学科・専修別では、(総合人文／初等教育)(103)はやや増加で3年連続増加。
- 法(108)は、増加だが、新規実施の〈学部個別2教科型・英語外部試験利用〉を除く既存の方式のみだと(98)の微減。
- 政策創造(87)は、前年度大幅減少の反動はなく2年連続減少。2学科とも2年連続減少で、(国際アジア法政策)(74)は2年連続大幅減少。
- 経済(108)は、2年ぶりに増加。
- 社会(81)は、大幅減少で2年連続減少。4専攻全てが2年連続減少。(社会／社会システムデザイン)(55)、(社会／社会)(83)は大幅減少。
- 総合情報(90)は、2年連続増加の反動で減少。
- 社会安全(76)は、大幅減少で3年連続減少。
- システム理工(107)は、やや増加で4年連続増加。学科別では、(機械工)(100)は8人の微減だが、他の3学科は増加。特に(物理・応用物理)(116)は大幅増加。(電気電子情報工)(111)は4年連続増加。
- 化学生命工(96)は、やや減少で3年ぶりに減少。2学科とも減少。

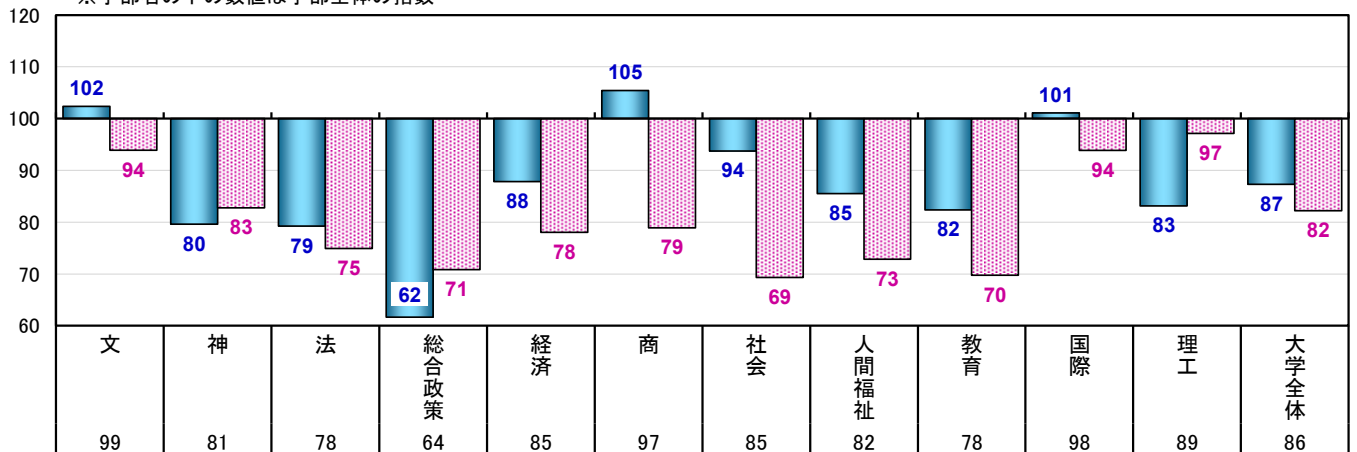
〈センター利用方式〉

- 文(78)は、3年連続増加の反動で大幅減少。全ての方式で減少。
- 外国語(65)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、〈前期〉(59)の大幅減少が目立った。
- 法(97)は、やや減少で2年連続減少。新規実施の〈前期3教科型〉を除く既存の方式のみだと(73)の大幅減少。
- 政策創造(80)は、3年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(国際アジア法政策)(119)は大幅増加で3年連続増加だが、(政策)(70)は3年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済(91)は、4年連続増加の反動で減少。
- 商(60)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。〈中期〉(68)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 社会(82)は、大幅減少で2年連続減少。4専攻全てが減少し、(社会／社会システムデザイン)(70)、(社会／社会)(82)は大幅減少。
- 総合情報(93)は、前年度5年ぶりに増加したが、再度減少に転じた。
- 社会安全(70)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- システム理工(110)は、4年連続増加。方式別では、〈セ・前期〉(115)が大幅増加。4学科全てが増加し、(数学)(129)は2年連続大幅増加。(電気電子情報工)(116)は大幅増加で4年連続増加。
- 化学生命工(103)は、やや増加で3年連続増加。2学科とも3年連続増加。
- 環境都市工(109)は、2年連続増加。3学科全てが増加。

関西学院大：全学部減少で大学全体では3年連続減少 一般：-3,241人 センター：-2,376人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点

新規実施：理工<セ・全学科共通数学併用型><セ・1月5科目型><セ・3月4科目型>
(先進エネルギーナノ工)<英数型>
募集人員：理工(化学)<英数型、セ・数学併用型>…各3人→2方式合計で8人、<セ・3月>…3人→2人
(物理)<セ・数学併用型>…3人→4人、<セ・3月>…4人→2人
(生命科学)<セ・3月>…6人→4人
(情報科学)<学部個別>…13人→14人、<セ・3月>…3人→2人
<英数型>…4人、<セ・数学併用型>…3人→2方式合計で8人
(数理科学)<英数型>…5人、<セ・数学併用型>…3人→2方式合計で9人
(人間システム工)<英数型>…4人、<セ・数学併用型>…3人→2方式合計で8人、
<セ・3月>…3人→2人
(先進エネルギーナノ工)<セ・数学併用型>…3人→<英数型>との合計で8人、
<セ・1月>…7人→6人、<セ・3月>…4人→2人
(環境・応用化学)<一般・英数型>…4人、<セ・数学併用型>…3人→2方式合計で8人、
<セ・3月>…3人→2人
(生命医化学)<セ・3月>…6人→4人
入試科目：理工(化学)<セ・3月6科目型>…理2(物+化)→理2(物 or 化 or 生 or 地学から2科目選択)
(情報科学)(数理科学)<セ・1月5科目型(理科2科目)>…理1→理2
(数理科学)<セ・3月6科目型>…理1→理2
配点：理工(数理科学)<一般・全学日程>…数200点→150点

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、5,617人(86)の減少で3年連続減少。方式別でも一般方式(87)、センター利用方式(82)のいずれも3年連続減少。センター利用方式は、理工で新規実施方式があったが、大幅減少となった。学部別では、全学部が減少し、11学部中7学部が志願者数15%以上の大幅減少。

<一般方式>

○文(102)は、微増だが3年ぶりに増加。学科別では、(総合心理科学)(170)は大幅増加したが、他の2学科は減少。
○法(79)は、系統への人気低下から大幅減少し、2年連続減少。学科別では、(政治)(71)が2年連続大幅減少、(法律)(82)も大幅減少で3年ぶりに減少。
○総合政策(62)は、3年連続増加の反動と系統への人気低下で大幅減少。5方式全てが反動で減少し、<学部理系>(88)以外の4方式は大幅減少。
○経済(88)は、系統への人気低下で2年連続減少。方式別では、<学部理系>(138)が大幅増加、<英数型>(58)は大幅減少。
○商(105)は、系統への人気低下がある中でやや増加。方式別では、<英数型>(98)のみ微減。
○社会(94)は、系統への人気低下からやや減少し、3年連続減少。3方式全てが減少。
○人間福祉(85)は、系統への人気低下で2年連続大幅減少。3学科全てが2年連続減少し、特に(社会起業)(68)は2年連続大幅減少。
○教育(82)は、大幅減少で3年連続減少。コース別では、(教育/教育科学)(105)はやや増加だが、他の2コースは大幅減少。
○理工(83)は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、(先端エネルギーナノ工)(149)が大幅増加、(生命医化学)(101)は微増だが、他の7学科は減少で大幅減少が目立った。

<センター利用方式>

○文(94)は、やや減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、(総合心理科学)(123)は大幅増加したが、他の2学科は減少。
○法(75)は、系統への人気低下から大幅減少し、2年連続減少。2学科とも大幅減少。
○総合政策(71)は、系統への人気低下から大幅減少し、2年連続減少。方式別では、<セ・数学併用型>(93)以外は大幅減少。
○経済(78)は、系統への人気低下から大幅減少し、3年連続減少。全方式が大幅減少。
○商(79)は、系統への人気低下で2年連続大幅減少。方式別では、<セ・数学併用型>(110)は増加したが、他の方式は減少。

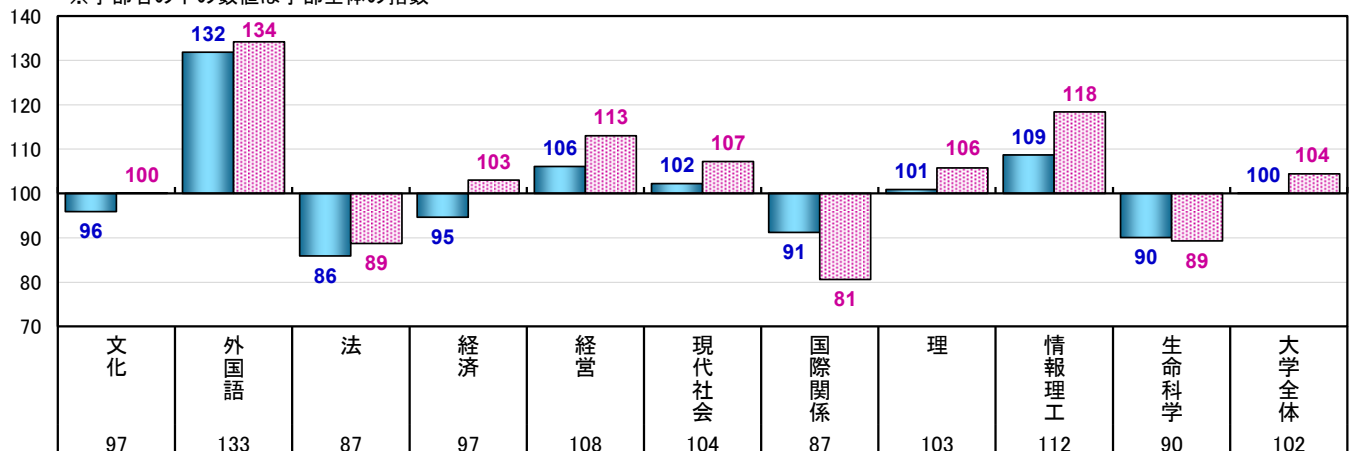
- 社会(69)は、系統への人気低下から大幅減少し、3年連続減少。方式別では、〈セ・数学併用型〉(128)は大幅増加したが、他の方式は大幅減少。
- 人間福祉(73)は、系統への人気低下で2年連続大幅減少。3学科全てが減少し、(人間科学)(89)以外の2学科は2年連続大幅減少。
- 教育(70)は、大幅減少で2年ぶりに減少。3コース全てが減少し、特に(教育／初等教育)(55)は大幅減少。
- 国際(94)は、やや減少で3年連続減少。方式別では、〈セ・3月〉(66)が大幅減少。
- 理工(97)は、新規実施方式があったが、やや減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、(化学)(127)、(先進エネルギーナノ工)(119)が大幅増加。一方で、(数理科学)(63)は大幅減少。

京都産業大：大学全体では5年連続増加

一般：+30人 センター：+840人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点 募集人員：外国語(ヨーロッパ言語)〈前期〉…56人→54人、経済〈前期〉…218人→217人
現代社会(健康スポーツ社会)…30人→29人
理(数理科学)〈前期〉…17人→19人、〈セ・後期〉…3人→2人
生命科学(先端生命科学)〈前期〉…31人→32人、〈セ・後期〉…4人→3人
(産業生命科学)〈前期〉…16人→15人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、870人(102)の微増だが5年連続増加。方式別では一般方式(100)が前年度並、センター方式(104)はやや増加。学部別では、外国語(133)の大幅増加が目立った。

<一般方式>

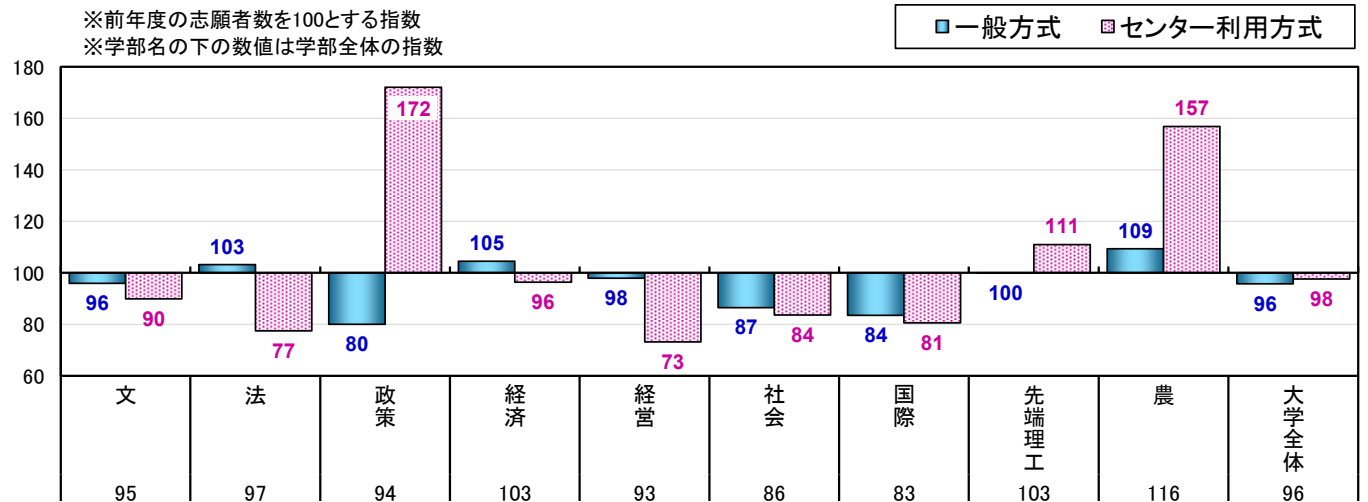
- 文化(96)は、前年度大幅減少の反動はなくやや減少し、2年連続減少。
- 外国語(132)は、前年度改組の影響もあって大幅減少したが、反動で大幅増加。3学科全てが増加。
- 法(86)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、(法政策)(116)が大幅増加、(法律)(75)は大幅減少といずれも前年度と逆の増減。
- 経済(95)は、2年連続増加の反動は小さくやや減少。
- 経営(106)は、5年連続増加。方式別では、〈後期〉(80)は大幅減少だが、〈前期〉(110)、〈中期〉(108)は増加。
- 開設2年目の国際関係(91)は、減少。3方式全てが減少し、特に〈後期〉(67)は大幅減少。
- 情報理工(109)は、2年ぶりに増加。方式別では、〈前期〉(114)は増加。一方で、〈後期〉(80)は大幅減少。
- 生命科学(90)は、前年度増加の反動で減少。学科別では、(先端生命科学)(86)は減少だが、(産業生命科学)(101)は微増。

<センター利用方式>

- 外国語(134)は、大幅増加。3学科全てが増加し、特に(アジア言語)(167)、(ヨーロッパ言語)(133)は大幅増加。
- 法(89)は、4年連続増加の反動で減少。学科別では、(法律)(73)は大幅減少、(法政策)(129)は大幅増加と対照的。
- 経済(103)は、やや増加だが3年連続増加。
- 経営(113)は、5年連続増加。方式別では、〈セ・後期〉(72)は大幅減少だが、その他の方式では増加。
- 現代社会(107)は、3年連続増加。学科別では、(現代社会)(113)が増加、(健康スポーツ社会)(98)は微減。
- 開設2年目の国際関係(81)は、大幅減少。全ての方式で減少し、特に〈セ・後期〉(47)は志願者数が半減以下。
- 理(106)は、5年連続増加。学科別では、(宇宙物理・気象)(90)は減少だが、他の2学科は大幅増加。
- 情報理工(118)は、大幅増加。募集人員が減少の〈セ・後期〉(63)は大幅減少だが、その他の方式は増加。
- 生命科学(89)は、3年連続増加の反動で減少し、2学科とも減少。

龍谷大：大学全体では9年ぶりに減少

一般：-1,908人 センター：-255人



入試変更点

学部改組：理工→先端理工

選抜方法：新規実施…政策<セ・併用前期><セ・中期3科目>

農<A日程農学型高得点科目重視><B日程農学型高得点科目重視>

<C日程農学型高得点科目重視><セ・前期3科目><セ・併用中期>

廃止…農<A日程4教科><B日程4教科><セ・前期4教科>

入試科目：政策<セ・後期3教科>…歴公、数、理が必須から選択に

農<A日程農学型スタンダード><B日程農学型スタンダード>…理の選択に物追加

(食料農業システム)<セ・中期>…3教科必須から3科目選択へ

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,163人(96)のやや減少で、9年ぶりに減少。学部別では、9学部中6学部が減少。理系2学部はいずれも増加し、理工から改組した先端理工(103)は、やや増加だった。

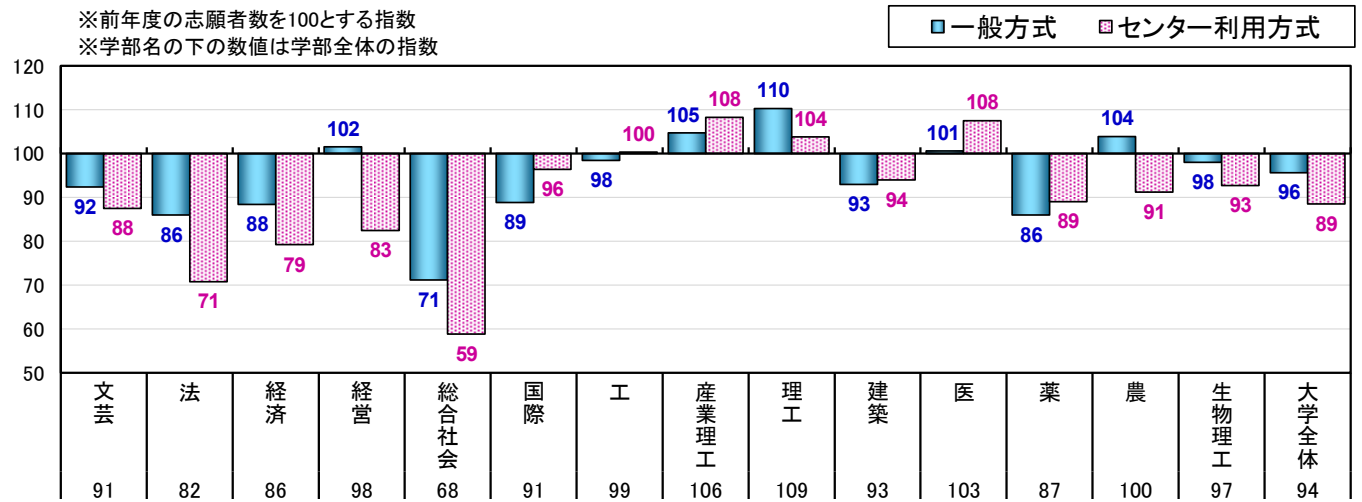
<一般方式>

- 文(96)は、3年ぶりに減少。
- 政策(80)は、系統への人気低下に加え、前年度大幅増加の反動で大幅減少。方式別では、<C日程>の2方式を除く4方式が減少。
- 経済(105)は、やや増加で2年ぶりに増加。方式別では、減少した<C日程>の2方式はいずれも大幅減少。
- 社会(87)は、系統への人気低下で2年ぶりに減少。3学科とも減少し、(社会)(84)、(コミュニティマネジメント)(84)はいずれも大幅減少。
- 国際(84)は、系統への人気低下で大幅減少し、2年連続減少。方式別では、<B日程文系型スタンダード>(103)を除きその他の方式はいずれも減少。
- 理工から改組した先端理工(100)は、前年度大幅増加した反動はなく前年度並。
- 農(109)は、2年連続増加だが、新規実施と廃止の方式を除くと(96)のやや減少。

<センター利用方式>

- 文(90)は、2年連続増加の反動で減少。
- 法(77)は、系統への人気低下で大幅減少し、3年ぶりに減少。方式別では、実施2年目の<セ・中期4科目型>(146)、<セ・中期3教科型>(114)は増加だが、その他の3方式はいずれも大幅減少。
- 政策(172)は、2年連続大幅増加だが、新規実施の2方式を除いた既存の方式では、(71)の大幅減少。
- 経営(73)は、系統への人気低下に加え、4年連続増加の反動で大幅減少。方式別では<セ・後期>(54)、<セ・前期3教科型>(61)の大幅減少が目立った。
- 社会(84)は、系統への人気低下に加え、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(コミュニティマネジメント)(65)、(現代社会)(80)は大幅減少。
- 国際(81)は、系統への人気低下に加え、前年度激増の反動で大幅減少し、志願者数は1,000人を下回った。
- 理工から改組した先端理工(111)は、3年連続増加。
- 農(157)は、大幅増加で2年連続増加。新規実施方式を除いても(125)の大幅増加。新規実施の<セ・前期3科目型>(144)が廃止の<セ・前期4教科>と比べて大幅増加したことが影響。

近畿大：大学全体では2年連続減少、文系6学部は全て減少 一般：-5,110人 センター：-4,242人



入試変更点 選抜方法：新規実施…国際<セ・C前期1科目><セ・C前期2科目>
理工<セ・C前期5科目>
入試科目：建築<セ・C前期>…数1科目(Ⅱ・B)→2科目(Ⅰ・A、Ⅱ・B)
<セ・C中期>…4教科必須(国+数2+理+外)→5教科から3教科選択
募集人員：医<前期A>…65人→55人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、9,352人(94)のやや減少で2年連続減少だが、志願者数は7年連続で全国最多。文理別では、理系8学部合計(102)では微増したが、文系6学部は全て減少し、合計では(87)の減少。

<一般方式>

- 文芸(92)は、2年連続減少。学科・専攻別では、(芸術/舞台芸術)(127)、(芸術/造形芸術)(122)は大幅増加だが、他の学科・専攻は減少。特に(文/英語英米文)(76)は大幅減少。
- 法(86)は、系統への人気低下で3年連続減少。
- 経済(88)は、系統への人気低下で2年連続減少。3学科全てが減少し、(総合経済政策)(73)は2年連続大幅減少。
- 経営(102)は、系統への人気は低下しているが、微増で2年ぶりに増加。学科別では、(経営)(113)の増加、(キャリア・マネジメント)(82)の大幅減少が目立った。(キャリア・マネジメント)は6年ぶりに減少。
- 総合社会(71)は、系統への人気低下で大幅減少し、6年ぶりに減少。3専攻全てが減少し、(総合社会/環境・まちづくり系)(59)、(総合社会/社会・マスメディア系)(69)は大幅減少。
- 国際(89)は、系統への人気低下で3年連続減少。専攻別では、(国際/東アジア)(118)は大幅増加、(国際/グローバル)(83)は大幅減少で3年連続減少。
- 産業理工(105)は、やや増加で11年連続増加。
- 理工(110)は、4年連続増加。学科・コース別では、(電気電子工)(132)、(理/化学)(122)、(機械工)(120)、(理/数学)(118)が大幅増加。一方で、(生命科学)(84)は大幅減少。
- 建築(93)は、やや減少で2年ぶりに減少。
- 医(101)は、微増だが4年ぶりに増加。方式別では、<前期A>(93)はやや減少だが、募集人員減少で志願倍率は20.4倍→22.5倍とアップ。<後期>(116)は大幅増加。
- 薬(86)は、系統への人気低下が続き3年連続減少。学科別では、(創薬科学)(103)はやや増加で2年連続増加だが、(医療薬)(82)は大幅減少で3年連続減少。
- 農(104)は、やや増加で3年ぶりに増加。学科別では、(環境管理)(91)、(農業生産科学)(96)は減少したが、他の4学科は増加し、特に(応用生命化学)(117)、(生物機能科学)(115)は大幅増加。

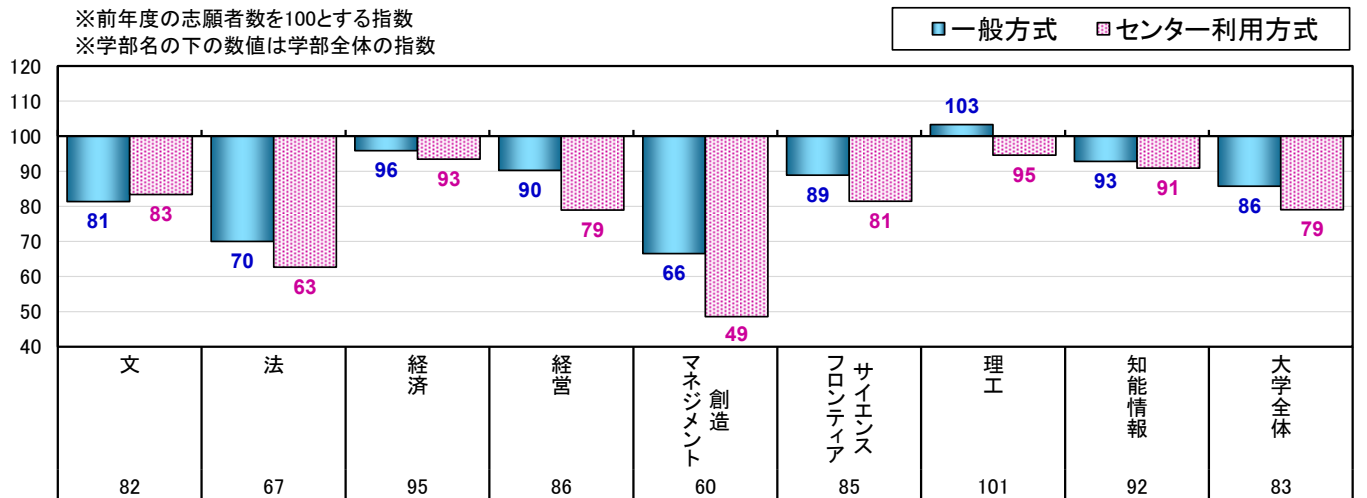
<センター利用方式>

- 文芸(88)は、6年ぶりに減少。学科・専攻別では、(芸術/舞台芸術)(122)は大幅増加だが、他の学科・専攻は減少。(文/英語英米文)(68)、(芸術/造形芸術)(72)、(文化デザイン)(83)は大幅減少。
- 法(71)は、系統への人気低下で大幅減少し、2年連続減少。
- 経済(79)は、系統への人気低下で大幅減少し、2年連続減少。3学科全てが2年連続減少し、(総合経済政策)(67)、(経済)(79)は大幅減少。
- 経営(83)は、系統への人気低下で大幅減少し、2年連続減少。4学科全てが減少し、特に(キャリア・マネジメント)(73)、(商)(82)は大幅減少。
- 総合社会(59)は、系統への人気低下に加え、5年連続増加の反動で大幅減少。
- 国際(96)は、やや減少だが、新規実施方式を除くと(61)の大幅減少。
- 産業理工(108)は、やや増加で2年ぶりに増加。
- 理工(104)は、やや増加で4年連続増加だが、新規実施方式を除くと(80)の大幅減少。学科・コース別では、(理/化学)(150)、(理/数学)(126)の大幅増加、(生命科学)(76)の大幅減少が目立った。大幅増加の2コースは、いずれも新規実施方式を除いても増加。
- 建築(94)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。方式別では、数学を1科目から2科目必須にした<セ・C

- 前期>(85)が大幅減少。一方で、負担減に変更の<セ・C中期>(257)は激増。
- 医(108)は、2年ぶりに増加。方式別では、<セ・中期>(129)、<セ・後期>(115)が大幅増加。
 - 薬(89)は、系統への人気低下が続く2年連続減少。学科別では、(創薬科学)(113)は2年ぶりに増加したが、(医療薬)(81)は2年連続大幅減少。
 - 農(91)は、2年ぶりに減少。学科別では、全学科が前年度と逆の増減で、(生物機能科学)(110)のみ増加。(環境管理)(81)、(水産)(83)は大幅減少。

甲南大：大学全体では4年ぶりに減少

一般：-1,962人 センター：-1,930人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,892人(83)の大幅減少で、4年ぶりに減少。学部別では、経済(101)、理工(101)は微増だが、他の6学部が減少。方式別では、一般方式は1,962人(86)の減少で4年ぶりに減少。センター利用方式は2年連続大幅増加の反動で1,930人(79)の大幅減少。

<一般方式>

- 文(81)は、大幅減少。全学科で減少し、(英語英米文)(66)、(人間科学)(77)は大幅減少。
- 法(70)は、大幅減少で3年ぶりに減少。全方式で減少。
- 経済(96)は、前年度大幅減少の反動はなく、やや減少で2年連続減少。
- 経営(90)は、2年連続減少。
- マネジメント創造(66)は、3年連続大幅増加の反動で大幅減少。(マネジメント創造/マネジメント)(65)は大幅減少。
- フロントサイエンス(89)は、2年連続減少。
- 知能情報(93)は、やや減少。方式別では、<前期2教科型>(77)の大幅減少が目立った。

<センター利用方式>

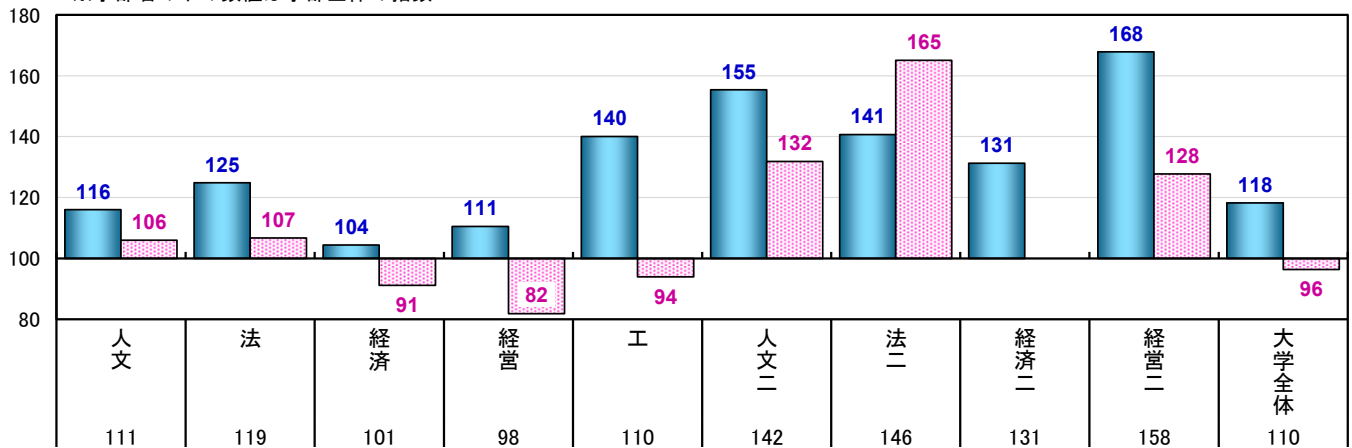
- 文(83)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(社会)(109)のみ増加し、その他の4学科はいずれも大幅減少。
- 法(63)は、大幅減少で3年ぶりに減少。方式別では<セ・前期4科目型>(105)、<セ・前期外部英語試験>(105)のやや増加を除くその他の方式はいずれも大幅減少。
- 経済(93)は、やや減少で2年連続減少。
- 経営(79)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。全方式で減少。
- マネジメント創造(49)は、3年連続増加の反動で半減。
- フロントサイエンス(81)は、大幅減少し4年ぶりに減少。方式別では、<セ・前期外部英語試験>(125)を除く4方式はいずれも減少。
- 理工(95)は、やや減少。学科別では、(生物)(86)の減少が目立った。
- 知能情報(91)は、前年度5年ぶりに増加したが、再度減少に転じた。方式別では、<セ・前期2教科併用型>(68)、<セ・後期>(73)は大幅減少、<セ・前期外部英語試験>(174)は激増と大幅な増減が目立った。

北海学園大：大学全体では3年連続増加、経営のみ減少

一般：+791人 センター：-100人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、地元志向の高まりで、691人(110)の増加で3年連続増加。2部を除くと、394人(106)のやや増加。方式別では、一般方式(118)が大幅増加で5年連続増加。2部を除いても(115)の大幅増加。学部別では、唯一減少の経営(98)も微減に留まった。

<一般方式>

- 人文(116)は、大幅増加で3年連続増加。2学科とも増加し、(英米文化)(128)は大幅増加。
- 法(125)は、大幅増加で2年ぶりに増加。志願者数は5年ぶりに800人を上回った。
- 経済(104)は、やや増加で3年連続増加。
- 経営(111)は、2年連続増加。2学科とも増加し、(経営情報)(119)は大幅増加。
- 工(140)は、系統への人気上昇で2年連続大幅増加。全学科・コースが大幅増加し、特に(電子情報工)(164)、(社会環境工/社会環境)(145)、(生命工)(144)の増加率の大きさが目立った。

<センター利用方式>

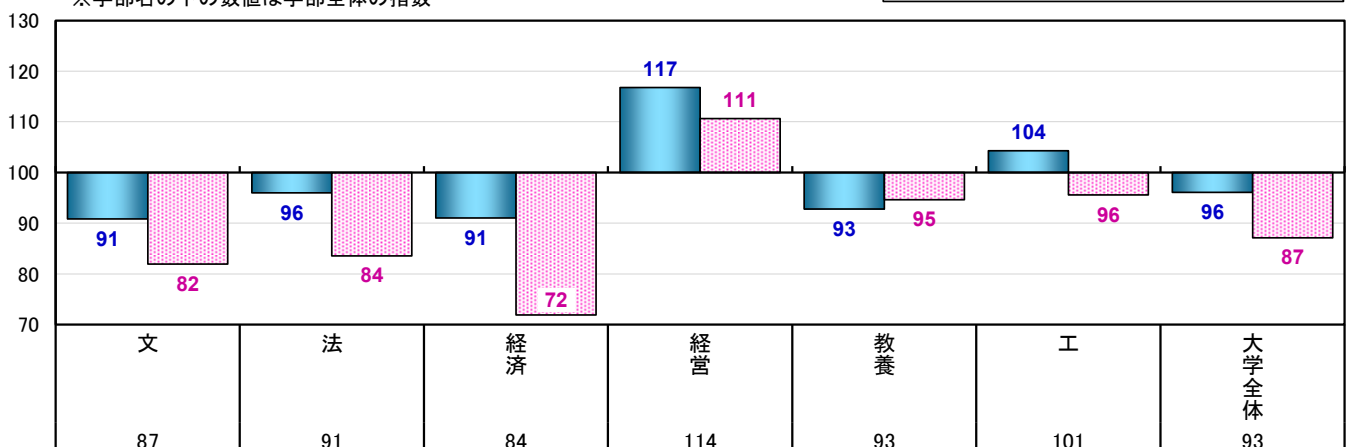
- 人文(106)は、やや増加で3年連続増加。学科別では、(英米文化)(134)は大幅増加で3年連続増加だが、(日本文化)(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 法(107)は、前年度大幅増加の反動はなく、やや増加で2年連続増加。
- 経済(91)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 経営(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 工(94)は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。学科・コース別では、(生命工)(109)が4年連続増加、(建築)(77)は大幅減少。

東北学院大：志願者数は4年ぶりに1万人を下回る

一般：-260人 センター：-530人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

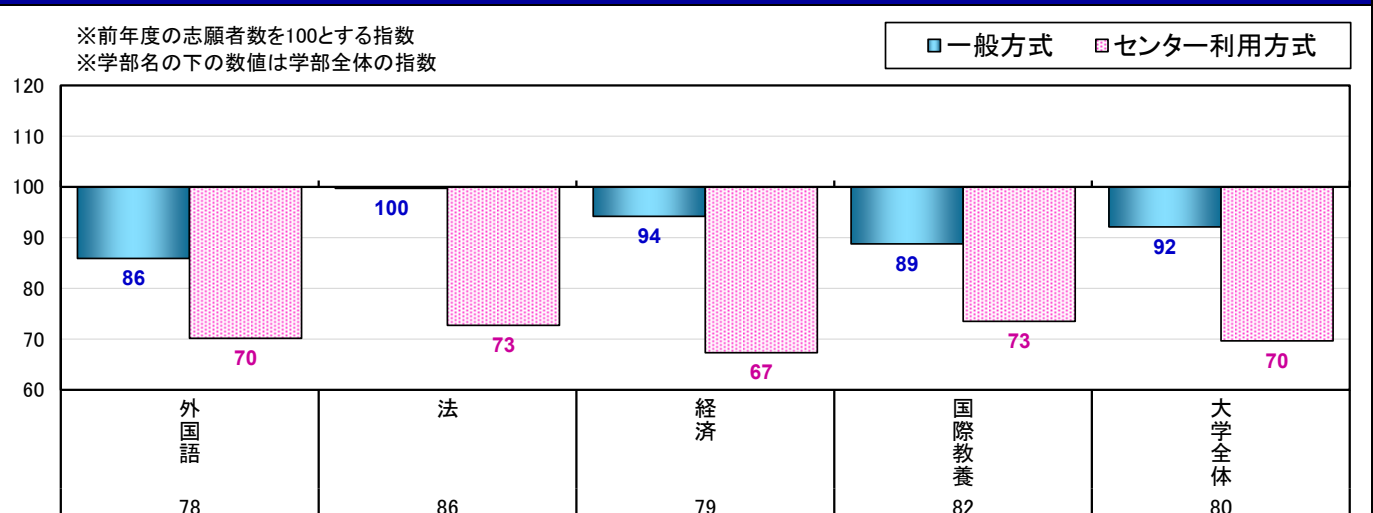
大学全体では、790人(93)のやや減少で2年ぶりに減少し、志願者数は4年ぶりに1万人を下回った。方式別では、センター利用方式(87)の減少が目立った。これは、前年度合格最低点がアップした募集単位が全て減少したことが大きく影響。

＜一般方式＞

- 文(91)は、2年連続減少。学科別では、(教育)(109)は前年度大幅減少の反動で増加したが、他の3学科は減少。特に(総合人文)(74)は前年度2.3倍増の反動で大幅減少し、(英文)(82)は2年連続大幅減少。
- 法(96)は、やや減少で5年ぶりに減少。
- 経済(91)は、2年ぶりに減少。学科別では、(経済)(106)はやや増加で3年ぶりに増加したが、(共生社会経済)(47)は半減以下で、前年度の反動による極端な増減が継続。
- 経営(117)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 教養(93)は、やや減少で5年ぶりに減少。4学科全てが減少し、(言語文化)(88)、(情報科学)(99)は2年連続減少。
- 工(104)は、系統への人気上昇でやや増加し、2年連続増加。学科別では、(情報基盤工)(110)が2年連続増加、(機械知能工)(108)は3年連続増加。他の2学科は減少。

＜センター利用方式＞

- 文(82)は、大幅減少で、4学科になってから初めて減少。学科別では、(教育)(106)はやや増加だが、他の3学科は減少。(英文)(59)は大幅減少で4年ぶりに減少。(総合人文)(78)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。
- 法(84)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済(72)は、前年度2学科とも大幅増加の反動で、いずれも大幅減少。(共生社会経済)(43)は半減以下。
- 経営(111)は、3年ぶりに増加。
- 教養(95)は、やや減少で4年連続減少。学科別では、(情報科学)(117)は大幅増加だが、他の3学科は減少。特に(地域構想)(84)は大幅減少。
- 工(96)は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。学科別では、(電気電子工)(120)、(情報基盤工)(115)が大幅増加だが、他の2学科は前年度大幅増加の反動で減少。特に(機械知能工)(69)は大幅減少。

獨協大：志願者数は5年ぶりに減少も、3年連続で2万人突破 一般：-940人 センター：-3,974人


入試変更点	試験会場：富山会場追加、金沢会場廃止
	選抜方法：法＜一般A＞、外国語、経済、国際教養＜セ・英語資格＞…GTEC CBTの出願基準アップ
	配点：経済＜一般C 2科目＞…国 200点→100点

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4,914人(80)の大幅減少で5年ぶりに減少したが、志願者数は3年連続で2万人を突破。方式別では、一般方式(92)が2年連続減少、センター利用方式(70)は4年連続増加の反動で大幅減少。学部別でも4学部全てが減少し、外国語(78)、経済(79)、法(86)はいずれも5年ぶりに減少。

＜一般方式＞

- 外国語(86)は、2年連続減少。4学科全てが減少し、(フランス語)(75)、(交流文化)(79)は大幅減少。(ドイツ語)(96)はやや減少で4年連続減少。
- 法(100)は、7人のみだが5年ぶりに減少。学科別では、(総合政策)(123)が大幅増加、(国際関係法)(74)は大幅減少。
- 経済(94)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(国際環境経済)(59)は4年連続増加の反動で大幅減少だが、他の2学科は増加。
- 国際教養(89)は、2年連続減少。3方式全てが減少。

＜センター利用方式＞

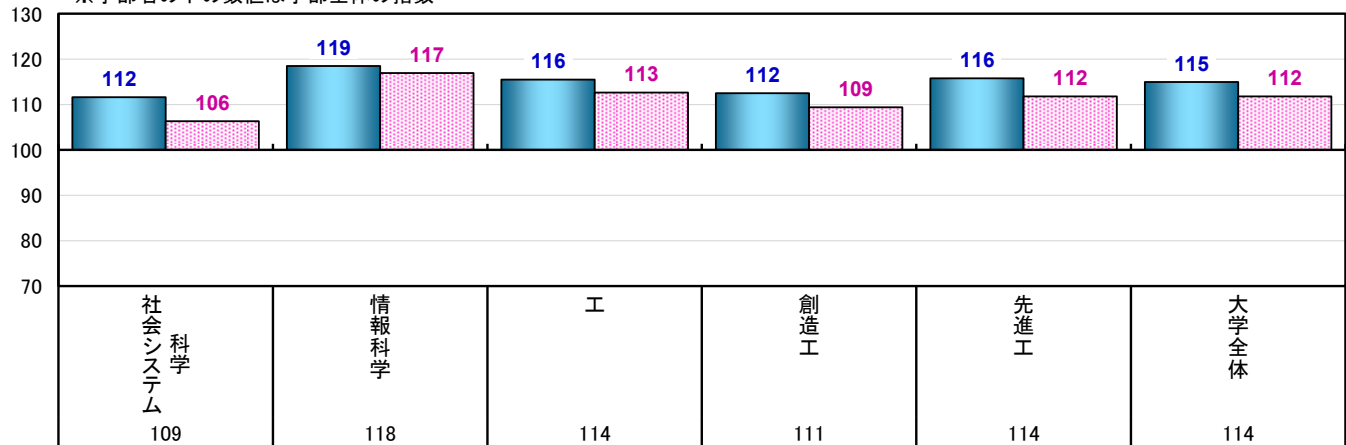
- 外国語(70)は、2年連続で15%前後増加した反動で大幅減少。4学科全てが大幅減少。
- 法(73)は、大幅減少で5年ぶりに減少。学科別では、(総合政策)(142)が大幅増加で3年ぶりに増加。一方で、(国際関係法)(35)は激減、(法律)(81)は大幅減少でいずれも5年ぶりに減少。
- 経済(67)は、やや減少で5年ぶりに減少。3学科全てが大幅減少し、(国際環境経済)(50)は半減。(経済)(81)は2年連続大幅減少。
- 国際教養(73)は、大幅減少で3年ぶりに減少。

千葉工業大：志願者数は初めて 10 万人を突破

一般：+7,972 人 センター：+4,421 人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点 試験会場：＜A 日程＞＜B 日程＞…甲府会場新設
＜C 日程＞…札幌会場、仙台会場、名古屋会場、福岡会場新設

COMMENT ※（ ）内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、12,393 人(114)の増加で 3 年連続増加となり、志願者数は初めて 10 万人を突破。国公立大理系のセンター試験の重い負担、理・工系人気上昇が増加の要因。細かい方式別では、いずれもセンター試験後に出願開始の＜セ・中期＞(93)のみやや減少し、＜セ・後期＞(101)は微増に留まったが、センター試験の平均点ダウンが影響。一方で、試験会場増設の一般方式は 3 方式全てが増加し、特に＜C 日程＞(130)は大幅増加。

<一般方式>

- 社会システム科学(112)は、10 年連続増加。3 学科全てが 10%前後増加。
- 情報科学(119)は、大幅増加で 9 年連続増加。2 学科とも 20%近い大幅増加。
- 工(116)は、大幅増加で 2 年連続増加。6 学科全てが増加し、(先端材料工)(118)、(電気電子工)(117)などが大幅増加。
- 創造工(112)は、2 年連続増加。3 学科とも増加数、増加率のいずれもほぼ同じ。
- 先進工(116)は、大幅増加で 3 年連続増加。3 学科全てが増加し、特に(生命科学)(123)の大幅増加が目立った。

<センター利用方式>

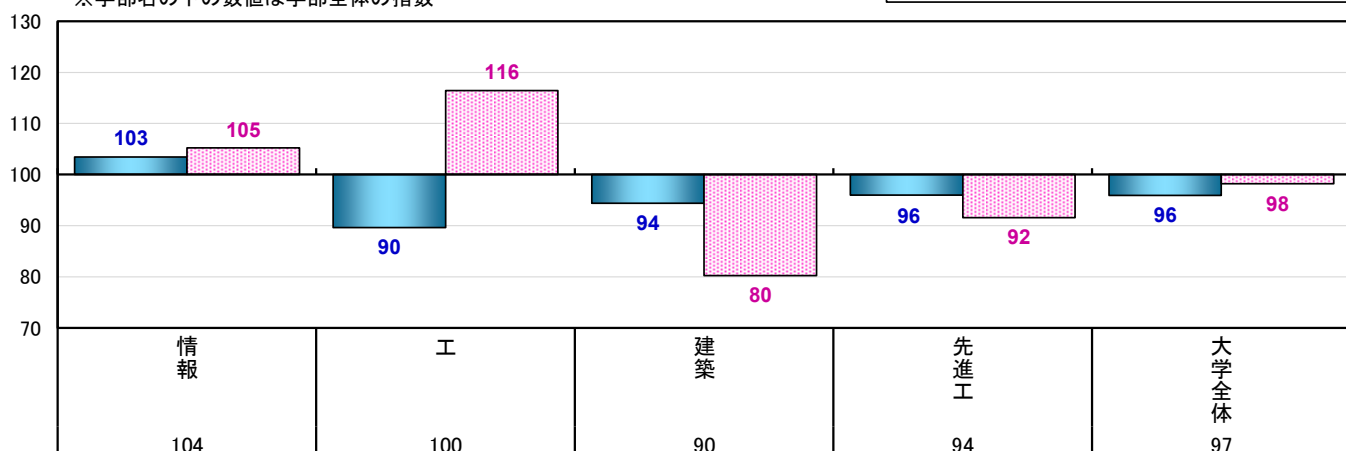
- 社会システム科学(106)は、2 年連続大幅増加の反動はなくやや増加。3 学科全てが増加。
- 情報科学(117)は、3 年連続大幅増加。2 学科とも大幅増加。
- 工(113)は、3 年連続増加。6 学科全てが増加し、(情報通信システム工)(115)、(電気電子工)(115)は大幅増加。
- 創造工(109)は、2 年連続大幅増加の反動はなく増加。3 学科全てが増加。
- 先進工(112)は、2 年連続大幅増加の反動はなく増加。3 学科全てが増加。

工学院大：志願者数は 2 年ぶりに減少も、2 年連続で 2 万人突破

一般：-588 人 センター：-147 人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点 新設：先進工(大学院接続型)
募集停止：工(学部総合)、先進工(学部総合)

COMMENT ※（ ）内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、738 人(97)のやや減少で 2 年ぶりに減少。新設、募集停止を除くと、(98)の微減。前年度大幅増加の反動が表れた。学部別では、情報(104)のみ増加。

＜一般方式＞

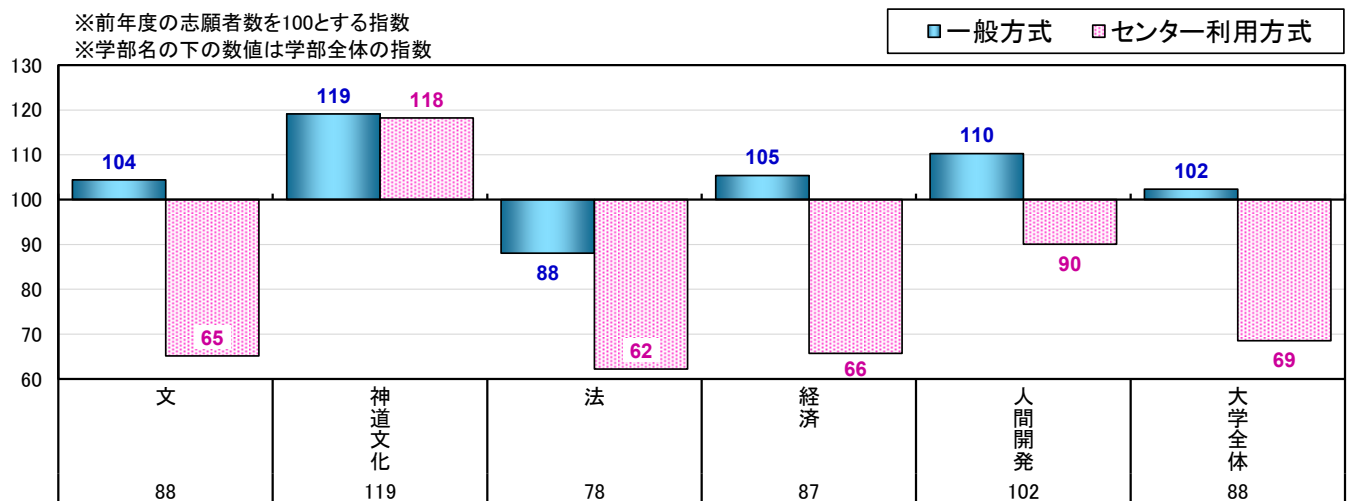
- 情報(103)は、前年度大幅増加の半動はなく、やや増加し2年連続増加。学科別では、(システム数理)(122)は2年連続大幅増加、(情報通信工)(109)は2年連続増加。他の3学科はいずれも微増、やや減少で前年度大幅増加の反動は小さかった。
- 工(90)は、前年度大幅増加の反動に加え、(学部総合)募集停止で減少。(学部総合)を除いても、(92)の減少。学科別では、(機械工)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少だが、他の2学科は前年度大幅増加の反動はなく、2年連続増加。
- 建築(94)は、やや減少で2年ぶりに減少。4学科全てが減少し、特に(学部総合)(84)は大幅減少。(まちづくり)(97)は2年連続大幅減少の反動はなく、やや減少。
- 先進理工(96)は、前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。学科別では、(環境化学)(134)は2年連続大幅増加。(応用物理)(63)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。

＜センター利用方式＞

- 情報(105)は、やや増加で、改組後4年連続増加。5学科全てが増加。
- 工(116)は、(学部総合)募集停止の影響はなく、2年連続大幅増加。学科別では、(機械工)(96)はやや減少だが、他の2学科はいずれも50%前後の大幅増加。
- 建築(80)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。4学科全てが減少し、特に(学部総合)(60)、(建築)(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。他の2学科は3年連続減少。
- 先進工(92)は、3年連続増加の反動で減少。学科別では、(環境化学)(117)は大幅増加で4年連続増加。(応用物理)(73)は大幅減少で、2015年度の学部開設後、初めて減少。

國學院大：大学全体では2年ぶりに減少

一般：+397人 センター：-3,920人



入試変更点

募集停止：経済(経済ネットワーキング)
 選抜方法：文(外国語文化)…英語外部試験のスコア変更
 経済、経営<B日程>…英語外部試験の利用可能に
 募集人員：文(史)<A日程>…75人→76人、(中国文)<A日程>…17人→15人、<B日程>…8人→10人
 神道文化(神道文化)<A日程>…39人→41人、<B日程>…8人→7人、<セ・V方式>…11人→10人
 経営<A日程>…55人→105人、<B日程>…10人→20人、
 <セ・V I期>…20人→25人、<セ・V II期>…10人→5人
 人間開発(初等教育)<A日程>…37人→36人、<B日程>…5人→6人、<セ・V I期>…14人→13人
 (健康体育)<セ・V I期>…12人→11人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,523人(88)の減少で2年ぶりに減少。方式別では、センター利用方式(69)は前年度大幅増加の反動で大幅減少だが、一般方式(102)はやや増加。4方式とも前年度と逆の増減で、特に<B日程>(141)は大幅増加。

＜一般方式＞

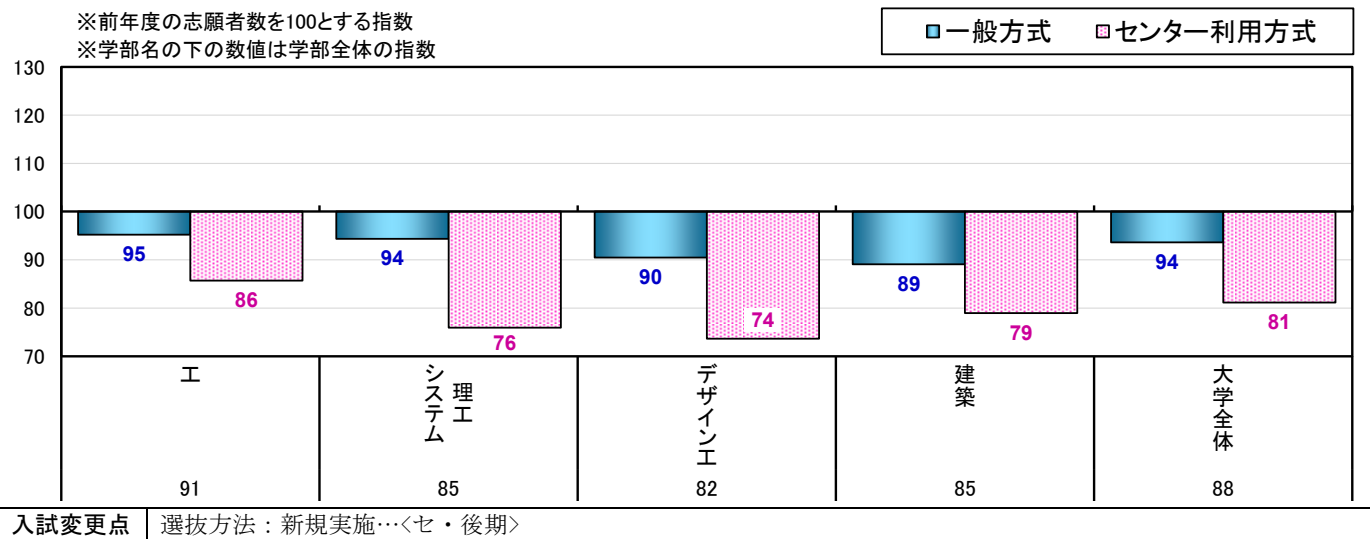
- 文(104)は、やや増加で2年連続増加。学科別では、(中国文)(131)、(哲)(129)が大幅増加。
- 法(88)は、2年連続増加の反動で減少。専攻別では、(法律専門職)(122)のみ大幅増加。
- 経済(105)は、やや増加で2年連続増加。募集停止の(経済ネットワーキング)を除くと(134)の大幅増加。
- 人間開発(110)は、前年度減少の反動で増加。3学科とも増加。

＜センター利用方式＞

- 文(65)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。(哲)(96)はやや減少だが、他の4学科は大幅減少。
- 法(62)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。3専攻すべてが大幅減少。
- 経済(66)は、系統の人気低下で大幅減少。募集停止の(経済ネットワーキング)を除くと(96)のやや減少。
- 人間開発(90)は、3年連続増加の反動で減少。3学科全てが減少。

芝浦工業大：大学全体では4年ぶりに減少

一般：-1,622人 センター：-3,978人

**COMMENT** ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、5,600人(88)の減少で4年ぶりに減少。4学部全てが一般方式、センター利用方式のいずれも減少。一般方式(94)は、〈英語資格・検定試験利用〉(141)は大幅増加だが、他の3方式は減少。特に〈全学統一〉(82)は大幅減少。センター利用方式(81)は、〈セ・後期〉を新規実施したが大幅減少。既存の〈セ・前期〉(79)は、前年度合格最低点が得点率で平均して4ポイント程度アップしたことが影響して大幅減少。

<一般方式>

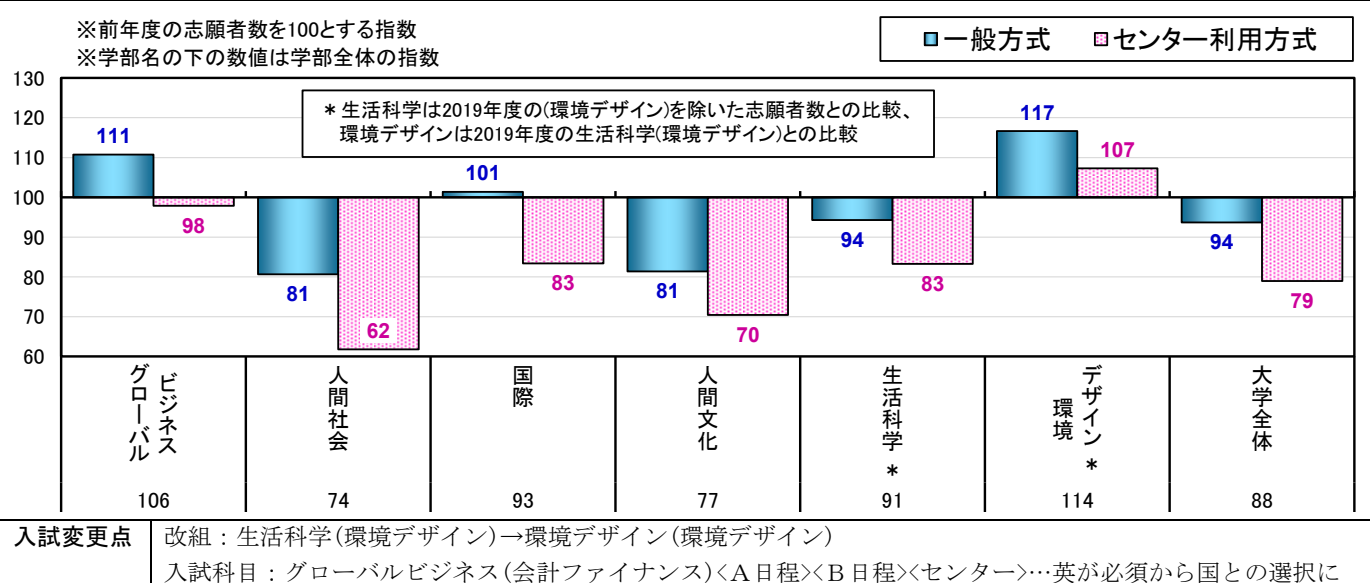
- 工(95)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(情報通信工)(115)が大幅増加で4年連続増加。一方で、(機械工)(80)は大幅減少で4年ぶりに減少。(機械機能工)(85)も大幅減少で5年連続減少。
- システム理工(94)は、やや減少で2年ぶりに減少。学科・コース別では、(機械制御システム)(105)はやや増加で4年連続増加。(環境システム)(84)は大幅減少。
- デザイン工(90)は、2年連続減少。2つの系のいずれも10%前後の減少。
- 建築(89)は、3年連続減少。3コース全てが減少。

<センター利用方式>

- 工(86)は、2年連続大幅増加の反動で減少。9学科全てが減少し、特に(機械工)(73)、(機械機能工)(78)、(材料工)(78)は大幅減少。
- システム理工(76)は、前年度1.5倍以上の反動で大幅減少。学科・コース別では、(機械制御システム)(99)以外は大幅減少。
- デザイン工(74)は、2つの系のいずれも2年連続大幅増加の反動で、25%以上の大幅減少。
- 建築(79)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。3コース全てが大幅減少。

昭和女子大：大学全体では5年ぶりに減少

一般：-522人 センター：-999人

**COMMENT** ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,521人(88)の減少で5年ぶりに減少。方式別では、センター利用方式(79)が前年度大幅増加の反動で大幅減少。

＜一般方式＞

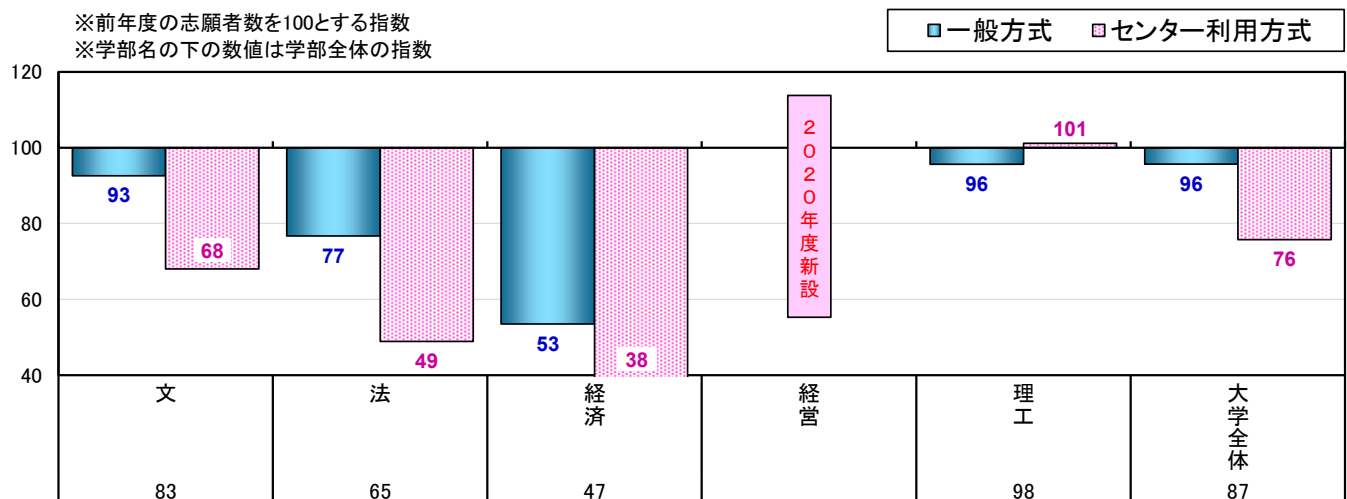
- グローバルビジネス(111)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2 学科とも増加したが、入試科目の英を必須から国との選択に変更した(会計ファイナンス)(126)は大幅増加。
- 人間社会(81)は、大幅減少で 2 年ぶりに減少。4 学科全てが大幅減少。
- 国際(101)は、微増だが、2017 年度の改組新設後、初めて増加。
- 人間文化(81)は、大幅減少で、2017 年度に改組で 4 学科から 2 学科になってから初めて減少。2 学科とも減少し、特に(歴史文化)(75)は大幅減少で 2 年連続減少。
- 生活科学(95)は、学部改組された前年度の(環境デザイン)を除くとやや減少。学科別では、(健康デザイン)(106)、(管理栄養)(103)はいずれも 2 年連続減少の反動でやや増加したが、(食安全マネジメント)(73)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 生活科学(環境デザイン)から改組の環境デザイン(117)は、前年度の生活科学(環境デザイン)との比較では大幅増加。

＜センター利用方式＞

- 人間社会(62)は、3 年連続増加の反動で大幅減少。4 学科全てが 40%近い大幅減少。
- 国際(101)は、大幅減少で 2 年ぶりに減少。学科別では、(国際)(107)はやや増加で 3 年連続増加だが、(英語コミュニケーション)(71)は前年度 2.4 倍増の反動で大幅減少。
- 人間文化(70)は、2 年連続大幅増加の反動で大幅減少となり、2017 年度に改組で 4 学科から 2 学科になってから初めて減少。2 学科とも大幅減少。
- 生活科学(83)は、学部改組された前年度の(環境デザイン)を除くと大幅減少。学科別では、(健康デザイン)(106)はやや増加したが、他の 2 学科は大幅減少。
- 生活科学(環境デザイン)から改組の環境デザイン(1017)は、前年度の生活科学(環境デザイン)との比較ではやや増加。

成蹊大：前年度大幅増加の反動で 2 年ぶりに減少

一般：-625 人 センター：-2,573 人



入試変更点

学部新設：経営(総合経営)
 学科改組：経済(経済経営)→(経済数理、現代経済)
 選抜方法：文(英語英米文、国際文化)、法、経済(現代経済)、経営…<G方式>新規実施

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,198 人(87)の減少。経営の新設、文系 4 学部での<G方式>新規実施があったが、前年度大幅増加の反動の影響が大きかった。2 方式とも減少し、特にセンター利用方式(76)は、文系学部の前年度合格最低点アップの影響で大幅減少。

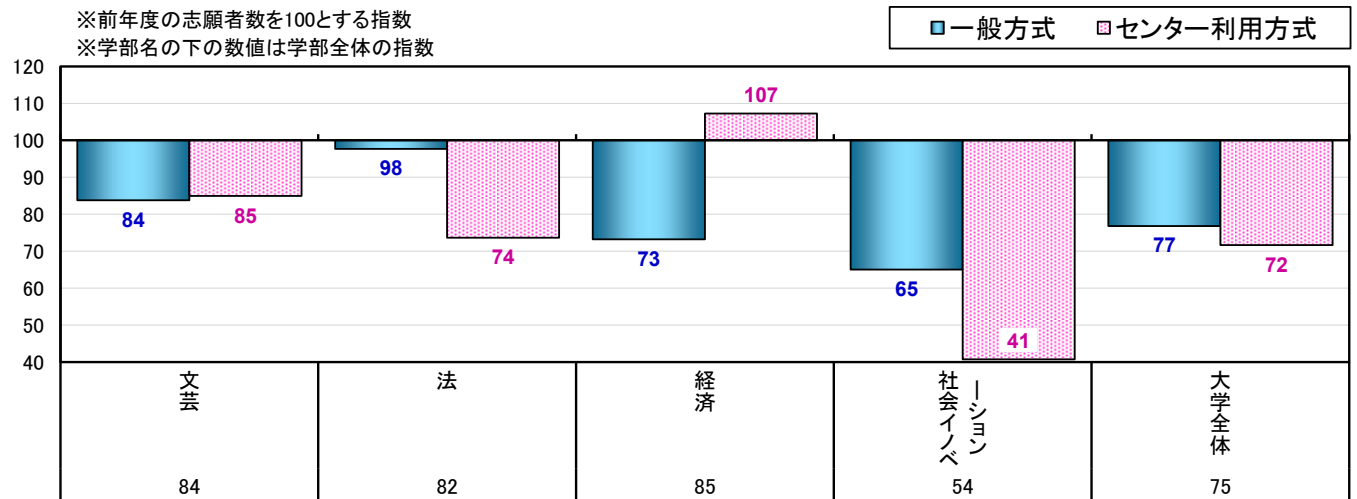
＜一般方式＞

- 文(93)は、やや減少で 2 年ぶりに減少。学科別では、(現代社会)(102)は微増したが、他の 3 学科は減少。特に(国際文化)(82)は大幅減少で 2 年連続減少。
- 法(77)は、大幅減少で 2 年ぶりに減少。学科別では、(政治)(103)はやや増加で 4 年ぶりに増加だが、(法律)(65)は大幅減少。
- 経済(53)は、半減近い大幅減少だが、経営の新設で募集人員が約 56%減少のため、志願倍率は 22.8 倍→27.6 倍とアップし、競争は厳しくなった。
- 新設の経営は、志願倍率 21.3 倍と経済に次ぐ高倍率だった。
- 理工(96)は、2 年連続大幅増加の反動は小さくやや減少。3 学科全てが 3 年ぶりに減少。

＜センター利用方式＞

- 文(68)は、大幅減少。(現代社会)(94)はやや減少だが、他の 3 学科は大幅減少。(英語英米文)(51)はほぼ半減で前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 法(49)は、ほぼ半減で前年度の反動による大幅な増減が継続。2 学科とも大幅減少で、特に(法律)(39)は激減。
- 経済(38)は、激減。経営の新設で募集人員は約 47%減少のため、志願倍率は 43.3 倍→31.2 倍とダウン。
- 新設の経営は、志願倍率が 45.7 倍と全学部の中で最も高倍率だった。
- 理工(101)は、微増だが 3 年連続増加。学科別では、(システムデザイン)(96)のみやや減少だが、2 年連続大幅増加の反動は小さかった。

成城大：大学全体では2年連続減少、4学部全てが大幅減少 一般：-2,608人 センター：-2,284人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4,892人(75)の大幅減少で2年連続減少。2方式とも大幅減少し、学部別でも4学部全てが大幅減少。

<一般方式>

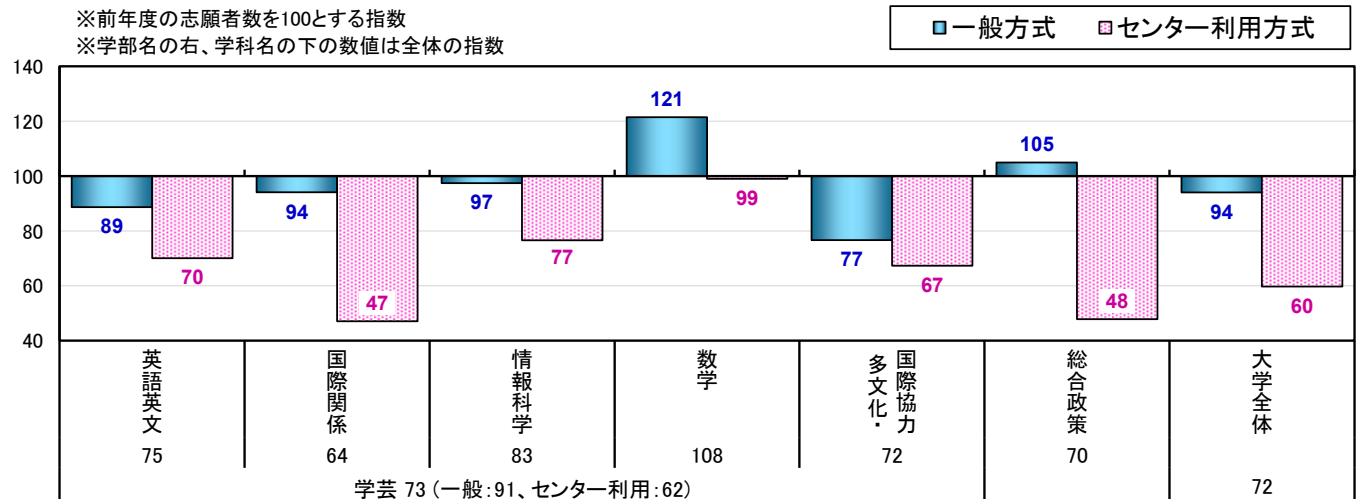
- 文芸(84)は、大幅減少で2年連続減少。学科別では、(マスコミュニケーション)(108)は増加したが、他の5学科は減少。特に(国文)(68)、(ヨーロッパ文化)(75)、(英文)(83)は大幅減少。
- 法(98)は、前年度大幅減少の反動はなく微減。
- 経済(73)は、系統への人気低下もあり、大幅減少で3年ぶりに減少。学科別では、(経済)(67)は大幅減少で2年連続減少。(経営)(79)も大幅減少で3年ぶりに減少。
- 社会イノベーション(65)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(心理社会)(56)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。(政策イノベーション)(76)も大幅減少で2年連続減少。

<センター利用方式>

- 文芸(85)は、2年連続大幅減少。学科別では、(ヨーロッパ文化)(123)が大幅増加、(マスコミュニケーション)(101)は微増だが、他の4学科は大幅減少。(英文)(64)は4年連続減少。
- 法(74)は、大幅減少で2年連続減少。
- 経済(107)は、前年度約56%も減少した反動は小さく、やや増加に留まり、過去5年間で志願者数が最多だった2018年度の半分以下。学科別では、(経営)(114)は増加したが、(経済)(100)は前年度と同数。
- 社会イノベーション(41)は、大幅減少で5年ぶりに減少。学科別では、(政策イノベーション)(35)が激減で3年ぶりに減少、(心理社会)(47)は半減以下で5年ぶりに減少。いずれも<セ・B方式前期>の前年度合格最低得点率が9ポイント近くもアップしたことが大きく影響。

津田塾大：学芸、総合政策のいずれも大幅減少

一般：-135 人 センター：-1,596 人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,731 人(72)の大幅減少で2年ぶりに減少。志願者数は学芸1学部のみだった2016年度以来の4,000人台。2学部ともセンター利用方式(60)の大幅減少が学部合計の大幅減少につながった。

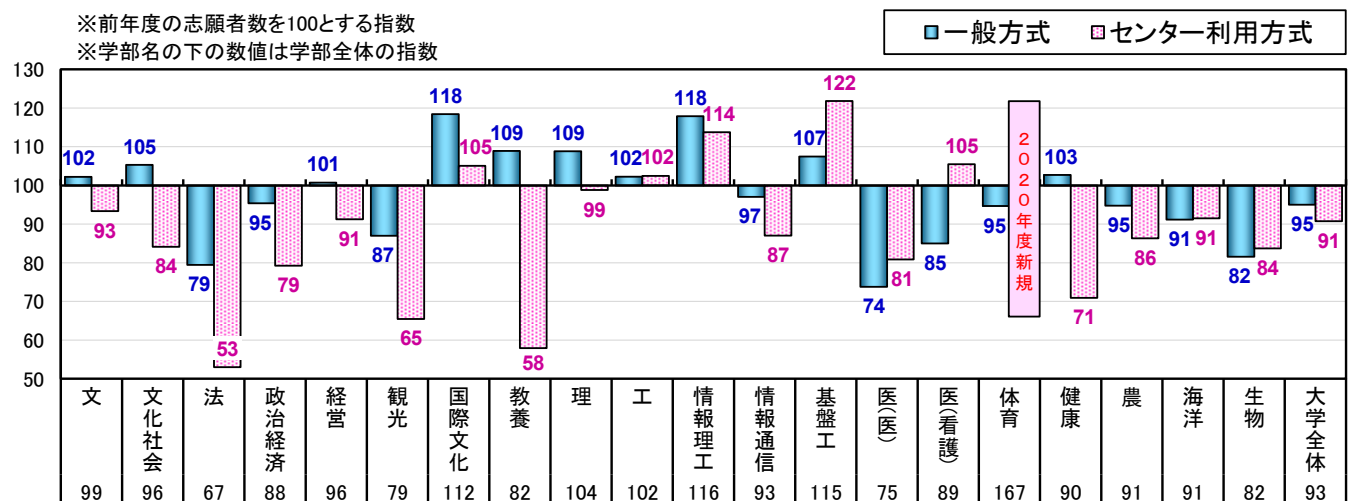
<一般方式>

- 学芸(91)は、3年ぶりに減少。学科別では、(数学)(121)は大幅増加したが、他の4学科は減少し、特に(多文化・国際協力)(77)は大幅減少。(国際関係)(94)、(情報科学)(97)はやや減少で、いずれも4年連続減少。
- 総合政策(105)は、やや増加で2017年度の新設後、初めて増加。

<センター利用方式>

- 学芸(62)は、大幅減少で3年ぶりに減少。5学科全てが減少し、(数学)(99)以外の4学科は大幅減少。(国際関係)(47)は前年度の反動による極端な増減が継続。(英語英文)(70)は2年連続大幅減少。
- 総合政策(48)は、半減で3年連続減少。

東海大：大学全体では5年ぶりに減少、文系の減少目立つ 一般：-1,780 人 センター：-2,295 人



入試変更点

選抜方法：体育…<センター試験利用>新規実施
<文系学部統一後期><理系学部統一後期>…英語外部試験利用可に

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4,075 人(93)のやや減少で、5年ぶりに減少。学部別では、文系学部の減少、理・工系学部の増加が目立った。体育(167)は新規実施のセンター利用方式を除くと、(95)のやや減少。

<一般方式>

- 文化社会(105)は、2年連続やや増加。学科別では、(アジア)(154)、(北欧)(118)の大幅増加が目立った。
- 法(79)は、系統への人気低下に加え、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 政治経済(95)は、やや減少で5年ぶりに減少。学科別では、唯一減少の(経営)(84)は大幅減少。
- 観光(87)は、系統への人気低下に加え、前年度大幅増加の反動で減少。
- 教養(109)は、6年連続増加で、志願者数は2年連続で1,000人を上回った。学科・課程別では、(国際)(123)、(人間環境／社会環境)(121)が大幅増加。一方で、(人間環境／自然環境)(73)は大幅減少。
- 理(109)は、系統への人気上昇で3年連続増加。学科別では、(情報数理)(93)はやや減少だが、他の3学科は増加。特に(物

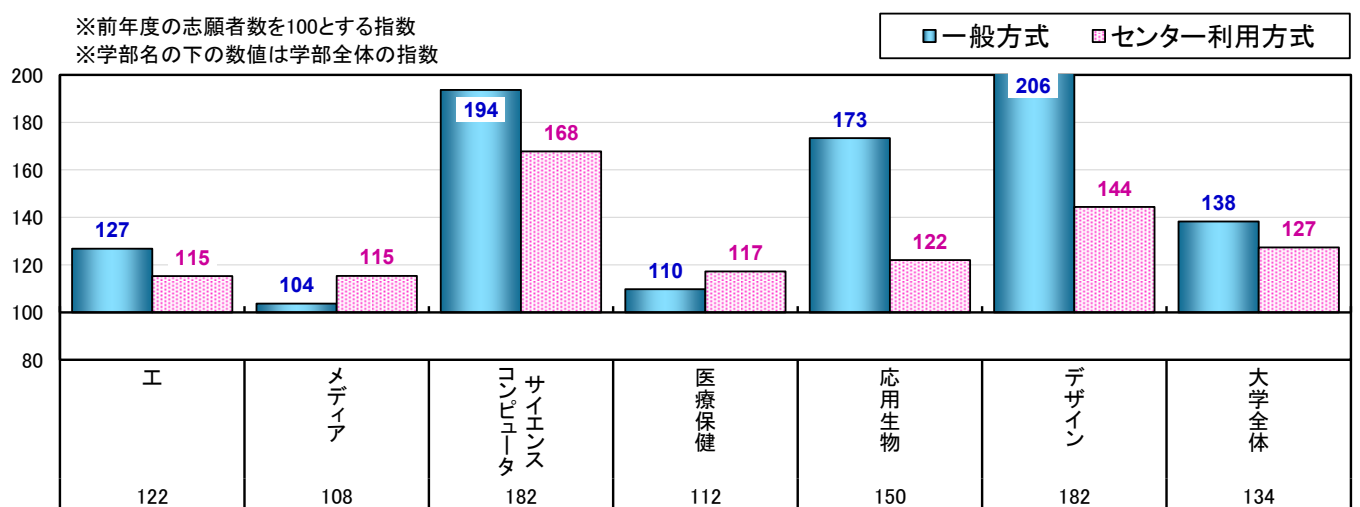
- 理) (119)、(化学) (117)は大幅増加。
- 工 (102) は、前年度大幅増加の反動はなく微増。学科・専攻別では、(材料科学) (128)、(応用化学) (127)の大幅増加、(原子力工) (77)の大幅減少が目立った。
- 情報理工 (118) は、大幅増加で3年連続増加。2学科とも増加し、特に(コンピュータ応用工) (127)は大幅増加。
- 情報通信 (97) は、やや減少で2年連続大幅増加の反動は小さかった。学科別では、(経営システム工) (118)の大幅増加、(組込みソフトウェア工) (79)の大幅減少が目立った。
- 医(医) (74) は、系統への人気低下で大幅減少し、2年ぶりに減少。
- 医(看護) (85) は、2年連続大幅減少。
- 海洋 (91) は、4年ぶりに減少。学科・専攻別では、(環境社会) (116)の大幅増加、(航海工/航海) (67)、(航海工/海洋機械工) (77)の大幅減少が目立った。

<センター利用方式>

- 文 (93) は、やや減少で3年連続大減少。学科・専攻別では、(日本文) (120)は大幅増加だが、他の3学科3専攻は減少。(歴史)は3専攻全てが15%以上の大幅減少。
- 文化社会 (84) は、大幅減少。学科別では、(北欧) (121)が大幅増加、(アジア) (109)は増加したが、他の4学科は大幅減少。
- 法 (53) は、系統への人気低下で大幅減少し、5年ぶりに減少。
- 政治経済 (79) は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。3学科全てが減少し、特に(政治) (55)は大幅減少。
- 観光 (65) は、系統への人気低下に加え、4年連続増加の反動で大幅減少。
- 教養 (58) は、4年連続大幅増加の反動で大幅減少。3学科2専攻全てが大幅減少し、特に(人間環境/自然環境) (35)は激減。
- 工 (102) は、前年度大幅増加の反動はなく、系統への人気上昇で微増。学科・専攻別では、(材料科学) (128)、(応用化学) (122)、(医用生体工) (120)、(動力機械工) (119)の大幅増加、(原子力工) (72)、(土木工) (79)の大幅減少が目立った。
- 情報理工 (114) は、5年連続増加。2学科とも15%近く増加
- 情報通信 (87) は、3年連続増加の反動で減少。学科別では、(経営システム工) (106)はやや増加だが、他の3学科は減少。特に(組込みソフトウェア工) (73)、(通信ネットワーク工) (80)は大幅減少。
- 医(医) (81) は、系統への人気低下で大幅減少し、2016年度に募集方式が増加してから初めて減少。
- 海洋 (91) は、3年ぶりに減少。学科・専攻別では、(環境社会) (136)、(海洋文明) (123)は大幅増加だが、他の4学科2専攻は減少。(海洋地球科学) (94)以外は大幅減少。

東京工科大：3学部での専攻新設で大幅増加

一般：+3,556人 センター：+1,596人



入試変更点 専攻新設：コンピュータサイエンス(コンピュータサイエンス/人工知能、先進情報)
応用生物(応用生物/食品・化粧品生、命科学・医薬品)
デザイン(デザイン/資格デザイン、工業デザイン)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、5,152人(134)の大幅増加で2年ぶりに増加。理・工系人気の上昇に加え、専攻新設のコンピュータサイエンス(182)、デザイン(182)、応用生物(150)の大幅増加が影響。

<一般方式>

- 工 (127) は、大幅増加で学部再設置の2015年度以降5年連続増加で、志願者数は2015年度の約3.2倍増。3学科全てが増加し、(機械工) (136)、(電気電子工) (130)は大幅増加。
- メディア (104) は、3年連続大幅増加の反動はなく、やや増加。
- コンピュータサイエンス (194) は、専攻新設で学科一括募集から専攻別募集となり、ほぼ倍増で4年連続増加。専攻別の志願者数・志願倍率は、(コンピュータサイエンス/先進情報)が1,214人で30.4倍、(コンピュータサイエンス/人工知能)が1,121人で23.4倍。
- 医療保健 (110) は、2年ぶりに増加。学科別では、(作業療法) (143)、(看護) (126)が大幅増加。(臨床工) (92)、(臨床検査) (97)はいずれも2年連続減少。
- 応用生物 (173) は、専攻新設で学科一括募集から専攻別募集となり、大幅増加で7年ぶりに増加。専攻別の志願者数・志願倍

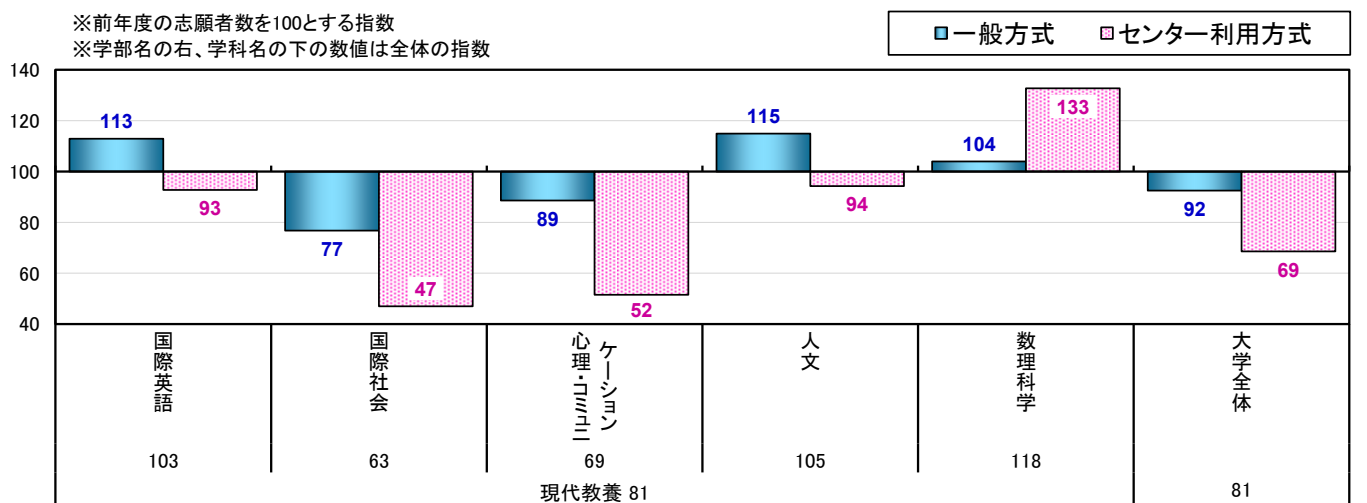
率は、(応用生物／食品・化粧品)が 928 人で 23.8 倍、(応用生物／生命科学・医薬品)が 878 人で 19.1 倍。
 ○デザイン(206)は、専攻新設で学科一括募集から専攻別募集となり、倍増以上で 4 年連続増加。専攻別の志願者数・志願倍率は、(デザイン／工業デザイン)が 758 人で 37.9 倍、(デザイン／視覚デザイン)が 743 人で 24.0 倍。

＜センター利用方式＞

- 工(115)は、大幅増加で 2 年ぶりに増加。3 学科全てが増加し、(応用化学)(150)は大幅増加。
- メディア(115)は、大幅増加で 2 年連続増加。
- コンピュータサイエンス(168)は、前年度大幅減少の反動に加え、専攻新設で学科一括募集から専攻別募集となったことで大幅増加。専攻別の志願者数・志願倍率は、(コンピュータサイエンス／先進情報)が 829 人で 22.4 倍、(コンピュータサイエンス／人工知能)が 715 人で 15.9 倍。
- 医療保健(117)は、大幅増加で 3 年ぶりに増加。5 学科全てが増加し、特に(作業療法)(147)、(臨床検査)(139)、(臨床工)(126)は大幅増加。
- 応用生物(122)は、前年度大幅減少の反動に加え、専攻新設で学科一括募集から専攻別募集となったことで大幅増加。専攻別の志願者数・志願倍率は、(応用生物／食品・化粧品)が 554 人で 16.3 倍、(応用生物／生命科学・医薬品)が 493 人で 12.0 倍。
- デザイン(144)は、前年度減少の反動に加え、専攻新設で学科一括募集から専攻別募集となったことで大幅増加。専攻別の志願者数・志願倍率は、(デザイン／工業デザイン)が 377 人で 23.6 倍、(デザイン／視覚デザイン)が 313 人で 13.6 倍。

東京女子大：大学全体では大幅減少で 2 年連続減少

一般：-399 人 センター：-1,616 人



入試変更点 選抜方法：現代教養(人文／心理)＜セ・3月期＞…理の選択から基礎科目除外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,015 人(81)の大幅減少で 2 年連続減少。方式別では、センター利用方式(69)が大幅減少。学科別では、(数理科学)(118)が大幅増加、一方で、(国際社会)(63)、(心理・コミュニケーション)(69)は大幅減少。いずれもセンター利用方式の大幅な増減が影響。

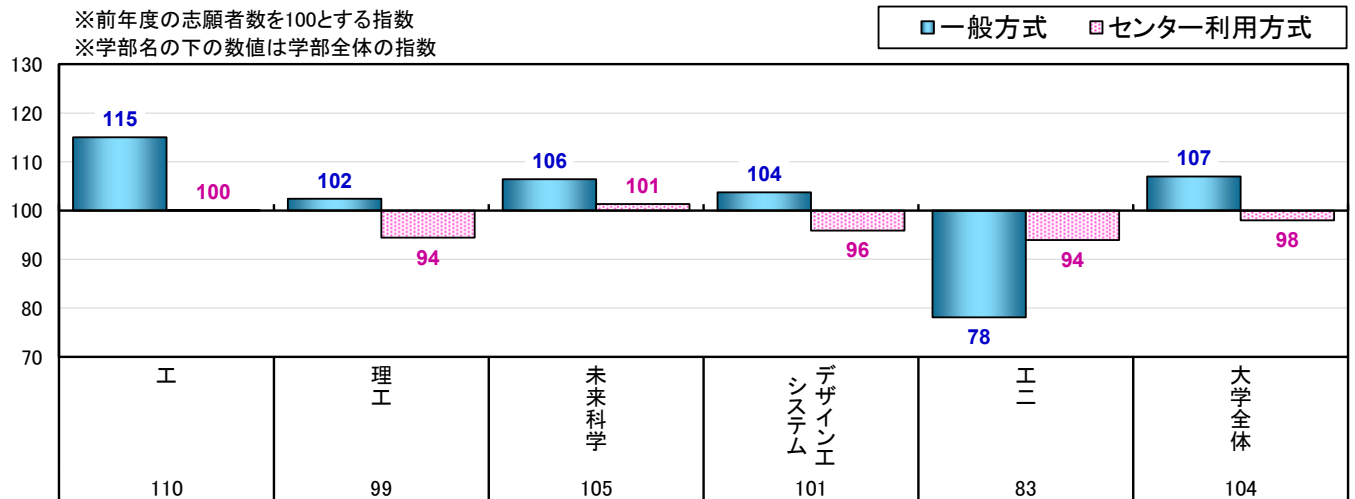
＜一般方式＞

- 現代教養(国際英語)(113)は、大幅増加で 2 年連続増加。
- 現代教養(国際社会)(77)は、大幅減少で 2 年連続減少。4 専攻全てが減少。(国際社会／社会)(100)を除く 3 専攻は大幅減少。
- 現代教養(心理・コミュニケーション)(89)は、減少。専攻別では、(心理・コミュニケーション／心理)(106)がやや増加、(心理・コミュニケーション／コミュニケーション)(77)は大幅減少で、いずれも前年度の反動。
- 現代教養(人文)(115)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。3 専攻全てが増加し、特に(人文／歴史文化)(123)は大幅増加。
- 現代教養(数理科学)(104)は、やや増加で 2 年連続増加。専攻別では、(数理科学／情報理学)(115)は大幅増加で 2 年連続増加だが、(数理科学／数学)(92)は 4 年ぶりに減少。

＜センター利用方式＞

- 現代教養(国際英語)(93)は、やや減少で 2 年連続減少。
- 現代教養(国際社会)(47)は、前年度大幅増加の反動で半減以下。4 専攻全てが大幅減少し、特に(国際社会／コミュニティ構想)(37)は激減。(国際社会／経済)(51)はほぼ半減で 2 年連続減少。
- 現代教養(心理・コミュニケーション)(52)は、前年度大幅増加の反動でほぼ半減。2 専攻とも減少し、(心理・コミュニケーション／コミュニケーション)(32)は前年度 2.6 倍増の反動で激減、(心理・コミュニケーション／心理)(92)は 2 年連続減少。
- 現代教養(人文)(94)は、前年度大幅減少の反動はなく、やや減少。専攻別では、(人文／歴史文化)(117)は前年度大幅減少の反動で大幅増加したが、他の 2 専攻は 2 年連続大幅減少。
- 現代教養(数理科学)(133)は、2 年連続減少の反動で大幅増加。2 専攻とも大幅増加。

東京電機大：前年度大幅増加の反動なく、2年連続増加 一般：+1,290人 センター：-198人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,092人(104)のやや増加で、前年度大幅増加の反動はなく、2年連続増加。系統への人気上昇が影響。二部を除くと、1,277人(105)のやや増加。

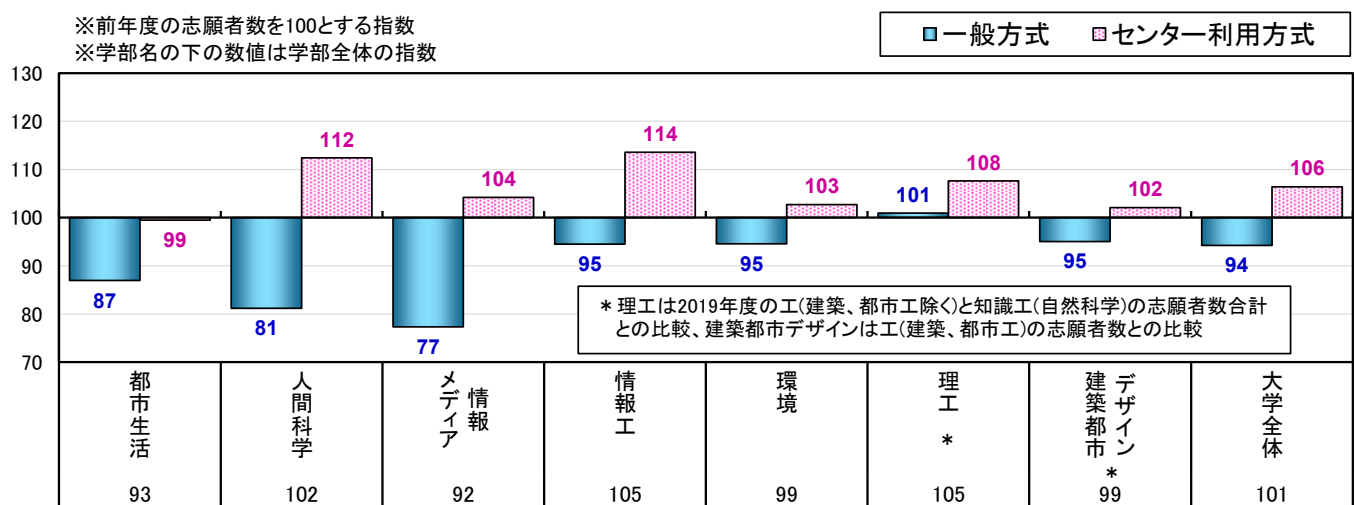
<一般方式>

- 工(115)は、2年連続大幅増加。学科別では、(機械工)(99)は微減だが、他の5学科は増加。(電気電子工)(136)、(情報通信工)(124)、(電子システム工)(124)は大幅増加。
- 理工(102)は、微増。2018年度の学系改組後、2年連続大幅増加はみられなかった。系別では、(理工/生命科学系)(120)、(理工/情報システムデザイン学系)(119)が大幅増加。一方で、(理工/建築・都市環境学系)(80)、(理工/電子工学系)(84)は大幅減少。
- 未来科学(106)は、前年度大幅増加の反動はなく、やや増加。3学科全てが増加し、(情報メディア)(113)は3年連続増加。
- システムデザイン工(112)は、前年度大幅増加の反動はなく、やや増加。2学科とも増加。

<センター利用方式>

- 工(100)は、微増だが3年連続増加。学科別では、(情報通信工)(123)は大幅増加で3年連続増加。一方で、(先端機械工)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 理工(94)は、やや減少で3年ぶりに減少。系別では、(理工/理学系)(120)、(理工/生命科学系)(1119)が大幅増加。一方で、(理工/建築・都市環境学系)(68)、(理工/電子工学系)(76)は大幅減少。
- 未来科学(101)は、微増だが3年連続増加。学科別では、(情報メディア)(128)は大幅増加で3年連続増加だが、他の2学科は減少。特に(ロボット・メカトロニクス)(76)は大幅減少。
- システムデザイン工(96)は、やや減少で2年ぶりに減少。2学科とも減少。

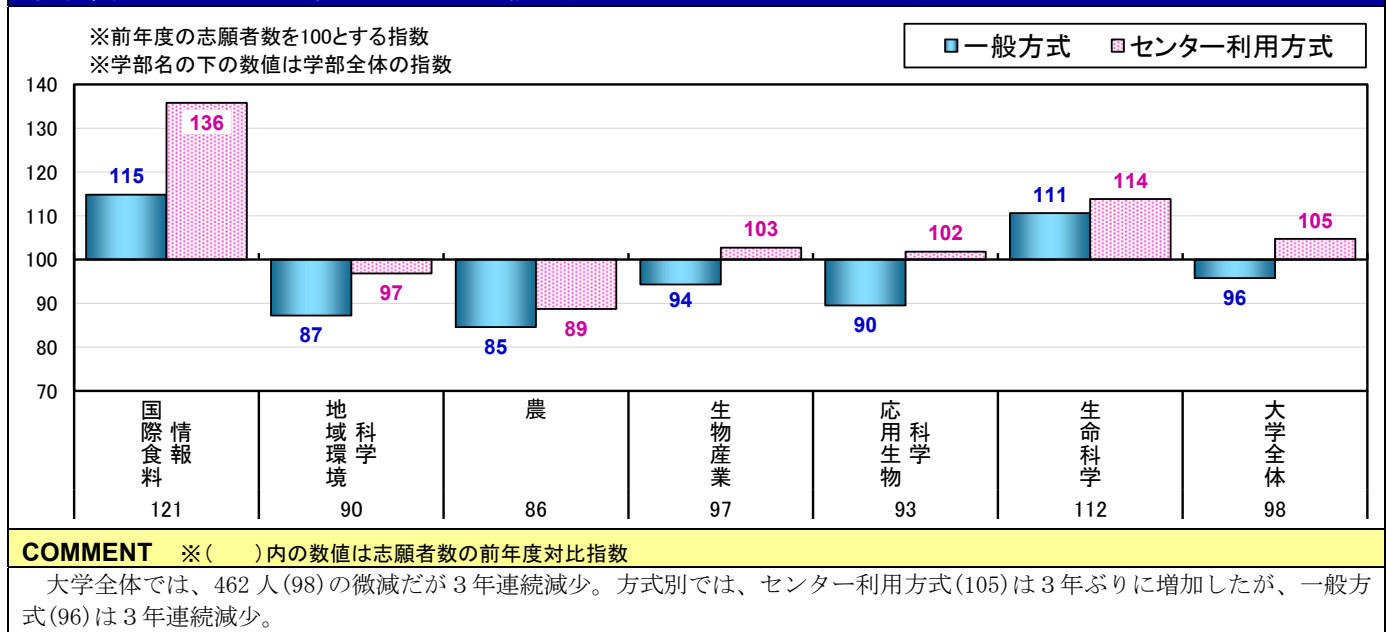
東京都市大：志願者数は2年連続で3万人突破 一般：-781人 センター：+1,067人



入試変更点	改組：工(機械工、機械システム工、電気電子通信工、医用工、エネルギー化学、原子力安全工)、知識工(自然科学)→理工(機械工、機械システム工、電気電子通信工、医用工、エネルギー化学、原子力安全工、自然科学)工(建築、都市工)→建築都市デザイン(建築、都市工) 名称変更：知識工→情報工 試験会場：沖縄会場を追加 選抜方法：都市生活、人間科学、メディア情報、情報工、環境、理工(医用工、エネルギー化学、原子力安全工、自然科学)、建築都市デザイン(建築)＜セ・前期5教科基準点型＞…合格基準点変更
COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数	
大学全体では、286人(101)の微増だが3年連続増加。学部改組で1学部増加の7学部となり、志願者数は2年連続で3万人を突破。既存の学部別では、人間科学(102)が3年連続増加。一方で、都市生活(93)は6年ぶり、環境(99)は5年ぶりにいずれも減少。	
＜一般方式＞ ○都市生活(87)は、2年連続増加の反動で減少。3方式全てが減少。 ○人間科学(81)は、大幅減少で2年連続減少。 ○メディア情報(77)は、2年連続増加の反動で大幅減少。2学科とも減少し、(情報システム)(72)は前年度約1.6倍増の反動で大幅減少。(社会メディア)(86)は4年ぶりに減少。 ○知識工から名称変更の 情報工(95) は、やや減少。(自然科学)が改組によって理工設置となり、残った2学科はいずれも減少。(知識情報工)(90)は2年連続大幅増加の反動で減少。(情報科学)(99)は微減で、3年連続増加の反動はほとんどなかった。 ○ 環境(95) は、2年連続大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。学科別では、(環境創生)(131)は大幅増加で2年ぶりに増加したが、(環境経営システム)(70)は3年連続大幅増加の反動で大幅減少。 ○工、知識工から改組の 理工(101) は、前年度並。学科別では、(医用工)(122)で2年ぶりに増加、(エネルギー科学)(119)は3年連続大幅増加。一方で、(機械システム工)(88)は前年度大幅増加の反動で減少。 ○工(建築、都市工)から改組の 建築都市デザイン(95) は、やや減少で2年連続減少の反動は小さかった。学科別では、(建築)(93)は2年連続大幅増加の反動でやや減少。(都市工学)(99)は3年連続増加の反動はなく、微減に留まった。	
＜センター利用方式＞ ○都市生活(99)は、微減だが8年ぶりに減少。 ○人間科学(112)は、2年連続大幅増加の反動はなく、さらに増加。 ○メディア情報(104)は、2年連続大幅増加の反動はなく、さらに増加。2学科ともやや増加で3年連続増加 ○情報工(114)は、(自然科学)が改組によって理工設置となったが、残った2学科はいずれも増加が継続。(情報科学)(114)は5年連続増加。 ○環境(103)は、4年連続増加の反動はなく、さらに増加。学科別では、(環境創生)(118)は大幅増加で3年連続増加だが、(環境経営システム)(89)は4年連続大幅増加の反動で減少。 ○理工(108)は、増加。7学科全てが増加。(電気電子通信工)(1159)は大幅増加し、(自然科学)(111)、(機械工)(105)とともに5年連続増加。(医用工)(110)は7年連続増加。 ○ 建築都市デザイン(102) は、2年連続大幅増加の反動はなく微増で3年連続増加。学科別では、(都市工)(106)はやや増加で5年連続増加。	

東京農業大：大学全体では3年連続減少

一般：-884人 センター：+422人



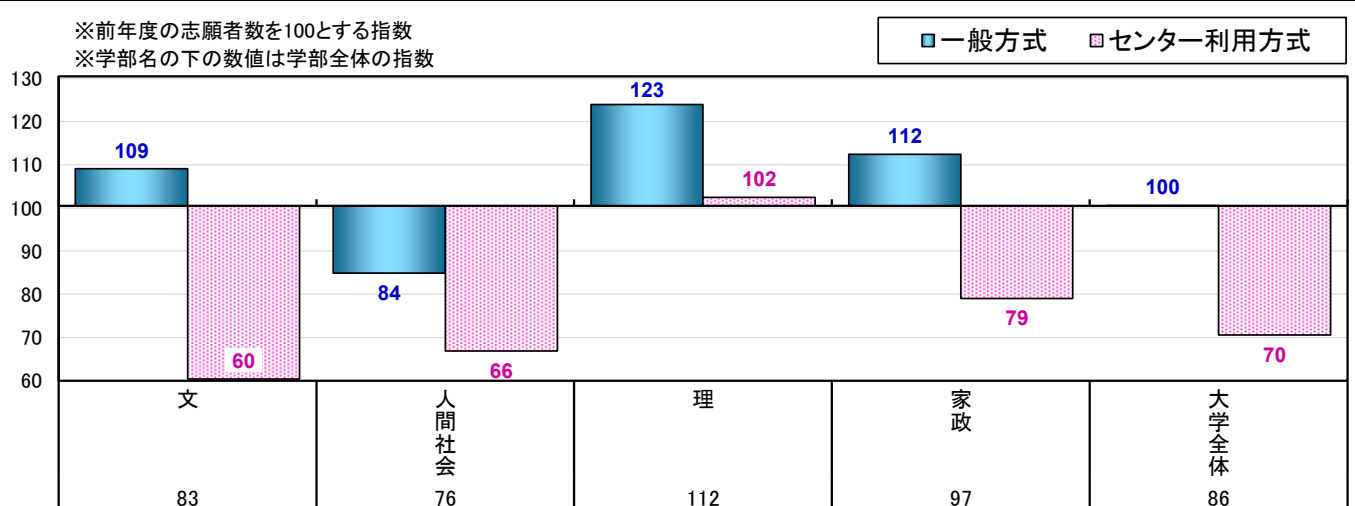
＜一般方式＞

- 国際食糧情報(115)は、大幅増加で3年ぶりに増加。学科別では、(国際バイオビジネス)(90)は減少したが、他の3学科は大幅増加。特に(国際農業開発)(144)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 地域環境科学(87)は、2年ぶりに減少。4学科全てが減少し、特に(生産環境工)(63)は大幅減少。
- 農(85)は、大幅減少で2年連続減少。4学科全てが減少し、特に(動物科学)(78)、(デザイン農)(78)は大幅減少。
- 生物産業(94)は、やや減少で6年連続減少。学科別では、(北方圏農)(111)は増加だが、他の3学科は減少。
- 応用生物科学(90)は、2017年度の改組後、3年連続減少。学科別では、(農芸化学)(102)は微増だが、他の3学科は減少。特に(醸造科学)(78)は大幅減少。
- 生命科学(111)は、2017年度の学部開設後、初めて増加。3学科全てが増加し、特に(分子微生物)(135)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

＜センター利用方式＞

- 国際食糧情報(136)は、大幅増加で2年連続増加。4学科全てが大幅増加し、特に(国際農業開発)(169)は前年度大幅減少の反動で激増。
- 地域環境科学(97)は、やや減少で2年ぶりに減少。学科別では、(造園科学)(140)は大幅増加、(生産環境工)(59)は大幅減少。
- 農(89)は、2年連続減少。4学科全てが減少し、特に(デザイン農)(81)は大幅減少。
- 生物産業(103)は、やや増加で2年ぶりに増加。学科別では、(北方圏農)(108)、(海洋水産)(108)が増加、(食香粧化学)(91)は減少。(自然資源経営)(100)は前年度と同数。
- 応用生物科学(102)は、2017年度の改組後、初めて増加。学科別では、(醸造科学)(83)は大幅減少で3年連続減少だが、他の3学科は増加。特に(農芸化学)(121)は大幅増加で4年ぶりに増加。
- 生命科学(114)は、2年ぶりに増加。学科別では、(分子生命化学)(92)のみ減少。(分子微生物)(150)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

日本女子大：センター利用方式の大幅減少で2年ぶりに減少 一般：+5人 センター：-1,957人



入試変更点 選抜方法：文、理、家政…〈英語外部試験利用型〉新規実施
人間社会〈英語外部試験利用型〉…英語外部試験のスコア変更

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,952人(86)の減少で2年ぶりに減少。センター利用方式(70)が前年度大幅増加の反動で、大幅減少したことが影響。学部別では、理(112)のみ増加。

＜一般方式＞

- 文(109)は、2年連続増加だが、新規実施の〈英語外部試験利用型〉を除くと、(87)の減少。学科別では、(史学)(136)が前年度大幅減少の反動で大幅増加し、新規実施方式を除いても(110)と唯一増加。
- 人間社会(84)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(教育)(103)は前年度激増の反動はなく、やや増加したが、他の4学科は反動で減少。(現代社会)(73)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 理(123)は、3年連続減少の反動で大幅増加。新規実施の〈英語外部試験利用型〉を除いても、(109)と増加。2学科とも増加し、(物質生物科学)(134)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。(数物科学)(111)は5年ぶりに増加。新規実施方式を除いても2学科とも増加。
- 家政(112)は、4年ぶりの増加だが、新規実施の〈英語外部試験利用型〉を除くと、(86)の減少。学科・専攻別では、(家政経済)(141)、(住居/建築デザイン)(122)、(食物/食物)(118)が大幅増加。新規実施方式を除いても増加したのは、(家政経済)(105)のみ。

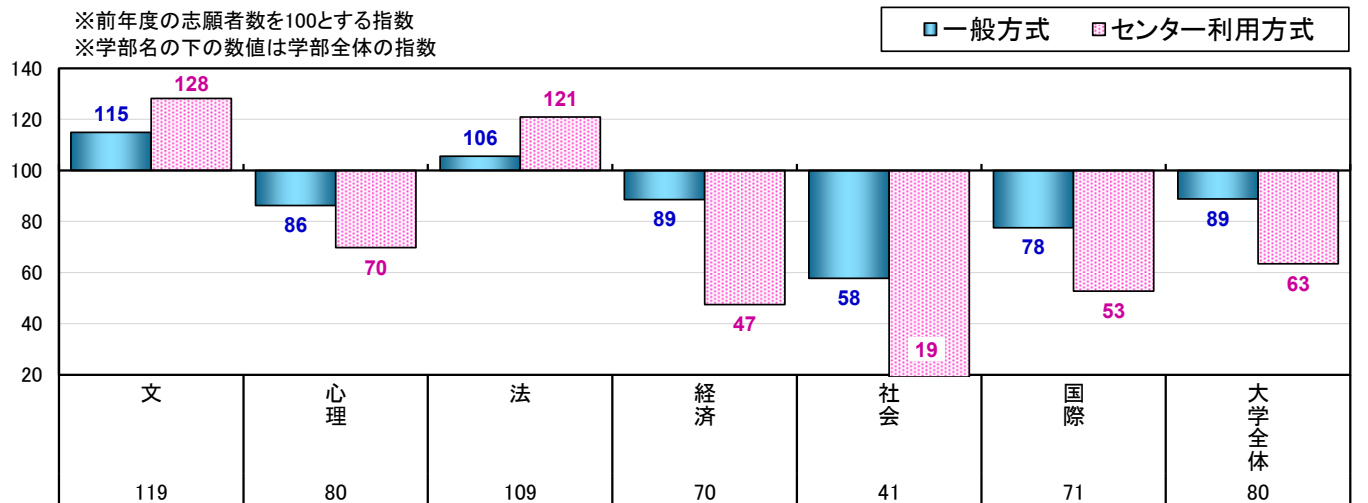
＜センター利用方式＞

- 文(60)は、大幅減少で2年ぶりに減少。3学科全てが前年度の大幅な増減の反動で増減し、増加したのは(史学)(114)のみ。(英文)(29)は前年度2.7倍増の反動で激減。
- 人間社会(112)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。5学科全てが前年度の大幅な増減の反動で増減。(現代社会)(140)は大幅増加したが、他の4学科は大幅減少。(社会福祉)(39)、(文化)(39)はいずれも前年度激増の反動で激減。

- 理(102)は、微増で2年ぶりに増加。学科別では、(物質生物科学)(128)が大幅増加、(数物科学)(84)は大幅減少で、いずれも前年度の増減の反動で増減。
- 家政(79)は、大幅減少で2年ぶりに減少。学科・専攻別では、(被服)(135)、(家政経済)(116)の大幅増加、(児童)(34)の激減、(住居／居住環境デザイン)(67)の大幅減少が目立った。

明治学院大：センター利用方式は2年連続大幅減少

一般：-1,888人 センター：-3,536人



入試変更点 選抜方法：新規実施…心理(心理)＜A日程・英語外部検定試験利用＞
文(フランス文)、心理、法(グローバル法除く)、経済、社会、国際(国際)＜全学部・英語外部検定試験利用＞
…対象試験から TEAP 2 技能と GTEC CBT 除外、TEAP 4 技能スコア 236 点以上→225 点以上
法(法律)＜A日程・英語外部検定試験利用＞…出願資格→得点換算

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、5,424人(80)の大幅減少で2年連続減少。2方式とも2年連続減少で、センター利用方式(63)は合格者数を2年連続で大幅に絞り込んだ学部・学科が多かったことで敬遠され、2年連続大幅減少。学部別では、減少の4学部はいずれも大幅減少で、特に社会(41)は60%近い大幅減少。

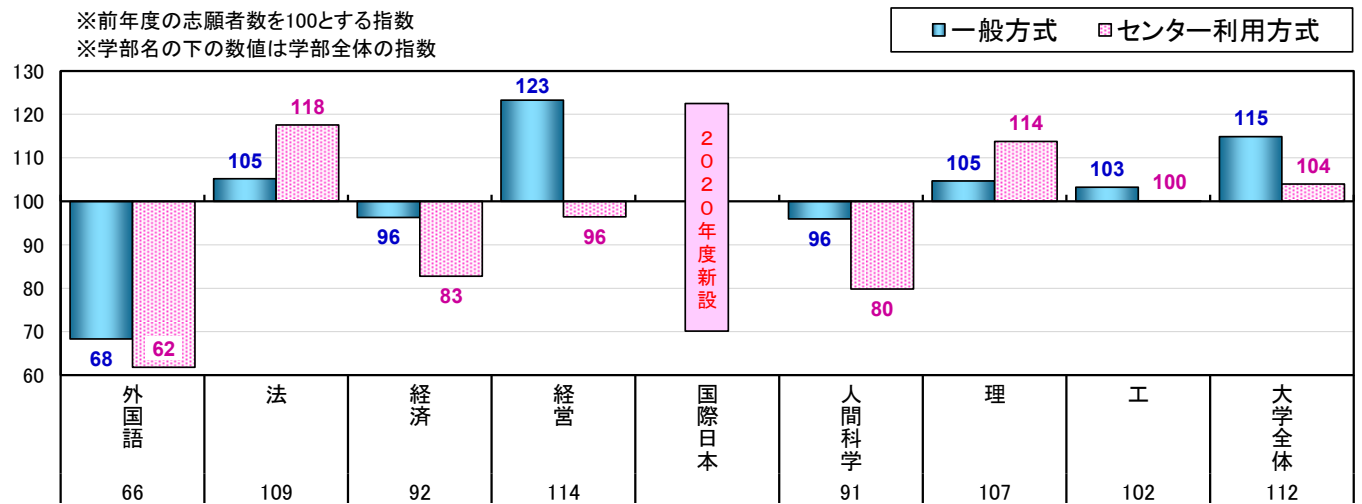
<一般方式>

- 文(115)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。(英文)(93)はやや減少で2年連続減少だが、他の2学科は大幅増加。
- 心理(86)は、4年ぶりに減少。学科別では、(教育発達)(79)は大幅減少で2年連続減少。(心理)(90)は4年ぶりに減少。
- 法(106)は、やや増加で2年ぶりに増加だが、学科別では、(消費情報環境法)(178)は前年度大幅減少の反動で激増だが、他の3学科は減少。特に(グローバル法)(53)は大幅減少で2年連続減少。
- 経済(89)は、系統への人気低下で2年連続減少。3学科全てが2年連続減少。
- 社会(58)は、系統への人気低下で大幅減少し、4年ぶりに減少。学科別では、(社会福祉)(39)は前年度激増の反動で激減し、(社会)(72)は大幅減少で2年連続減少。
- 国際(78)は、系統への人気低下で大幅減少し、3年連続減少。2学科とも大幅減少で、(国際キャリア)(64)は4年連続減少。

<センター利用方式>

- 文(128)は、前年度ほぼ半減の反動で大幅増加。学科別では、(英文)(86)は2年連続減少だが、他の2学科は増加。特に(フランス文)(298)は、前年度ほぼ8割減少の反動で3倍増となり、極端な増減が継続。
- 心理(70)は、2学科とも大幅減少で、いずれも3年ぶりに減少。
- 法(121)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(法律)(95)はやや減少で2年連続減少だが、他の2学科は増加。特に(消費情報環境法)(161)は激増で、反動による極端な増減が継続。
- 経済(47)は、系統への人気低下に加え、3学科全てが合格者数を2年連続で大幅に絞り込んだことで敬遠され、いずれも大幅減少。特に(経済)(34)は激減。
- 社会(19)は、激減で2年ぶりに減少。2学科とも激減。(社会福祉)(10)は前年度志願者数が2.7倍増と激増しながら、合格者数を70%以上も減少させたこと、(社会)(29)は前年度合格者数をほぼ90%も減少させたことでいずれも極端に厳しい競争になったことで敬遠された。
- 国際(53)は、(国際)のみの募集だが大幅減少。系統への人気低下に加え、合格者数を2年連続で大幅減少させたことで激戦となったことで敬遠された。

神奈川大：大学全体では5年連続増加、既存学部のみではやや減少 一般：+3,376人 センター：+400人



入試変更点

学部新設：国際日本(国際文化交流、日本文化、歴史民俗)
募集停止：外国語(国際文化交流)
選抜方法：外国語(英語英文)…学科一括募集→プログラム別(IES、GEC)募集
募集人員：経済<給費生>…26人→20人、経営<給費生>…13人→12人、外国語<給費生>…11人→8人、理<給費生>…9人→10人
外国語(英語英文)<前期A全国>…25人→23人、<前期A本学>…40人→35人、<前期B>…15人→12人、<前期C>…10人→8人、<後期A>…10人→8人、<セ・前期>…20人→16人
経済(経済/現代経済)<前期A全国>…105人→90人、<前期A本学>…160人→140人、<前期C>…25人→17人、<後期A>…40人→30人、<セ・前期>…70人→60人
(経済/経済分析)<前期A全国>…12人→11人、<前期A本学>…18人→15人、<前期B><前期C><後期A>…各5人→各3人
理(情報科学)<前期C>…5人→2人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,776人(112)の増加で5年連続増加。2021年度からのみならみらいキャンパスへの移転効果も影響。なお、新設の国際日本を除くと、(97)のやや減少。既存の学部では、経営(114)はみならみらいキャンパスへの移転効果で6年連続増加だが、経済(92)は5年ぶりに減少。外国語(66)は大幅減少。

<一般方式>

- 外国語(68)は、大幅減少だが、国際日本の新設で募集停止となる(国際文化交流)を除くと(100)の前年度並。学科別では、一括募集からプログラム別募集に変更の(英語英文)(92)は減少したが、他の2学科は増加。
- 法(105)は、やや増加で5年連続増加。
- 経済(96)は、やや減少で5年ぶりに減少。学科・専攻別では、(経済/経済分析)(139)、(現代ビジネス)(116)が大幅増加。一方で、(経済/現代経済)(85)は大幅減少だが、募集人員減少で競争はわずかに厳しくなった。
- 経営(123)は、大幅増加で6年連続増加。
- 新設の国際日本は、学部一括募集の<給費生>を除いた学科別の志願倍率は、(日本文化)が31.6倍、(歴史民俗)は17.0倍、(国際文化交流)は7.4倍。
- 人間科学(96)は、やや減少で3年ぶりに減少。
- 理(105)は、やや増加で3年連続増加。学科・プログラム別では、(化学)(117)が大幅増加、(数理・物理)(110)は3年連続増加。
- 工(103)は、やや増加で3年連続増加。学科・プログラム別では、(経営工)(140)、(電気電子情報工)(118)の大幅増加が目立った。

<センター利用方式>

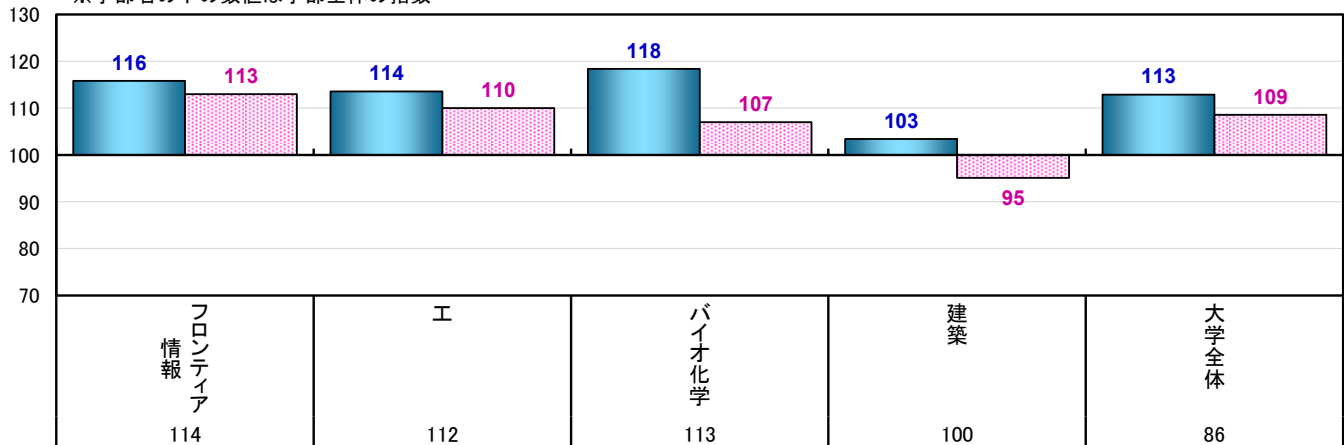
- 外国語(62)は、大幅減少で、国際日本新設で募集停止となる(国際文化交流)を除いても(88)の減少。学科別では、(スペイン語)(153)は大幅増加だが、(英語英文)(65)は大幅減少で5年ぶりに減少。
- 法(118)は、大幅増加で2年ぶりに増加。学科別では、(法律)(138)が大幅増加、(自治行政)(85)は大幅減少でいずれも前年度の大増減の反動が表れた。
- 経済(83)は、大幅減少で2年連続減少。2学科とも減少し、特に(経済)(80)は2専攻とも大幅減少。
- 経営(96)は、2年連続やや減少。
- 新設の国際日本は、学科別の志願倍率は、(日本文化)が104.0倍、(歴史民俗)は25.9倍、(国際文化交流)は8.8倍と極端な志願状況だった。
- 人間科学(80)は、大幅減少で5年ぶりに減少。
- 理(114)は、2年ぶりに増加。(生物科学)(87)のみ減少で、他の4学科は大幅増加。増加率最大の(情報科学)(132)は4年連続増加。

金沢工業大：志願者数は6年ぶりの1万人台

一般：+619人 センター：+408人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,027人(111)の増加で4年連続増加となり、志願者数は6年ぶりに1万人を上回った。学部別では、建築(100)は前年度と同数の志願者数だが、他の3学部はいずれも10%以上の増加。

<一般方式>

- 情報フロンティア(116)は、大幅増加で4年連続増加。3学科全てが増加し、特に(経営情報)(139)は大幅増加。(メディア情報)(111)は4年連続増加。
- 工(114)は、4年連続増加。6学科全てが増加し、特に(情報工)(123)、(ロボティクス)(122)は大幅増加。
- バイオ化学(118)は、大幅増加で4年連続増加。2学科とも増加し、特に(応用化学)(132)は大幅増加で3年連続増加。
- 建築(103)は、やや増加で2年連続増加。

<センター利用方式>

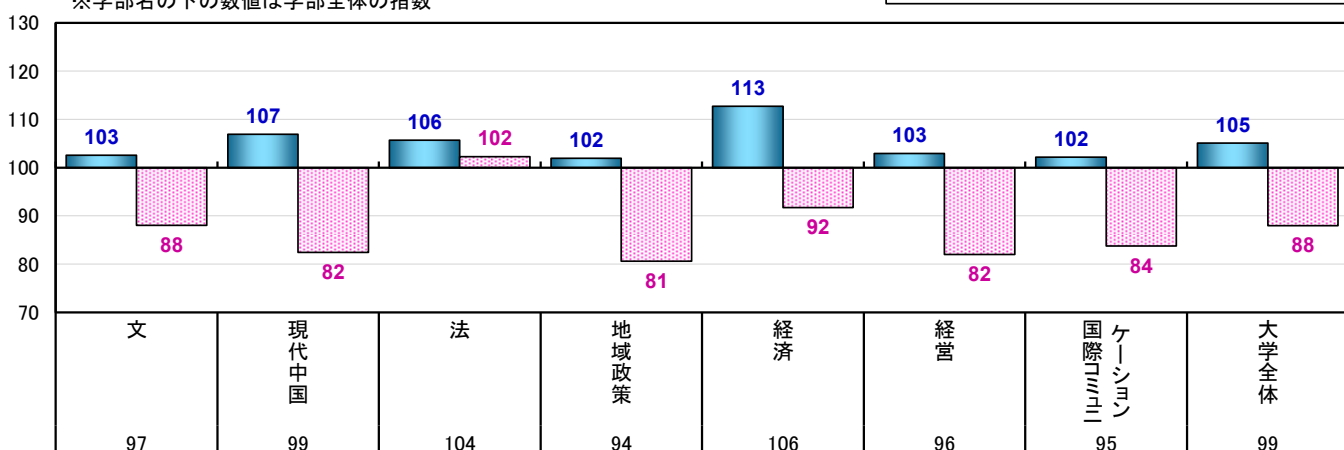
- 情報フロンティア(113)は、4年連続増加。3学科全てが増加し、特に(経営情報)(130)は大幅増加で3年連続増加。他の2学科は4年連続増加。
- 工(110)は、3年連続増加。6学科全てが増加し、特に(ロボティクス)(130)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- バイオ化学(118)は、やや増加で2年連続増加。学科別では、(応用化学)(113)が2年連続増加、(応用バイオ)(100)は前年度と同数。
- 建築(95)は、やや減少で2018年度に改組により新設されてから初めて減少。

愛知大：大学全体では微減だが5年ぶりに減少

一般：+753人 センター：-1,006人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点 選抜方法：文(心理)、法、地域政策(地域政策／食農環境)、経済、経営…〈一般・前期数学重視型〉を新規実施
文〈M方式〉…学部一括募集→学科別募集
〈セ・前期、後期〉…英語外部試験利用時の英検、TEAPの基準変更

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、253人(99)の微減だが5年ぶりに減少。センター利用方式(88)の3年ぶりの減少が影響。学部別では、経済(106)、法(104)の2学部のみ増加。文(97)はやや減少で5年ぶりに減少。

＜一般方式＞

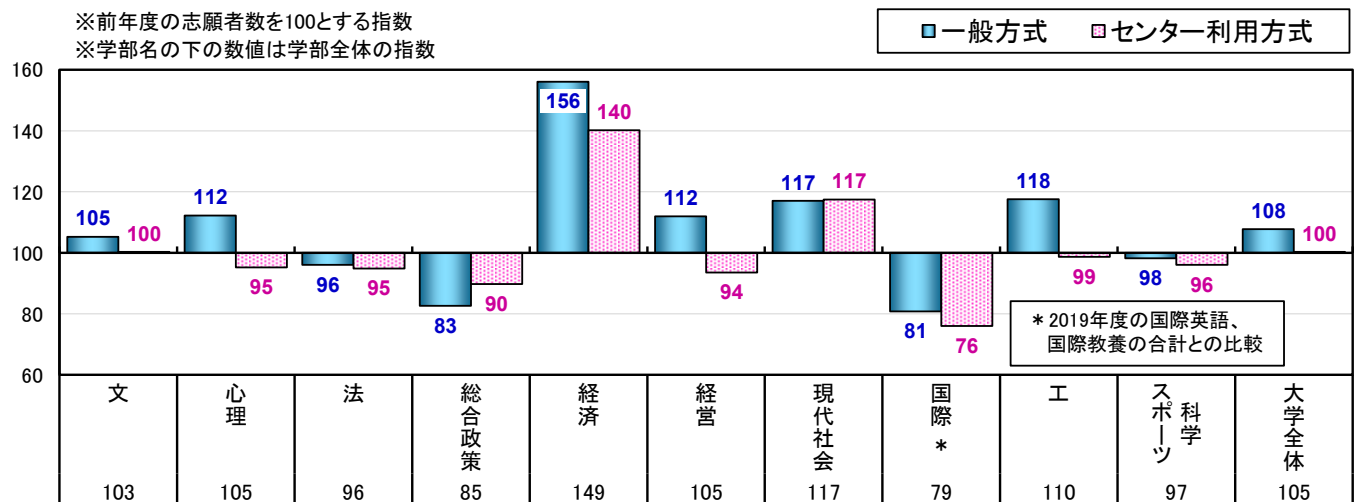
- 文(103)は、やや増加で5年連続増加。学科・専攻別では、(人文社会／歴史・地理)(140)、(心理)(139)が大幅増加。(心理)は3年連続大幅増加、他の4専攻は減少し、特に(人文社会／欧米言語文化)(73)、(人文社会／社会)(82)は大幅減少。
- 現代中国(107)は、やや増加で2年連続増加。
- 法(107)は、やや増加で3年連続増加。
- 地域政策(102)は、微増で2年ぶりに増加。専攻別では、(地域政策／地域産業)(148)、(地域政策／地域文化)(120)が大幅増加で、いずれも3年ぶりに増加。一方で、(地域政策／まちづくり)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経済(113)は、2年連続増加。
- 国際コミュニケーション(102)は、微増だが3年ぶりに増加。

＜センター利用方式＞

- 文(88)は、前年度大幅増加の反動で減少。学科・専攻別では、(人文社会／歴史・地理)(117)は大幅増加で3年連続増加だが、他は減少。
- 現代中国(82)は、2年連続増加の反動で大幅減少。
- 地域政策(81)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。(地域政策／地域産業)(113)、(地域政策／地域文化)(108)は増加したが、他の4専攻は大幅減少。
- 経済(92)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 経営(82)は、2年連続増加の反動で大幅減少。学科別では、(会計ファイナンス)(136)が大幅増加、(経営)(64)は大幅減少で、いずれも前年度と逆の増減。
- 国際コミュニケーション(84)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。2学科とも減少したが、特に(英語)(75)は大幅減少。

中京大：文、心理、工は4年連続増加

一般：+1,685人 センター：+46人



入試変更点 学部改組：国際英語、国際教養→国際
 選抜方法：＜前期M2教科＞…自由選択の試験日を3日間から2日間に
 ＜後期＞…1日のみの試験日を自由選択の2日間に

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,731人(105)のやや増加で2年ぶりに増加。細かい方式別では、試験日を1日のみから自由選択の2日間にした一般方式の＜後期＞(143)が大幅増加。既存の学部別では、経済(149)、現代社会(117)が大幅増加。一方で、総合政策(85)は大幅減少。また、文(103)、心理(105)、工(110)はいずれも4年連続増加。国際英語、国際教養から改組新設の国際(79)は、前年度の国際系2学部合計との比較では大幅減少。ただし、募集人員が187人→158人と15%以上減少のため、志願倍率は18.9倍→17.6倍と1.3ポイントダウンに留まり、大幅な競争緩和にはつながらなかった。

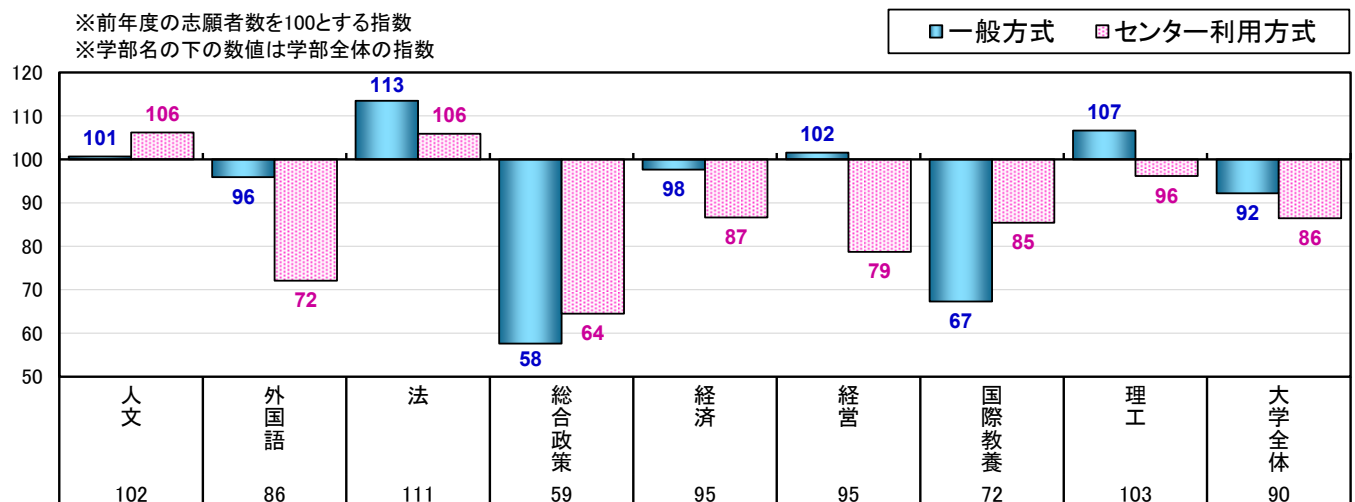
＜一般方式＞

- 文(105)は、やや増加で2年ぶりに増加。学科別では、(歴史文化)(112)の増加が目立った。
- 心理(112)は、2年ぶりに増加。
- 法(96)は、やや減少で3年連続減少。
- 総合政策(83)は、大幅減少で3年ぶりに減少し、志願者数は3年ぶりに2,000人を下回った。
- 経済(156)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加となり、志願者数は8年ぶりに経営を上回った。
- 経営(112)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 現代社会(117)は、大幅増加で2年ぶりに増加。4専攻全てが増加し、特に(現代社会／社会福祉)(167)、(現代社会／国際文化)(123)は大幅増加。
- 国際英語、国際教養から改組の国際(81)は、前年度の国際系2学部合計との比較では大幅減少。ただし、募集人員は112人→87人と22%以上減少のため、志願倍率は19.8倍→20.5倍とアップ。
- 工(118)は、系統への人気上昇で大幅増加し、4年連続増加となり、志願者数は2016年度から倍増。学科別では、(メディア工)(78)は3年連続大幅増加の反動で大幅減少したが、他の3学科は増加。特に(電気電子工)(179)は激増。
- スポーツ科学(98)は微減だが、7年連続減少。学科別では、(競技スポーツ科学)(110)のみ増加。

＜センター利用方式＞

- 心理(95)は、やや減少で7年ぶりに減少。
- 法(95)は、やや減少で2年ぶりに減少。
- 総合政策(90)は、3年ぶりに減少。
- 経済(140)は、大幅増加で3年ぶりに増加。
- 経営(94)は、やや減少で4年ぶりに減少。
- 現代社会(117)は、大幅増加で2年ぶりに増加。専攻別では、(現代社会／コミュニティ)(99)のみ減少。(現代社会／社会福祉)(241)は前年度大幅減少の反動で激増。
- 国際英語、国際教養から改組の国際(76)は、前年度の国際系2学部合計との比較では大幅減少。
- 工(99)は、微減だが4年ぶりに減少。学科別では、(電気電子工)(141)の大幅増加、(メディア工)(66)の大幅減少が目立った。
- スポーツ科学(96)は、やや減少で3年連続減少。

南山大：大学全体では3年連続減少、理工は3年連続増加 一般：-1,323人 センター：-1,060人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,383人(90)の減少で3年連続減少。学部別では、総合政策(59)、国際教養(72)の大幅減少が目立った。理工(103)は系統への人気上昇でやや増加し、3年連続増加。

＜一般方式＞

- 外国語(96)は、系統への人気低下でやや減少し、2年ぶりに減少。学科別では、(アジア)(114)の増加、(英米)(85)の大幅減少が目立った。
- 法(113)は、系統への人気低下の中で3年ぶりに増加。
- 総合政策(58)は、系統への人気低下で大幅減少し、3年ぶりに減少。
- 経済(98)は、系統への人気低下で微減となり、2年連続減少。方式別では、3教科型の＜A方式＞(107)はやや増加、一方で、2教科型の＜B方式＞(71)は大幅減少。
- 経営(102)は、微増だが2年ぶりに増加。方式別では、3教科型の＜A方式＞(108)は増加、一方で、2教科型の＜B方式＞(79)は大幅減少。
- 国際教養(67)は、系統への人気低下で大幅減少。
- 理工(107)は、系統への人気上昇でやや増加し、3年連続増加。学科別では、(システム数理)(124)が大幅増加で3年連続増加し、(機械電子制御工)(109)は前年度大幅増加の反動はなく2年連続増加。一方で、(ソフトウェア工)(94)は2年連続大幅増加の反動でやや減少。

＜センター利用方式＞

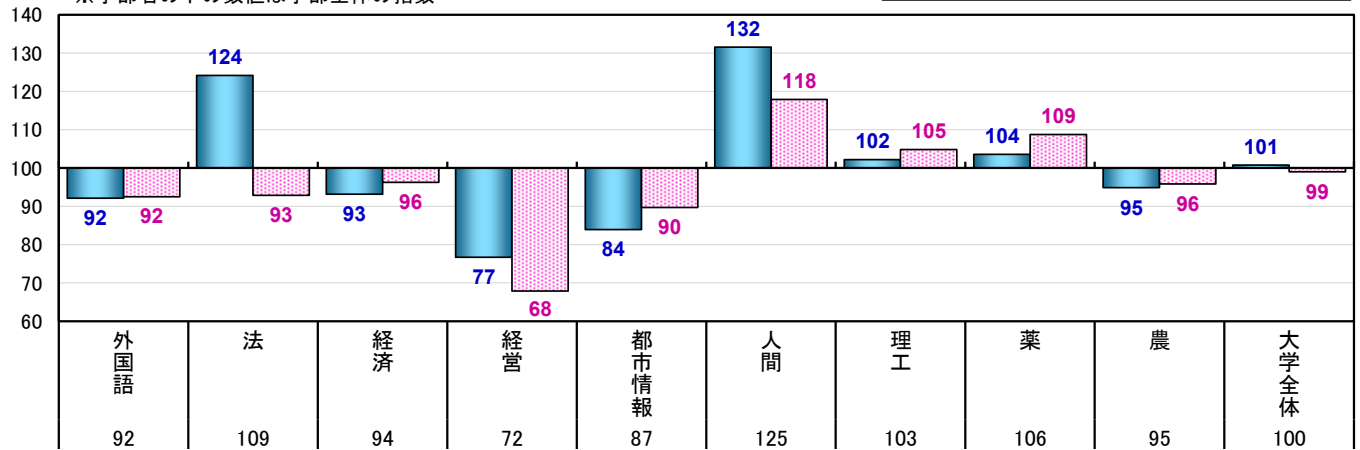
- 人文(106)は、やや増加で6年ぶりに増加。学科別では、(人類文化)(126)が大幅増加、(心理人間)(113)は増加でいずれも6年ぶりに増加。一方で、(日本文化)(82)は3年連続大幅減少、(キリスト教)(88)は2年連続大幅減少の反動はなく、3年連続減少。
- 外国語(72)は、系統への人気低下で大幅減少し、5年連続減少。5学科全てが減少で、5年連続減少の(英米)(86)以外は大幅減少。(フランス)(53)、(ドイツ)(54)、(スペイン・ラテンアメリカ)(81)はいずれも2年連続大幅減少。
- 法(106)は、3年連続20%前後の大幅減少の反動でやや増加。
- 総合政策(64)は、系統への人気低下に加え、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は過去5年間で最多の2016年度と比べると、半減以下。
- 経済(87)は、系統への人気低下で5年連続減少。
- 経営(79)は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。
- 国際教養(85)は、系統への人気低下で大幅減少し、3年連続減少。
- 理工(96)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、(システム数理)(115)のみ大幅増加し、志願者数は5年ぶりに3学科中で最多となった。

名城大：志願者数は4年連続で3万8千人台

一般：+168人 センター：-170人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点

改組：理工(環境創造)→(環境創造工)

選抜方法：外国語、都市情報、人間…〈セ・C方式前期5教科型〉を新規実施

入試科目：外国語、経済、経営、人間〈A方式、B方式〉…選択から地理除外

法〈B方式〉…選択から地理除外

外国語、経済、経営、人間〈セ・プラスF方式〉…個別試験の選択から地理除外

人間〈セ・C方式前期3教科型、後期〉…選択から理科除外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2人(100)減少しただけの前年度並で、志願者数は4年連続で3万8千人を上回った。学部別では、人間(125)の大幅増加、経営(72)の大幅減少が目立った。

<一般方式>

- 外国語(92)は、前年度大幅減少の反動はなく、2年連続減少。
- 法(124)は、大幅増加で3年ぶりに増加。2方式とも増加したが、特に2教科型の〈B方式〉(230)は激増。
- 経済(93)は、やや減少で3年ぶりに減少。2学科とも減少し、(産業社会)(76)は2年連続大幅減少。
- 経営(77)は、大幅減少で2年ぶりに減少。2学科とも大幅減少で、いずれも前年度の反動はよる増減が継続。
- 都市情報(84)は、大幅減少で前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 人間(132)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2方式とも大幅増加したが、特に2教科型の〈B方式〉(230)は倍増。
- 理工(102)は、微増だが2年連続増加。学科別では、(電気電子工)(134)が大幅増加、(応用化学)(112)は3年連続増加。(環境創造工)(87)は前年度大幅減少の反動はなく、2年連続減少。
- 薬(104)は、やや増加で5年ぶりに増加。
- 農(95)は、やや減少で3年連続減少。学科別では、唯一増加の(生物環境科学)(103)もやや増加に留まった。(応用生物化学)(95)は3年連続減少。

<センター利用方式>

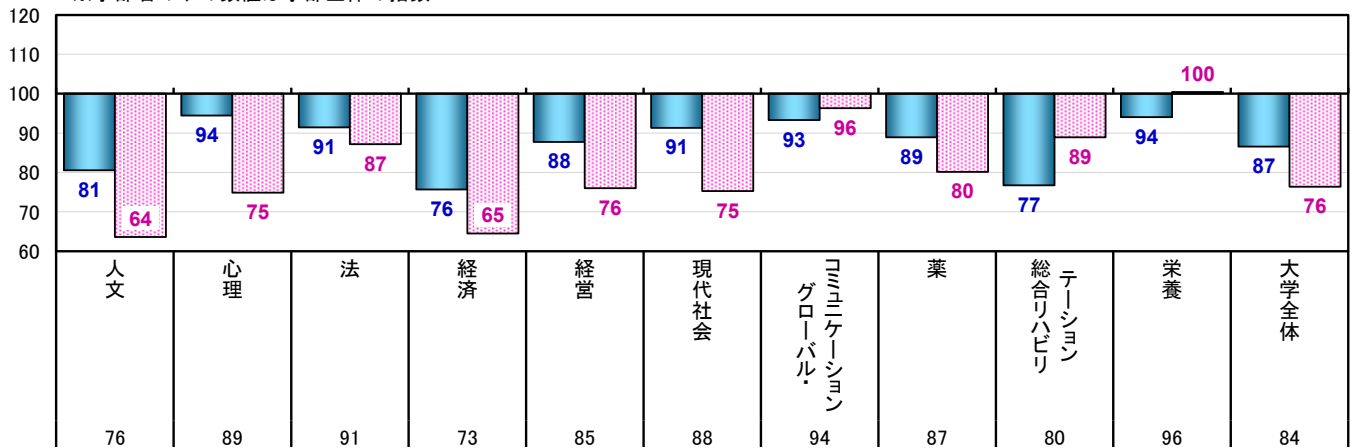
- 外国語(92)は、前年度大幅減少の反動はなく、2年連続減少。
- 法(93)は、やや減少で3年ぶりに減少。3方式全てが減少。
- 経済(96)は、2年連続大幅増加の反動は小さく、やや減少に留まった。学科別では、(経済)(102)は微増だが3年連続増加。一方で、(産業社会)(84)は2年連続で60%増加の反動で大幅減少。
- 経営(68)は、前年度激増の反動で大幅減少。2学科とも減少し、特に(経営)(60)は大幅減少。
- 都市情報(90)は、2年ぶりに減少。
- 人間(118)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 理工(105)は、やや増加で3年ぶりに増加。学科別では、(電気電子工)(146)が大幅増加で志願者数が学部内で最多となった。(応用化学)(108)は4年連続増加。一方で、(環境創造工)(85)は大幅減少で3年連続減少。(メカトロニクス工)(98)は微減だが、5年ぶりに減少。

神戸学院大：大学全体では8年ぶりに減少

一般：-2,708人 センター：-1,393人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点

名称変更：栄養(栄養／生命栄養)→(栄養／臨床検査)

選抜方法：新規実施…〈後期・調査書併用型〉

グローバル・コミュニケーション…〈セ・前期、後期〉

→〈セ・前期A方式、前期B方式、後期A方式、後期B方式〉

入試科目：栄養(栄養／臨床検査)〈中期〉〈セ・中期〉…個別試験の理が国・数との選択に

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、4,101人(101)の大幅減少で、7学部だった2012年度以来8年ぶりに減少。10学部全てが減少し、経済(73)、人文(76)、総合リハビリテーション(80)、経営(85)は大幅減少。

＜一般方式＞

- 人気(81)は、大幅減少で4年ぶりに減少。
- 心理(94)は、やや減少で前年度大幅増加の反動は小さかった。
- 法(91)は、2年連続大幅増加の反動で減少したが、志願者数は2年連続で2千人を上回った。
- 経済(76)は、5年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 経営(88)は、2年連続大幅増加の反動で減少。
- 現代社会(91)は、2014年度の開設後、5年連続大幅増加していたが、初めて減少。2学科とも減少し、特に(社会防災)(77)は大幅減少。
- グローバル・コミュニケーション(95)は、やや減少で3年ぶりに減少。専攻別では、(グローバル・コミュニケーション／中国語)(154)は5年連続大幅増加だが、(グローバル・コミュニケーション／英語)(83)は大幅減少。
- 薬(89)は、系統への人気低下で5年連続減少となり、志願者数は2015年度から60%以上減少。
- 総合リハビリテーション(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、(作業療法)(107)のみ増加。(社会リハビリテーション)(51)は、2年連続激増の反動でほぼ半減。
- 栄養(94)は、やや減少で2年ぶりに減少。専攻別では、(栄養／生命栄養)から名称変更の(栄養／臨床検査)(123)が大幅増加、(栄養／管理栄養)(80)は大幅減少。

＜センター利用方式＞

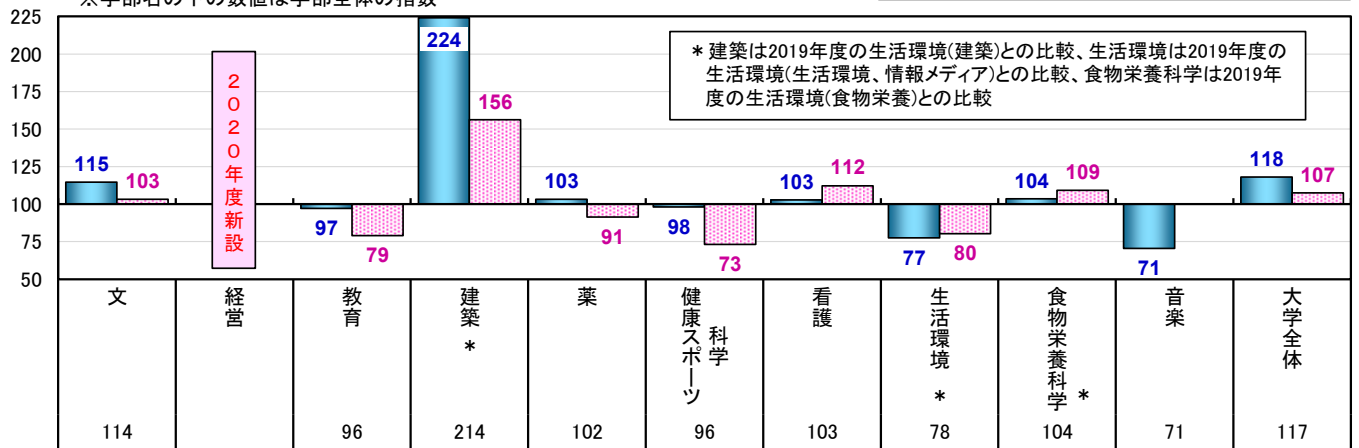
- 人文(64)は、前年度1.9倍増の反動で大幅減少。
- 心理(75)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 法(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 経済(65)は、3年連続増加の反動で大幅減少。
- 経営(76)は、4年連続増加の反動で大幅減少。
- 現代社会(75)は、2015年度の方式実施後、4年連続大幅増加していたが、初めて減少。2学科とも大幅減少で初めて減少。
- グローバル・コミュニケーション(96)は、やや減少で2016年度の方式実施後、初めて減少。専攻別では、(グローバル・コミュニケーション／中国語)(154)は4年連続大幅増加だが、(グローバル・コミュニケーション／英語)(93)は初めて減少。
- 薬(89)は、系統への人気低下に加え、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 総合リハビリテーション(89)は、3年ぶりに減少。学科別では、(理学療法)(109)は5年ぶりに増加したが、(社会リハビリテーション)(56)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 栄養(100)は、1人増加の前年度並。専攻別では、(栄養／生命栄養)から名称変更の(栄養／臨床検査)(143)が大幅増加、(栄養／管理栄養)(77)は大幅減少。

武庫川女子大：学部新設で大幅増加

一般：+1,951 人 センター：+71 人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点

学部新設：経営
改組：生活環境(建築)→建築(建築、景観建築)
生活環境(食物栄養)→食物栄養科学(食物栄養、食創造科学)
選抜方法：文(英語文化、日本語日本文)<A 2科目型、B 2科目型>…

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、2,022 人(117)の大幅増加で2年連続増加。経営の新設、建築と食物栄養科学の改組新設が影響。

<一般方式>

- 文(115)は、大幅増加で2年ぶりに増加。3学科全てが増加し、特に(日本語日本文)(142)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。(心理社会福祉)(106)はやや増加で3年ぶりに増加し、(英語文化)(105)はやや増加で5年連続増加。
- 新設の経営は、志願者数1,682人で、志願倍率は16.0倍だった。
- 生活環境(建築)から改組新設の建築(224)は、(建築)(157)が前年度の生活環境(建築)と比べると大幅増加で、2年連続増加。(建築景観)は志願者数180人で、志願倍率は8.6倍だった。
- 看護(103)は、やや増加で5年連続増加。
- 薬(103)は、やや増加で2年連続増加。2学科とも増加し、特に(健康生命薬科学)(120)は大幅増加。
- 生活環境(77)は、改組により4学科から2学科となり大幅減少。残った2学科はともに大幅減少。
- 生活環境(食物栄養)から改組の食物栄養科学(104)は、(食物栄養)(85)は前年度の生活環境(食物栄養)と比べると大幅減少。(食物栄養科学)は志願者数239人で、志願倍率は6.3倍だった。

<センター利用方式>

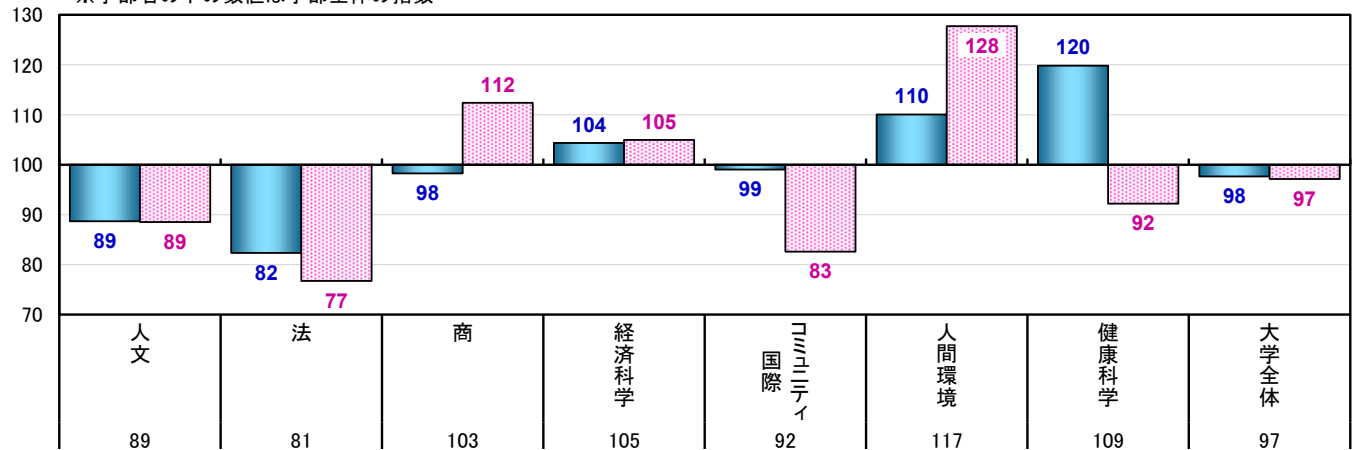
- 新設の経営は、志願者数110人で、志願倍率は22.0倍だった。
- 教育(79)は、大幅減少。
- 生活環境(建築)から改組新設の建築(156)は、(建築)(110)が前年度の生活環境(建築)と比べると増加。(建築景観)は志願者数22人で、志願倍率は7.3倍だった。
- 薬(91)は、2年ぶりに減少。学科別では、(健康生命薬科学)(131)が4年連続増加、(薬)(84)は大幅減少。
- 健康スポーツ科学(73)は、2年連続大幅減少。
- 看護(112)は、前年度大幅減少の反動で増加。
- 生活環境(80)は、改組により4学科から2学科となり大幅減少。残った2学科はともに減少したが、特に(生活環境)(70)は前年度倍以上の反動で大幅減少。
- 生活環境(食物栄養)から改組の食物栄養科学(109)は、(食物栄養)(92)は前年度の生活環境(食物栄養)と比べると減少。(食物栄養科学)は志願者数15人で、志願倍率は3.0倍だった。

広島修道大：商、人間環境、健康科学は2年連続増加

一般：-152人 センター：-118人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点 選抜方法：＜C日程＞…英語外部試験の対象試験に英検 CBT 追加
人間環境＜C日程＞…3教科→2教科
＜セ＞＜セ・併用＞…センター試験の国は近代以降の文章のみに

COMMENT ※（ ）内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、270人(97)のやや減少で2年ぶりに減少。学部別では、人間環境(117)、健康科学(109)、商(103)は2年連続増加。大幅増加の人間環境は、入試での負担減となったことが影響。

<一般方式>

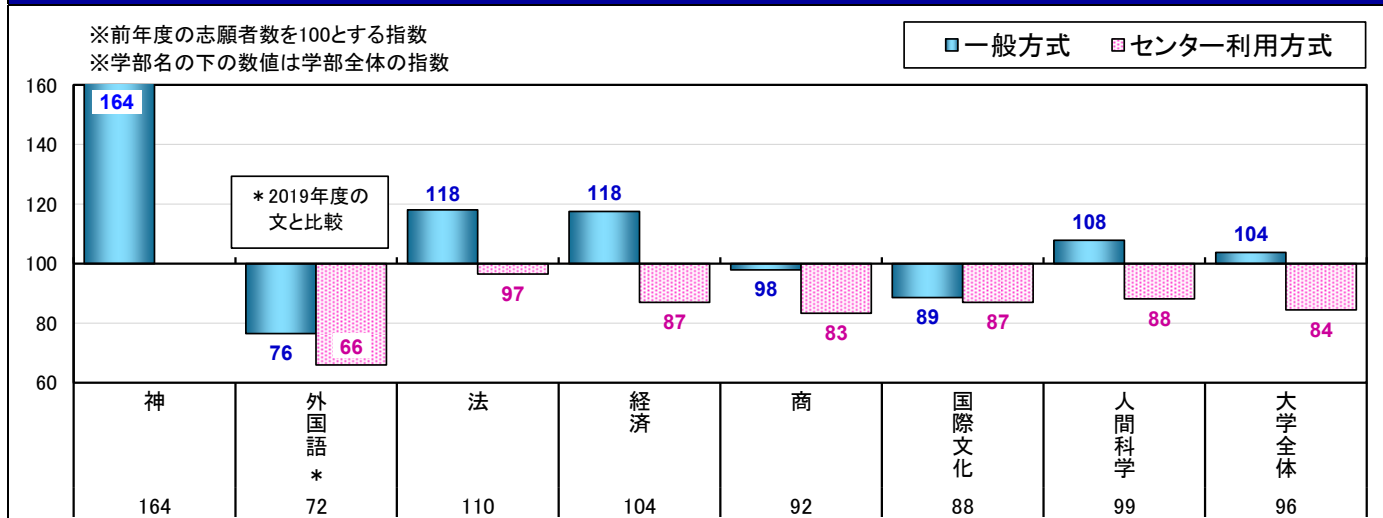
- 人文(89)は、2年ぶりに減少。3学科全てが減少。
- 法(82)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 商(98)は、微減で前年度大幅増加の反動はほとんどみられなかった。学科別では、(経営)(121)は2年連続大幅増加だが、(商)(80)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。
- 経済科学(104)は、やや増加で前年度大幅減少の反動は小さかった。2年連続減少。学科別では、(現代経済)(109)は前年度大幅減少の反動で増加。(経済情報)(100)は前年度並。
- 国際コミュニティ(99)は、微減で前年度大幅増加の反動はほとんどみられなかった。学科別では、(国際政治)(132)は前年度大幅増加の反動はなく、2年連続増加。(地域行政)(90)は減少。
- 人間環境(110)は、2年連続増加。
- 健康科学(120)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(心理)(129)は2年連続大幅増加。(健康栄養)(100)は前年度と同数。

<センター利用方式>

- 人文(89)は、2年ぶりに減少。3学科全てが減少し、特に(人間関係)(78)は大幅減少。
- 法(77)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 商(112)は、前年度大幅増加の反動はなく、2年連続増加。学科別では、(経営)(140)は大幅増加で2年連続増加だが、(商)(91)は前年度激増の反動で減少。
- 経済科学(105)は、やや増加で前年度大幅増加の反動は小さかった。学科別では、(現代経済)(116)は前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、(経済情報)(93)は2年連続減少。
- 国際コミュニティ(83)は、2学科とも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 人間環境(128)は、大幅増加で4年ぶりに増加。
- 健康科学(92)は、2年ぶりに減少。学科別では、(心理)(90)は前年度大幅増加の反動で減少。(健康栄養)(97)はやや減少で2年連続減少。

西南学院大：志願者数は5年連続で2万1千人以上

一般：+478人 センター：-1,472人



入試変更点

学部改組：文(英文、外国語)、募集人員 205 人→外国語(外国語)、募集人員 183 人
 選抜方法：新規実施…人間科学(心理)<英語 4 技能利用>
 募集人員：商(経営)<A・F>…98 人→75 人、<セ・後期>…7 人→5 人
 (商)<A・F>…98 人→75 人、<セ・後期>…7 人→5 人
 人間科学(心理)<セ・前期>…10 人→6 人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、994 人(96)のやや減少で2年ぶりに減少。文から学部改組で新設の外国語(72)の大幅減少が影響したが、外国語を除いた集計では(100)で前年度並。方式別では、センター利用方式(84)が大幅減少したが、大学全体の志願者数は5年連続で2万1千人以上。

<一般方式>

- 文から改組による新設の外国語(76)は、系統への人気低下に加え、募集人員大幅減少(対前年度対比指数 81)により大幅減少だが、志願倍率は11.6 倍→11.0 倍と0.6 ポイントダウンに留まった。
- 法(118)は、系統への人気低下の中で大幅増加し、2年連続増加。2学科とも大幅増加で、(国際関係法)(128)は2年連続大幅増加。
- 経済(118)は、系統への人気低下の中で大幅増加し、2年連続増加。2学科とも増加し、(国際経済)(142)は大幅増加。(経済)(108)は2年連続増加。
- 商(98)は、微減だが、2年連続減少。学科別では、(商)(104)がやや増加、(経営)(92)は減少でいずれも前年度と逆の増減。なお、2学科とも募集人員が大幅減少のため、志願者数減少の(経営)も志願倍率は13.6 倍→16.4 倍とアップ。
- 国際文化(89)は、3年連続減少。
- 人間科学(108)は、2年ぶりに増加。学科別では、(心理)(126)、(社会福祉)(116)は大幅増加でいずれも2年ぶりに増加。(心理)は新規実施方式を除いても(113)の増加。一方で、(児童教育)(82)は大幅減少で2年連続減少。

<センター利用方式>

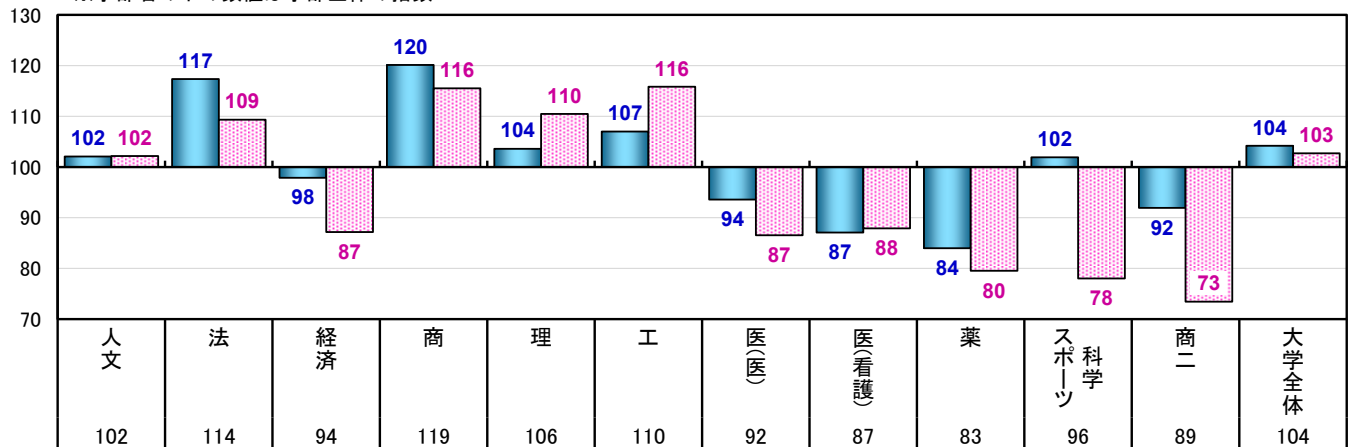
- 文から改組による新設の外国語(66)は、系統への人気低下での大幅減少に加え、募集人員大幅増加(対前年度対比指数 116)のため、志願倍率は31.6 倍→17.9 倍と大幅ダウン。
- 法(97)は、2学科とも前年度大幅増加の反動は小さく、いずれもやや減少に留まった。
- 経済(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。2学科とも減少し、特に(経済)(83)は大幅減少。
- 商(83)は、系統への人気低下に加え、2年連続増加の反動で大幅減少。2学科とも減少し、特に(経営)(78)は大幅減少。
- 国際文化(87)は、3年連続増加の反動で減少。
- 人間科学(88)は、2年ぶりに減少。3学科とも減少し、特に(児童教育)(76)は大幅減少。

福岡大：地元志向の高まりで2年連続増加

一般：+1,376人 センター：+469人

※前年度の志願者数を100とする指数
※学部名の下の数値は学部全体の指数

■一般方式 ■センター利用方式



入試変更点

募集人員：医(医)〈系統別〉…70人→60人
配点：医(医)〈系統別〉…面+論+調<計50>→面<50>、論・調は点数化廃止
〈セ・I期〉…面+調<計50>→面<50>、調は点数化廃止

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、1,845人(104)のやや増加で2年連続増加。地元志向の高まりが影響。学部別では、商(119)の大幅増加、薬(83)の大幅減少が目立った。

<一般方式>

- 人文(102)は、微増だが5年連続増加。学科別では、(日本語日本文)(116)、(歴史)(115)が大幅増加。一方で、(フランス語)(73)は大幅減少。
- 法(117)は、2年連続減少の反動で大幅増加。2学科とも増加し、(経営法)(137)は2年連続減少の反動で大幅増加。(法律)(109)は2年連続増加。
- 商(120)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。3学科1プログラムが全て増加。(貿易)(129)、(商)(120)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 理(104)は、やや増加で3年連続増加。学科・インスティテュート別では、(ナノサイエンス/物理科学)(142)が3年連続大幅増加し、(物理科学)(118)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(社会数理・情報インスティテュート)(82)は大幅減少で、3年ぶりに減少。
- 工(107)は、やや増加で2年連続増加。学科別では、(電子情報工)(98)は微減だが、他の5学科は増加。特に(電気工)(130)は大幅増加で、3年ぶりに増加。
- 医(医)(94)は、やや減少で2年ぶりの減少だが、募集人員減少で志願倍率は41.7倍→45.5倍とアップ。
- 医(看護)(87)は、系統への人気低下で2年連続減少。
- 薬(84)は、系統への人気低下で大幅減少し、7年連続減少。

<センター利用方式>

- 人文(102)は、微増だが5年連続増加。学科別では、(日本語日本文)(123)、(文化)(116)が大幅増加。一方で、(フランス語)(69)、(東アジア地域言語)(83)は大幅減少。
- 法(109)は、2年連続増加。2学科とも増加し、特に(経営法)(126)は大幅増加。(法律)(104)はやや増加で2年連続増加。
- 経済(87)は、前年度大幅増加の反動で減少。2学科とも減少し、(経済)(86)は5年ぶりに減少。(産業経済)(92)は2年ぶりに減少。
- 商(116)は、大幅増加で3年連続増加。3学科全てが増加し、特に(貿易)(144)は大幅増加で2年ぶりに増加。
- 理(110)は、3年連続増加。学科・インスティテュート別では、(ナノサイエンス/物理科学)(184)が3年連続大幅増加、(物理科学)(123)も大幅増加で2年ぶりに増加。
- 工(116)は、大幅増加で4年連続増加。6学科全てが増加し、特に(電気工)(138)、(化学システム工)(121)、(機械工)(119)が大幅増加。
- 医(医)(87)は、3年連続増加の反動で減少。
- 医(看護)(88)は、系統への人気低下で2年ぶりに減少。
- 薬(80)は、系統への人気低下で大幅減少し、2年ぶりに減少。
- スポーツ科学(78)は、大幅減少で4年連続減少。2学科とも減少し、特に(スポーツ科学)(68)は大幅減少で4年連続減少。

〔大学別分析〕

大学	方式	志願者数増減		2020年度		2019年度		コメント
		増減数	指数	募集 人員	志願 者数	募集 人員	志願 者数	
北星学園大	一般	+177	109	409	2,186	409	2,009	大学全体では、234人(107)のやや増加で、4年連続増加。志願者数は2年連続で、3,000人を上回った。学部別では、社会福祉(111)、文(110)は2年連続。経済(105)は3年連続で、いずれも増加。学科別では、経済(経済法)(89)、社会福祉(福祉心理)(93)は減少したが、他は増加。社会福祉(福祉臨床)(139)、経済(経営情報)(131)、文(英文)(115)は大幅増加。
	センター	+57	105	89	1,249	89	1,192	
北海道医療大	一般	-183	93	291	2,408	303	2,591	大学全体では、168人(96)のやや減少で、6年連続減少。学部別では、新設2年目の医療技術(189)がセンター利用方式導入で激増し、既存の一般方式(123)も大幅増加。一方で、他の5学部は減少し、特に心理科学(80)は大幅減少。学科別でも増加したのは、看護福祉(看護)(101)のみ。リハビリテーション科学(理学療法)(81)は大幅減少。
	センター	+15	101	140	1,651	128	1,636	
北海道科学大	一般	+1,121	128	309	5,164	309	4,043	大学全体では、1,814人(125)の大幅増加で、3年連続増加。4学部全てが増加し、特に工(149)、未来デザイン(143)はいずれも2年連続大幅増加。工の増加数が大学全体の増加数の70%以上を占めた。2学部とも全学科が30%以上の大幅増加。保健医療(107)、薬(106)はやや増加。学科別でも減少したのは、微減の保健医療(臨床工)(99)のみ。
	センター	+693	122	131	3,904	131	3,211	
酪農学園大	一般	-67	96	246	1,474	246	1,541	大学全体では、103人(96)のやや減少で、3年連続減少。獣医(獣医)(91)は3年連続減少で、最後に増加した2017年度と比べると、30%以上の大幅減少。獣医(動物保険看護)(102)は微増だが、4年ぶりに増加。農食環境(102)は微増で、2年ぶりに増加。学類・コース別では、(食と健康)(118)の大幅増加、(循環農)(91)の減少が目立った。
	センター	-36	96	63	803	63	839	
東北福祉大	一般	+467	112	576	4,421	593	3,954	大学全体では、422人(107)のやや増加で、2年連続増加。学部別では、総合マネジメント(93)が前年度大幅増加の反動で、やや減少したが、他の3学部は増加。学科別では、総合マネジメントの2学科、健康科学(保健看護)(92)、総合福祉(福祉心理)(96)は減少したが、他は増加。
	センター	-45	98	151	2,237	155	2,282	
文教大	一般	+703	106	930	13,225	927	12,522	大学全体では、682人(97)のやや減少で、2年ぶりに減少。センター利用方式が前年度大幅増加の反動で、大幅減少したことが影響。学部別では、経営(109)、情報(108)、国際(102)がいずれも2年連続増加だが、他の4学部は減少。特に健康栄養(83)、文(85)は大幅減少で、文は大幅な増減が継続。
	センター	-1,385	82	294	6,427	292	7,812	
大妻女子大	一般	-724	84	436	3,744	433	4,468	大学全体では、前年度大幅増加の反動で、2,455人(70)の大幅減少、志願者数は7年ぶりに6,000人を下回った。5学部全てで減少し、家政(89)以外の4学部はいずれも30%以上の大幅減少。特に比較文化(37)は2年連続大幅増加の反動で激減。学科・専攻別で増加したのは、家政(ライフデザイン)(125)のみ。
	センター	-1,731	53	243	1,933	243	3,664	
北里大	一般	-241	98	1,045	10,462	1,044	10,703	大学全体では、1,188人(92)の減少で、4年連続減少。廃止の薬<セ>を除いても(97)のやや減少。学部別では、薬(64)、看護(78)、海洋生命科学(85)が大幅減少、獣医(95)はやや減少で他の3学部は増加。一方で、医療衛生(110)はリハビリテーション／言語聴覚療法(74)、(医療工／臨床工)(98)以外の学科・専攻は増加。医(104)は3年ぶりに増加。
	センター	-947	78	185	3,366	197	4,313	
国際基督教大	一般	+37	103	300	1,292	300	1,255	大学全体では、37(103)のやや増加で、5年ぶりに増加。方式別では、<B方式>(114)は増加で、前年度の反動による増減が継続。<A方式>(102)は2年連続減少の反動は小さく微増。
	センター							
実践女子大	一般	-283	93	373	3,991	351	4,274	大学全体では、1,094人(85)の大幅減少で、4年ぶりに減少。センター利用方式(73)の大幅減少が大きく影響。学部別では、3学部全てで減少し、特に人間社会(70)は大幅減少。学科・専攻別では、(生活文化／幼児保育)(151)のみ増加。
	センター	-811	73	195	2,231	198	3,042	
昭和大	一般	-1,631	78	339	5,867	342	7,498	大学全体では、1,905人(79)の大幅減少で、2年連続減少。系統への人気低下が影響。4学部全てが一般方式、センター利用方式のいずれも減少し、保健医療(94)以外の3学部は大幅減少。薬(71)は2年連続減少、医(78)は4年連続減少、歯(79)は3年ぶりに減少。
	センター	-274	80	86	1,116	86	1,390	
昭和薬科大	一般	-185	83	100	882	100	1,067	大学全体では、298人(86)の減少で、2年ぶりの減少、志願者数は2,000人を下回った。方式別では、一般方式<B方式>(83)は大幅減少で、6年連続減少。センター利用方式(90)は2方式とも2年ぶりに減少。特に<セ・C方式>(74)は大幅減少。
	センター	-113	90	40	1,017	40	1,130	

2020 年度入試状況分析【私立大】

大学	方式	志願者数増減		2020年度		2019年度		コメント
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
玉川大	一般	-142	98	752	6,903	833	7,045	大学全体では、589人(94)のやや減少で、3年ぶりの減少、志願者数は3年ぶりに1万人を下回った。学部別では、工(122)が系統への人気上昇から大幅増加で、3年連続増加。芸術(111)は2年ぶりに増加したが、他の6学部はいずれも減少し、特に観光(76)、農(76)、経営(84)は大幅減少。農は3年連続減少、観光は5年ぶりの減少。
	センター	-447	85	199	2,622	270	3,069	
東京経済大	一般	+14	100	743	8,544	733	8,530	大学全体では、1,018人(92)の減少で、2年連続減少。学部・プログラム別では、コミュニケーション(113)が2年連続増加、経済(100)は微増だが、3年ぶりに増加。一方で、他の2学部1プログラムは減少。特に2年次から学部所属となるキャリアデザインプログラム(32)は、前年度2.3倍増の反動で激減、大学全体の減少数の80%以上を占めた。
	センター	-1,032	78	161	3,704	166	4,736	
東京薬科大	一般	+25	101	212	2,021	197	1,996	大学全体では、153人(104)のやや増加で、4年ぶりに増加。学部別では、生命科学(132)が大幅増加で、3年連続増加。3学科全てが増加し、特に(応用生命科学)(149)、(分子生命科学)(149)は大幅増加。一方で、薬(90)は6年連続減少で、最後に増加した2014年度比約37%もの大幅減少。(女子部)(86)は7年連続、(男子部)(94)は6年連続でいずれも減少。
	センター	+128	109	103	1,569	118	1,441	
日本獣医生命科学大	一般	-177	91	193	1,863	179	2,040	大学全体では、前年度大幅増加の反動で、694人(84)の大幅減少。獣医(獣医保健看護)(95)はやや減少で、前年度と逆の増減が継続。獣医(獣医)(83)は4方式全てが減少したが、特にセンター利用方式(69)は2方式とも大幅減少。応用生命科学(80)は前年度大幅増加の反動で、大幅減少となり、志願者数は2年ぶりに1,000人を下回った。2学科とも大幅減少。
	センター	-517	77	70	1,736	86	2,253	
星薬科大	一般	-134	92	128	1,457	128	1,591	大学全体では、281人(91)の減少で6年連続減少。最後に増加した2014年度比30%近い大幅減少。学科別では、(創薬科学)(103)はやや増加で4年ぶりの増加だが、(薬)(90)は6年連続減少。
	センター	-147	90	48	1,388	48	1,535	
武蔵大	一般	+752	106	486	13,947	508	13,195	大学全体では、68人(100)の微減だが、4年ぶりに減少。方式別では、一般方式(106)はやや増加で、4年連続増加。一方で、センター利用方式(86)は3年連続減少。学部別では、経済(110)は3学科全てが2年連続増加。特に(金融)(128)は大幅増加。一方で、社会(90)は2年連続減少、人文(93)はやや減少で、4年ぶりに減少。
	センター	-820	86	206	4,855	200	5,675	
明治薬科大	一般	-87	96	180	1,970	180	2,057	大学全体では、105人(97)のやや減少で、4年連続減少。最後に増加した2016年度比30%以上の大幅減少。学科別では、(生命創薬科学)(118)は大幅増加で、2年ぶりに増加したが、(薬)(92)はやや減少で、4年連続減少。
	センター	-18	99	40	1,202	40	1,220	
麻布大	一般	-266	91	300	2,719	300	2,985	大学全体では、641人(87)の減少で、2年連続減少。獣医(動物応用化学)(86)、獣医(獣医)(93)はいずれも2年連続減少。生命・環境科学(79)は大幅減少で、2年連続減少。3学科全てが減少し、(食品生命科学)(61)は大幅減少で、2年連続減少。(環境科学)(85)は2年連続大幅増加の反動で、大幅減少。
	センター	-375	81	52	1,650	52	2,025	
京都女子大	一般	+61	101	491	4,248	509	4,187	大学全体では、319人(96)のやや減少で、2年ぶりに減少。学部別では、発達教育(105)は前年度大幅増加の反動はなく、やや増加したが、他の4学部は減少。特に法(76)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。学科・専攻別では、現代社会(現代社会／国際社会)(121)、発達教育(児童)(116)が大幅増加。一方で、文(英文)(77)、家政(食物栄養)(79)、文(史学)(83)は大幅減少。
	センター	-380	88	220	2,776	220	3,156	
京都薬科大	一般	-208	82	180	954	180	1,162	大学全体では、406人(81)の大幅減少で、前年度と逆の増減が継続。志願者数は9年ぶりに2,000人を下回った。3方式全てが大幅減少。
	センター	-198	80	50	788	50	986	
同志社女子大	一般	-510	93	683	6,721	694	7,231	大学全体では、695人(92)の減少で、前年度5年ぶりに増加したが、再度減少に転じた。学部別では、薬(111)が6年ぶりに増加、看護(104)はやや増加で4年ぶりに増加したが、他の4学部は減少。特に現代社会(83)は大幅減少。減少した4学部の学科・専攻別で増加したのは、学芸(メディア創造)(115)、生活科学(食物栄養科学／管理栄養士)(100)のみ。
	センター	-185	90	141	1,651	110	1,836	
大阪工業大	一般	-723	93	728	10,059	728	10,782	大学全体では、999人(95)のやや減少で、5年ぶりに減少。学部別では、工(101)を除いた3学部は減少。特に知的財産(77)は大幅減少。学科別では、工は(応用化学)(107)、(機械工)(107)などが増加したが、ロボティクス&デザイン工(88)、情報科学(90)は全学科が減少。情報科学(情報メディア)(77)、ロボティクス&デザイン工(空間デザイン)(78)は大幅減少。
	センター	-276	97	223	9,043	223	9,319	

大学	方式	志願者数増減		2020年度		2019年度		コメント
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
大阪薬科大	一般	±0	100	150	1,352	150	1,352	大学全体では、96人(106)のやや増加で、6年ぶりに増加。一般方式(100)は<A方式>(109)が4年ぶりに増加だが、<B方式>(89)は4年連続減少。センター利用方式(127)は前年度大幅減少の反動で、大幅増加。
	センター	+96	127	14	456	14	360	
摂南大	一般	-6,312	75	1,053	18,578	892	24,890	大学全体では、9,937人(74)の大幅減少で、7年ぶりに減少、志願者数は3年ぶりに3万人を下回った。新設の農を除くと、15,006人(61)の大幅減少で、6年連続増加の反動がはっきりと表れた。既存の7学部全てが30%以上の大幅減少で、特に外国語(55)、経営(57)、法(58)、経済(61)の文系4学部の減少率の大きさが目立った。
	センター	-3,625	73	147	9,997	121	13,622	
甲南女子大	一般	+291	105	354	6,150	360	5,859	大学全体では、346人(96)のやや減少で、4年ぶりに減少。学部別では、医療栄養(109)は2年連続減少の反動で増加、人間科学(106)はやや増加。一方で、看護リハビリテーション(88)は4年連続減少。文(95)はやや減少で、文の学科改組で新設の国際との合計でも、(97)のやや減少。
	センター	-637	82	147	2,961	146	3,598	
神戸薬科大	一般	-160	90	140	1,444	140	1,604	大学全体では、151人(93)のやや減少で、3年連続減少。方式別では、センター利用方式(102)は2年連続微増だが、一般方式(90)は3年連続減少で、3方式全てが減少。<中期>(85)は2年連続大幅減少、<前期>(93)はやや減少で、6年連続減少。
	センター	+9	102	10	466	10	457	
松山大	一般	-493	91	678	5,256	673	5,749	大学全体では、561人(93)のやや減少で、4年連続減少。減少数はこの4年間で最多。5学部全てが減少し、特に薬(86)は前年度大幅増加の反動で、減少率が最も大きい学部だった。人文(87)は2学科とも2年ぶりに減少し、(英語英米文)(71)は大幅減少。経営(91)は3年連続減少、法(95)、経済(98)はいずれも2年連続減少。
	センター	-68	96	175	1,747	170	1,815	

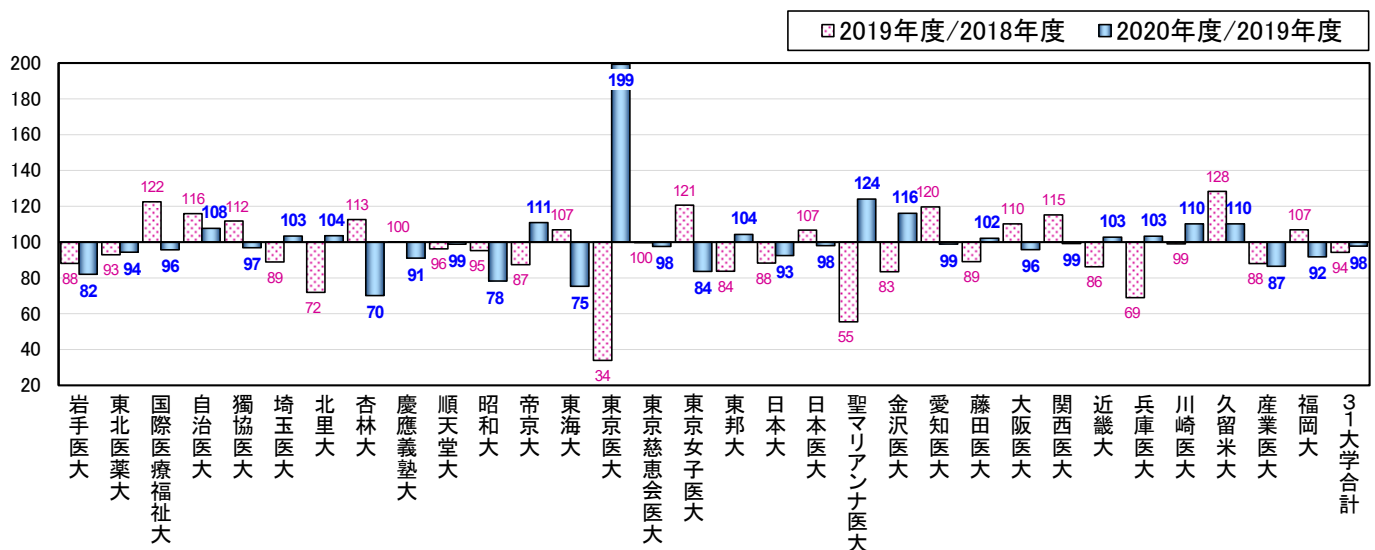
⑩医学部医学科志願状況

□既卒志望者減少の影響などで2年連続減少

〔志願者数推移〕

	2020年度	増減数	指数	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度
募集人員	2,951	-18	99	2,969	3,037	3,024	2,904	2,791	2,770	2,742	2,725
志願者数	100,580	-2,327	98	102,907	109,170	108,181	105,855	104,558	104,140	91,701	80,128
志願倍率	34.08			34.66	35.95	35.77	36.45	37.46	37.60	33.44	29.40

〔大学別志願状況〕



※前年度を100とする指数

私立大医学部医学科(以下「医学部」)31大学合計の志願者数は、100,580人(98)で前年度よりわずかに減少して、2年連続減少となりました。医学部新設などで入学定員が増加して現役合格率がアップしたことで、既

卒志望者が減少していることから、全体の医学部志望者数が減少していることに加え、理系成績上位の受験生が人気の高まっている理・工系に移ったことも影響しています。

大学別では、東京医科大(199)の倍増が抜き目立ちました。前年度の激減の反動がはっきりと表れましたが、一般方式(198)は前年度の追加合格者受け入れで半減した募集人員が元に戻ったことで、志願倍率はほとんど変わらず、競争は前年度並でした。他の増加した大学では、聖マリアンナ医科大(124)、金沢医科大(116)が大幅増加しました。聖マリアンナ医科大は4年ぶりに増加しましたが、1次試験が2年ぶりの単独実施となったことが要因です。金沢医科大は前年度大幅減少の反動で大幅増加しました。

一方で、杏林大(70)、東海大(75)、昭和大(78)はいずれも1,200人以上の大幅減少でしたが、杏林大は廃止された一般方式の〈後期〉を除くと、(100)の前年度並でした。東海大は前年度大幅増加の反動で、3年連続で大幅な増減となりました。6年間の学費総額が500万円アップの昭和大は4年連続減少となりました。また、岩手医科大(82)は全国から出願可能な〈地域枠C〉を導入しましたが、大学合計での志願者数は大幅減少し、3年連続減少しました。

〔大学別分析〕

※表内の略語・記号は以下を表しています。

「セ」…センター利用方式、「論」…小論文、「面」…面接、「調」…調査書
「□」…方式合計の数値

大学	日程・方式	志願者数増減		2020年度		2019年度		コメント
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
岩手医科大	大学合計	-531	82	85	2,420	90	2,951	<変更点>〈地域枠C(全国枠)>(5人)新規実施 募集人員:〈一般>90人→80人 2次試験の論を段階評価、面を点数化(50点) 大学合計では、531人(82)の大幅減少で、3年連続減少だが、既存の〈一般>(82)は募集人員減少のため、志願倍率は32.8倍→30.1倍と2.8ポイントダウンに留まった。
	一般	-545	82	80	2,406	90	2,951	
	地域枠C	+14	新規	5	14			
東北医科薬科大	一般枠	-98	94	45	1,642	45	1,740	<変更点>1次試験会場に札幌会場追加 論の実施:1次試験→2次試験 4年連続減少。1次試験を1週間早めて、日程重複の他大学は3大学から2大学になったが、前後の日程で1次試験実施大学が多かったことで、減少が継続。
	修学A			35		35		
	修学B			20		20		
国際医療福祉大	大学合計	-171	96	120	3,859	120	4,030	大学合計では、171人(96)のやや減少で、2年ぶりに減少。2方式とも減少したが、センター利用方式(90)は初の減少。
		-61	98	105	2,887	105	2,948	
	セ	-110	90	15	972	15	1,082	
自治医科大		+194	108	123	2,728	123	2,534	3年連続増加。
獨協医科大	大学合計	-113	97	83	3,556	80	3,669	<変更点>〈一般>:論は1次試験から2次試験での実施へ <セ>:2次試験の論除外 募集人員:〈栃木県枠>7人→10人 大学合計では、113人(97)のやや減少で、3年ぶりに減少。〈栃木県枠>(111)は2年連続増加だが、募集人員増加のため、志願倍率は45.6倍→35.5倍とダウン。
		-70	97	58	2,095	58	2,165	
	セ	-79	93	15	1,106	15	1,185	
	栃木県枠	+36	111	10	355	7	206	
	セ						113	
埼玉医科大	大学合計	+163	103	97	5,080	100	4,917	<変更点>〈セ・後期>廃止 募集人員:〈後期>36人→35人 大学合計では、163人(103)のやや増加で、2年ぶりに増加。方式別では、〈前期>(125)は大幅増加で、4年ぶりに増加。1次試験の日程重複の他大学が前年度の北里大、近畿大、川崎医科大から東北医科薬科大、関西医科大になったことが影響。一方で、〈後期>(92)は4年連続減少。
	前期	+394	125	52	1,974	52	1,580	
	後期	-202	92	35	2,259	36	2,461	
	セ	+6	101	10	847	10	841	
	後期	-35	廃止			2	35	
北里大	大学合計	+68	104	74	1,970	84	1,902	<変更点>〈茨城県枠>〈山梨県枠>:指定校推薦での募集に変更 募集人員:〈一般>78人→72人 大学合計では、68人(104)のやや増加で、3年ぶりの増加。前年度大幅減少の反動は小さかった。
		+107	106	72	1,886	78	1,779	
	相模原枠	-21	80	2	84	2	105	
	茨城県枠	-7	指定校推薦に変更			2	7	
	山梨県枠	-11	指定校推薦に変更			2	11	

大学	日程・方式	志願者数増減		2020年度		2019年度		コメント
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
杏林大	大学合計	-1,430	70	113	3,364	111	4,794	<変更点><後期><茨城県枠>廃止 <セ・後期>(5人)新規実施 募集人員:<一般>79人→88人 大学合計では、1,430人(70)の大幅減少だが、廃止の<後期>を除くと、(100)の前年度並。既存の一般方式(106)はやや増加。1次試験での日程重複が前年度の3大学から東海大の1次試験日自由選択の2日目のみになったことが要因だが、募集人員増加のため、志願倍率は23.7倍→23.4倍とわずかにダウン。
		+130	106	88	2,290	79	2,160	
	東京都枠			10		10		
	茨城県枠		廃止			2		
	後期	-1,439	廃止			10	1,439	
	前期	-160	87	10	1,035	10	1,195	
	後期	+39	新規	5	39			
慶應義塾大		-137	91	66	1,391	68	1,528	<変更点>募集人員:68人→66人 最難関大を敬遠する傾向が影響し、2年ぶりに減少。
順天堂大	大学合計	-47	99	127	4,045	135	4,092	<変更点>募集人員:<A方式>61人→63人 <B方式>10人→5人 <セ・一般独自>20人→15人 大学合計では、47人(99)の微減だが、3年連続減少。細かい方式別では、<B方式>(72)は大幅減少だが、募集人員が半減したため、志願倍率は32.3倍→46.6倍とアップ。
	A方式	+61	103	63	2,022	61	1,961	
	B方式	-90	72	5	233	10	323	
	前期	+42	106	10	711	10	669	
	併用	-26	96	15	623	20	649	
	東京都枠	+23	111	10	233	10	210	
	新潟県枠			2		2		
	千葉県枠			5		5		
	埼玉県枠			7		7		
	静岡県枠			5		5		
	後期	-57	80	5	223	5	280	
昭和大学	大学合計	-1,231	78	107	4,419	110	5,650	<変更点>学費改定(6年間総額:2,200万円→2,700万円) 募集人員:<Ⅰ期>78人→75人 大学合計では、1,231人(78)の大幅減少で、4年連続減少。3方式全てが減少し、<Ⅰ期>(74)、<セ・B地域別>(77)は大幅減少。
	Ⅰ期	-923	74	75	2,643	78	3,566	
	Ⅱ期	-225	87	20	1,497	20	1,722	
	B地域別	-83	77	12	279	12	362	
帝京大	大学合計	+913	111	108	9,309	110	8,396	<変更点><研究医枠>:入学後の募集に変更 募集人員:<千葉県枠>5人→2人 *福島県地域枠推薦入試の欠員分を募集 大学合計では、913人(111)の増加で、2年ぶりに増加。志願者数は2年ぶりに9,000人を上回った。一般方式(115)は、1次試験での日程重複の他大学が試験日自由選択の1・2日目、いずれも前年度の3大学ずつから自治医科大学のみになったため、大幅増加。
		+1,098	115	91	8,229	89	7,343	
	福島県枠			* 2	51			
	千葉県枠			2	65	5		
	静岡県枠			2	69	2		
	茨城県枠			1	27	1		
	研究医枠		入学後募集に変更			3		
東海大	大学合計	-1,581	75	78	4,836	78	6,417	大学合計では、1,581人(75)の大幅減少で、3年連続で大幅な増減となった。方式別では、<セ・神奈川県枠>(126)は大幅増加したが、他の3方式はいずれも大幅減少。センター利用方式(82)は大幅減少で、2年連続減少。
	A方式	-1,302	74	60	3,659	60	4,961	
		-261	78	10	903	10	1,164	
	神奈川県枠	+31	126	5	151	5	120	
	静岡県枠	-49	72	3	123	3	172	
東京医科大	大学合計	+1,303	199	90	2,616	52	1,313	<変更点>2次試験の適性検査廃止、論と面を点数化(論60点、面40点) *茨城県地域枠推薦入試の欠員分を募集 大学合計では、1,303人(199)のほぼ倍増。前年度激減の反動だが、それでも2018年度の約68%に留まった。一般方式(198)は前年度追加合格者受け入れで半減した募集人員が元に戻ったことで、競争は前年度並。一方で、センター利用方式(202)は募集人員が約17%増に留まっており、志願倍率は28.9倍→50.0倍と大幅アップ。
		+950	198	75	1,916	38	966	
	茨城県枠			* 1		* 2		
		+353	202	14	700	12	347	

2020 年度入試状況分析【私立大】

大学	日程・方式	志願者数増減		2020年度		2019年度		コメント
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
東京慈恵会 医科大	大学合計	-48	98	110	1,963	110	2,011	<変更点> 英語外部試験成績提出の場合は2次試験の評価の参考にする 2次試験の論、面、調を点数化(論30点、面・調各25点) 大学合計では、48人(98)の微減で、7年連続減少。
		-61	97	105	1,864	105	1,925	
	東京都枠	+13	115	5	99	5	86	
東京女子医科大		-271	84	75	1,390	75	1,661	前年度大幅増加の反動に加え、1次試験が前年度の単独実施から藤田医科大と重複したことで大幅減少。
東邦大	大学合計	+116	104	90	2,789	115	2,673	<変更点> 募集人員: <一般>110人(付属校推薦者含む) → <一般>85人、<付属校推薦>25人 ※<付属校推薦>での入学予定者が25人に満たない場合は<一般>の募集人員に充当 前年度大幅減少の反動で、やや増加。
	一般	+23	104	85	2,696	110	2,673	
	千葉県枠	+93		5	93	5		
日本大	大学合計	-298	93	107	3,681	102	3,979	<変更点> 募集人員: <A方式>92人→97人 2次試験の論、面を点数化(合計で30点) 大学合計では、298人(93)の減少で、2年連続減少。方式別では、<A>(90)は4年連続減少。<N1期>(121)は1次試験で、日程重複する他大学が3大学から2大学になったことに加え、前年度大幅減少の反動で、大幅増加。
	A方式	-376	90	97	3,226	92	3,602	
	N1期	+78	121	10	455	10	377	
日本医科大	大学合計	-80	98	124	4,116	121	4,196	<変更点> <後期>(10人)、<前期・地域枠>(計10人)、<後期・地域枠>(計6人)新規実施 募集人員: <前期>90人→81人 <後期>21人→17人 大学合計では、80人(98)の微減で、2年ぶりに減少。新規実施の<地域枠>を除くと、502人(88)の減少。既存の3方式は全て減少。<前期>(93)はやや減少で、2年連続減少したが、募集人員減少のため、志願倍率は25.4倍→26.3倍とアップ。<後期>(87)は2017年度に導入されてから初めて減少したが、募集人員減少のため、志願倍率は65.5倍→70.6倍とアップ。
	前期	-158	93	81	2,129	90	2,287	
	後期	-174	87	17	1,201	21	1,375	
	前期・埼玉県枠	+124	新規	3	124			
	後期・埼玉県枠			1				
	前期・千葉県枠	+164	新規	4	164			
	後期・千葉県枠			3				
	前期・静岡県枠	+104	新規	3	104			
	後期・静岡県枠			1				
	後期・福島県枠	+30	新規	1	30			
	後期併用	-170	68	10	364	10	534	
聖マリアンナ 医科大		+456	124	80	2,355	85	1,899	<変更点> 募集人員: 85人→80人 2次試験の論、面の配点: 論 110点→50点 面 100点→150点 大幅増加で、4年ぶりに増加。1次試験が2年ぶりの単独実施となったことが要因だが、志願者数は2018年度の70%弱に留まった。
金沢医科大	大学合計	+640	116	75	4,623	75	3,983	<変更点> <前期>: 理科配点・試験時間 200点・120分 →150点・90分 大学合計では、640人(116)の大幅増加。<前期>(125)は前年度大幅減少の反動で、大幅増加。<後期>(103)は2年連続やや増加。
	前期	+598	125	65	3,038	65	2,440	
	後期	+42	103	10	1,585	10	1,543	
愛知医科大	大学合計	-37	99	90	3,416	90	3,453	大学合計では、37人(99)の微減で、2年ぶりに減少。全方式が減少したが、<セ・特別枠B>(92)以外はいずれも(99)の微減。
		-22	99	65	2,360	65	2,382	
	前期	-11	99	15	955	15	966	
	後期	-1	99	5	68	5	69	
	特別枠B	-3	92	5	33	5	36	
藤田医科大	大学合計	+66	102	105	3,204	105	3,138	<変更点> <セ・後期>: 英語外部試験の利用可に 募集人員: <後期><後期愛知県枠><セ・後期> 計15人→各5人 大学合計では、66人(102)の微増で、2年ぶりに増加。方式別では、一般方式(109)が増加、センター利用方式(82)は大幅減少と対照的。
	前期	+110	107	75	1,742	75	1,632	
	前期愛知県枠			5		5		
	後期	+102	114	5	818	□ 10	716	
	後期愛知県枠			5		5		
	前期	-113	84	10	596	10	709	
	後期	-33	59	5	48	□ 10	81	

大学	日程・方式	志願者数増減		2020年度		2019年度		コメント
		増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	
大阪医科大	大学合計	-135	96	109	3,088	109	3,223	<変更点><研究医枠>廃止 募集人員:<前期>85人→82人 <セ>5人→10人 大学合計では、135人(96)のやや減少で、2年ぶりに減少。方式別では、一般方式(99)は微減だが、募集人員減少のため、志願倍率は21.2倍→22.3倍とアップ。センター利用方式(96)はやや減少で、2年連続減少だが、募集人員増加のため、志願倍率は93.2倍→44.9倍と大幅ダウン。
	前期	-15	99	82	1,871	85	1,886	
	地域枠			2		2		
	研究医枠		廃止			2		
	後期	-103	88	15	768	15	871	
	セ	-17	96	10	449	5	466	
関西医科大	大学合計	-30	99	117	3,931	112	3,961	<変更点><セ・後期>(一般・後期との合計で10人)、<新潟県枠>(前期・後期合計で2人)新規実施 募集人員:<前期>86人(地域枠含む)、<後期>6人(地域枠含む)、<セ>10人 →<前期>72人、<地域枠>15人(前期・後期合計)、<後期>10人(<セ・後期>と合計) 大学合計では、30人(99)の微減だが、2年ぶりに減少。新規実施の<セ・後期>を除くと、(98)の微減。
	前期	-254	88	72	1,796	92	2,050	
	前期・新潟県枠			□ 2				
	前期・静岡県枠			□ 8				
	前期・大阪府枠			□ 5				
	後期	+230	150	□ 10	691		461	
	後期・新潟県枠			□ 2				
	後期・静岡県枠			□ 8				
	後期・大阪府枠			□ 5				
	前期	セ -20	98	10	833	10	853	
	後期	セ +49	新規	□ 10	49			
	併用	セ -35	94	10	562	10	597	
近畿大	大学合計	+77	103	70	2,923	85	2,846	<変更点>募集人員:<前期A>65人→55人 大学合計では、77人(103)のやや増加で、6年ぶりに増加。方式別では、<前期A>(93)のみやや減少したが、募集人員減少のため、志願倍率は20.4倍→22.5倍とアップ。
	前期A	-91	93	55	1,236	65	1,327	
	後期	+103	116	5	758	5	655	
	C前期	セ ±0	100	5	600	10	600	
	C中期	セ +53	129	3	236	3	183	
	C後期	セ +12	115	2	93	2	81	
兵庫医科大	大学合計	+66	103	95	2,069	95	2,003	<変更点>1次試験の名古屋会場廃止 <A兵庫県推薦枠>(5人)新規実施 募集人員:<A一般枠>85人→80人 <A>:2次試験の面、調を点数化(計100点) 大学合計では、66人(103)のやや増加で、2年ぶりに増加。<A>の2方式になって2年目だが、(181)が激増、<A>(97)はやや減少と対照的。
	A一般枠	-56	97	80	1,796	85	1,852	
	A兵庫県推薦枠	±0	新規	5				
	B	+122	181	10	273	10	151	
川崎医科大	大学合計	+146	110	74	1,588	76	1,442	<変更点>募集人員:<長崎県枠>6人→4人 大学合計では、146人(110)の増加で、2年ぶりに増加。4方式全てが増加。
		+114	109	50	1,404	50	1,290	
	静岡県枠	+7	111	10	70	10	63	
	岡山県枠	+11	115	10	85	10	74	
	長崎県枠	+14	193	4	29	6	15	
久留米大	大学合計	+277	110	80	2,997	90	2,720	<変更点><福岡県枠>:一般選抜→推薦入試 募集人員:<前期>80人→75人 <前期>:面を点数化(50点) 大学合計では、277人(110)の増加で、4年連続増加。<前期>(114)は増加に加え、募集人員減少もあって志願倍率は22.5倍→27.4倍とアップ。
	前期	+258	114	75	2,056	80	1,798	
	後期	+74	109	5	941	5	867	
	福岡県枠	-55	推薦に変更			5	55	
産業医科大	セ	-252	87	85	1,616	85	1,868	2年連続減少。
福岡大	大学合計	-322	92	70	3,596	80	3,918	<変更点>募集人員:<系統別>70人→60人 <系統別>:2次試験の論、調の点数化廃止 <セ・I期>:2次試験の調の点数化廃止 大学合計では、322人(92)の減少で、4年ぶりに減少。2方式とも減少し、<系統別>(94)は2年ぶりに、<セ・I期>(87)は4年ぶりに減少。
	系統別	-187	94	60	2,729	70	2,916	
	I期	セ -135	87	10	867	10	1,002	

2020 年度入試状況分析【私立大】

〔志願者数が多かった大学〕

大学	志願者数
帝京大	9,309 (108)
埼玉医科大	5,080 (97)
東海大	4,836 (78)
金沢医科大	4,623 (75)
昭和大	4,419 (107)

〔増加数が多かった大学〕

大学	増減数
東京医科大	+1,303
帝京大	+913
金沢医科大	+640
聖マリアンナ医科大	+456
久留米大	+277

〔志願倍率が高かった大学〕

大学	志願倍率
帝京大	86.2
東海大	62.0
金沢医科大	61.6
埼玉医科大	52.4
福岡大	51.4

〔志願者数が少なかった大学〕

大学	志願者数
東京女子医科大	1,390 (75)
慶應義塾大	1,391 (66)
川崎医科大	1,588 (74)
産業医科大	1,616 (85)
東北医科薬科大	1,642 (100)

〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数
東海大	-1,581
杏林大	-1,430
昭和大	-1,231
岩手医科大	-531
福岡大	-322

〔志願倍率が低かった大学〕

大学	志願倍率
東北医科薬科大	16.4
東京慈恵会医科大	17.8
東京女子医科大	18.5
産業医科大	19.0
慶應義塾大	21.1

※いずれも大学合計の数値で算出。()内は募集人員を示す。